

第九條 外國ノ艦船ハ特別ノ事由アルニアラサレハ夜中ニ軍港要港ノ水域ニ入ルコトヲ許サス

第十條 鎮守府司令長官ハ必要ナル場合ニハ在港艦船ニ錨地ノ變換若ハ退去ヲ命スルコトヲ得

第十一條 鎮守府司令長官ハ第一區ニ入り又ハ入ラントスル艦船ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトヲ得

第十二條 凡テ艦船ハ鎮守府司令長官ノ特許アルモノノ外火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ入ルコトヲ禁ス汽罐點火中ノ小蒸汽船其ノ他火氣ヲ有スル一切ノ船舶亦同シ

第十三條 軍港要港境域内ニ於テハ禮砲號砲及鎮守府司令長官ノ許可ヲ受クルモノノ外火器若ハ爆發物ノ發射發火ヲ禁ス但シ公私ノ家屋建造物ヲ距ルコト七十五間以内ニ於テハ禮砲號砲ト雖特ニ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切發射發火ヲ爲スコトヲ許サス

第十四條 第一區、第二區、吳軍港ニ於テハ第一區、第二區及海軍港ニ於テハ第一區、第二區、兵學校前面即チ別圖點三線以内鎮海軍二區及別圖點三線以内ニ於テハ鎮守府司令長官ノ特許ヲ得スシテ漁獵採藻ヲ爲シ又ハ漂流物若ハ沉沒物ヲ拔得スルコトヲ禁ス航路ノ妨害トナリ又ハ水中敷設物アル第三區内ノ水域モ亦前項ニ準ス

第十五條 第一區及第二區及其ノ海岸並之ニ注入スル水流ニハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ禁ス

四 地盤ノ開鑿及埋築

五 森林ノ伐採

六 軍港要港ノ水域内ニ發著スヘキ海運ノ營業

七 漁業權ノ設定

八 浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置

九 第一區、第二區ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以内ニ於ケル家屋、倉庫及諸般ノ築造物ノ新築

第十九條 鎮守府司令長官ノ許可ヲ得スシテ軍港、要港境域内ヲ航空シ又ハ同境域内水陸ノ形狀ヲ測量、攝影、模寫、錄取シ若ハ地理案内等ノ圖書ヲ發行スルヲ禁ス但シ艦船運航ノ際行船ニ必要ナル鐘測ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 鎮守府司令長官ハ軍港、要港境域内ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ニ軍港、要港境域外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 地方長官ハ軍港、要港境域内衛生ノ事ニ關シテハ鎮守府司令長官ニ協議スヘシ

第二十二條 鎮守府司令長官ハ海軍用地ニ接近スル一般公路ニ於テ取縮上必要ナリト認ムルトキハ地方長官ニ協議シ一般人民ノ通行ニ制限ヲ置クコトヲ得

鎮守府司令長官ハ海軍用地ノ内取縮上差支ナシト認ムル區域ニ限リ一般人民ニ通行ヲ許スコトヲ得

第二十三條 軍港、要港ノ境域並其ノ區劃等ヲ表示スル標石、標

トヲ禁ス

鎮守府司令長官ハ必要アリト認ムルトキハ第三區及其ノ海岸ニ物件ヲ委棄ヲ禁シ臨時委棄ノ場所ヲ指示スルコトヲ得

艦船若ハ其ノ委棄スヘキモノヲ自ラ處分スルコト能ハサルトキハ港務部ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

第十六條 鎮守府司令長官ハ軍港要港水域内ニ於ケル有害ナル難破物、委棄物若ハ其ノ他ノ物件ハ原因ノ如何ニ關セズ其ノ義務者ヲシテ之ヲ指定ノ期間内ニ除去セシムルコトヲ得其ノ義務者之ヲ除去セサルトキ若ハ指定ノ期限内ニ終了スル見込ナキトキハ鎮守府司令長官ハ自ラ之ヲ除去若ハ破壊シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ除去若ハ破壊セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得其ノ義務者不明ナルトキハ鎮守府司令長官ハ之ヲ除去若ハ破壊スルコトヲ得

第十七條 軍港要港境域内ノ山林原野ニ於テハ濫リニ焚火スヘカス

第十八條 軍港要港境域内ニ於テ左ニ掲グル諸項ノ新營若ハ變更ヲナサントスルモノアルトキハ地方長官ハ鎮守府司令長官ニ協議シテ之ヲ處理スヘシ

一 棧橋ノ架設、埠頭ノ築造

二 河床ノ變更、河川海面ノ埋立淺濶、海岸ノ掘鑿、海岸ニ於ケル石垣ノ築造

三 道路運河溝渠隧道ノ開通、橋梁鐵道ノ架設

水、標札ノ類若ハ其ノ水域内ニ設クル浮標等ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞スルコトヲ禁ス

第二十四條 軍港、要港ノ取締ニ關スル細則ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム

第二十五條 要港ニ於テハ本則ニ規定セル鎮守府司令長官ノ職務ハ要港部司令官、港務部長ノ職務ハ知港事之ヲ行フ

附則

第二十六條 (削除)

第二十七條 (削除)

第二十八條 本則ハ明治三十三年五月二十日ヨリ施行ス

第二十九條 明治二十九年海軍省令第六號橫須賀軍港規則同年海軍省令第七號吳軍港則同年海軍省令第八號佐世保軍港規則同年海軍省令第十三號竹敷要港規則及同三十年海軍省令第十四號舞鶴軍港規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十條 鎮海軍港ニ在リテハ鎮守府司令長官ノ職務ハ要港部司令官、港務部長ノ職務ハ知港事之ヲ行フ

第三十一條 當分ノ間竹敷要港及永興要港ニハ軍港要港規則ヲ適用セス(大正五年四月一日ヨリ施行)

○鎮海軍港細則

八號ノ四ヲ以テ第六十六條ヲ改正ノ旨通知アリ

第一章 通則

第一條 本細則ニ於テ艦船ト稱スルハ軍艦、驅逐艦、水雷艇、潜水艇其ノ他大小各種ノ船舶、船舟ヲ謂ヒ船舶ト稱スルハ軍艦、驅逐艦、水雷艇、潜水艇ニアラサル排水量十五噸以上ノモノヲ謂ヒ船舟ト稱スルハ排水量十五噸ニ滿タサル汽艇、荷船、浮舟其ノ他一切ノ小舟ヲ謂フ

第二條 海軍所屬艦船十五噸以上ノモノ第一區ニ入ラムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ要港部司令官ニ願出ツヘシ但シ入渠修理等ノ爲第一區内ニ入ルヲ要スルモノハ知港事適宜之ヲ處理スルモノトス

第三條 軍港所在各隊廳所屬ノ艦船ニ限リ排水量十五噸以上ノモノト雖第一區ニ入ルコトヲ許ス但シ知港事ノ指定アルトキハ之ニ從フヘシ

第四條 海軍所屬外ノ船舶第二區以内ニ入ラントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出シ豫メ要港部司令官ノ許可ヲ受ケヘシ其ノ事由官用物品ノ運搬ニアルトキハ其ノ入港願書ニ關係官衛主任官ノ檢印ヲ受ケルヲ要ス

海軍大臣ノ認許ヲ受ケタル船舶及本細則中別ニ通航出入ヲ許シアルモノハ前項願出ノ手續ヲ要セス

第五條 海軍所屬外ノ船舶第二區以内ニ入ラントスルモノノ許否ニ關シテハ知港事ヲシテ之ヲ取扱ハシム其入港願ノ手續ハ前條ニ準スヘシ但シ本細則中別ニ通航出入ヲ許シアルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 第二區沿岸居住民所有ノ船舶ハ當該第二區内ヲ自由ニ出入通航スルコトヲ得但シ第一區ニ入ラントスルトキハ前條ノ手續ヲ行フヘシ

當分ノ内長木浦沿岸ハ第二區ニ準ス

第七條 海軍所屬外ノ船舶船舟ハ軍港水域内ニ出入スルニ當リ知港事職員ノ尋問アラハ一切ノ事由ヲ明示スヘシ

第八條 鎮海要港部所屬艦船ノ外帝國海軍所屬艦船ハ其ノ來港ノ事由及滯泊日限等重ナル事項ヲ速ニ要港部ニ通知スヘシ

第九條 本細則第四條、第五條ノ船舶船舟第一區、第二區ヨリ出テントスルトキハ豫メ知港事ニ届出ツヘシ其ノ入港ノ事由官用物品ノ運搬ニアリシトキハ關係官衛ノ證明ヲ要ス

第十條 必要ナル場合ニ當リテハ艦船ノ第一區、第二區ニ入ルコトヲ拒絶スルコトアルヘク又必要ニ際シ在港艦船ニ錨地ノ變換又ハ退去ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 軍港ノ境域區劃等ヲ表示スル標石、標木、標札又ハ繫船ノ目的ニ供セサル浮標ニ一切觸接スルコトヲ禁ス

第十二條 軍港境域内ニ於テ帝國海軍ノ所用若ハ所用ト思考シ得ル遺失物、埋藏物、漂流物及沈没品ヲ發見シ又ハ拾得シタル者ハ速ニ知港事ニ通知スヘシ

第十三條 軍港境域内ニ在ル海軍所屬ノ機橋埠頭及軍港要港規則第二十三條ニ掲グル諸標等ヲ毀損傾倒シタル者ハ速ニ知港事ニ届出ツヘシ又其ノ毀損傾倒セルヲ發見シタル者ハ知港事ニ通知

スヘシ

第十四條 軍港境域内ニ於テ軍港要港規則第二十條(軍港境域内ニ入り兵備ノ狀況等ヲ視察スル者ノ件)ニ掲グル嫌疑者ヲ發見シタルモノハ何人ニ限ラス其ノ行爲ニ注意シ速ニ要港部ニ届出ツルカ又ハ最近ニ在ル憲兵又ハ警察官ニ通知スヘシ

第十五條 知港事所屬船舟ヲ以テ巡邏船ニ充テ港内ニ警衛巡邏セシム

第十六條 外國軍艦ハ港外ニ於テ演習若ハ操練ヲナスコトヲ得ス第十七條 外國軍艦ノ乗員ハ葬儀執行等ノ場合ニ於テ要港部司令官ノ認許ヲ得タルトキノ外武裝シテ上陸スルコトヲ得ス但シ准士官以上其ノ服裝ニ帶劍ノ制アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 外國軍艦ハ陸上火災ノ場合ニ於テ要港部司令官ノ依頼アルニアラサレハ防火隊ヲ出ササルヲ例トス

第十九條 艦船陸岸ニ繫維、離脱、入渠及出渠後ニ於ケル繫留事業ハ知港事ノ所掌トス但シ該艦船ノ乗員ハ之ニ關シ充分ナル補助ヲナスヘシ

第二十條 艦船浮標ニ繫留中天候其ノ他ノ事故ノタメ其艦船ノ錨ヲ投下セント欲スルトキ他ニ故障アラサルニ於テハ先ツ浮標ニ繫維シアル錨鎖ヲ延ハシ該浮標ヲ維持スル錨ニ害ヲ及ボサザルニ至ツテ其ノ錨ヲ投下スヘシ

第二十一條 艦船浮標ニ繫留ノ儘試運轉ヲ爲ストキハ必ス微速力

土木法規 第三章 港灣 附軍港、要港及要塞地帶

ヲ以テシ繫留錨鎖ヲ緊張スルコトアルヘカラス

第二十二條 第二區以内ニ錨泊又ハ繫留スル艦船ニシテ汽機汽罐等修理ノ爲十二時間以内ニ運航スルコト能ハサル工事ヲ爲サントスルトキハ豫メ著手及竣工期日ヲ知港事ニ通知スヘシ

第二十三條 第一區ニ於テハ知港事ノ承認ヲ得シテ探海拂海及之ニ類スル演習其ノ他錨網等ヲ用キ海中ヲ掃探スヘカラス

第二十四條 艦船ニ於テ其ノ乗員ニ水泳ヲナウシメムトスルトキハ臨時救助艇ニ竿ヲ樹テ之ニ「キスビー」ライフ、ブーイ」ヲ掲ケ其ノ救助艇ト該艦船ノ首尾トヲ接合シタル想像線以内ヲ水泳區域トナスヘシ

陸岸ヨリ水泳ヲ爲ス場合ニハ適用シ得ラルル限リ前項ニ準スヘシ

第二十五條 第一區内ニ於テハ知港事ノ指定スル區域外ニ於テハ水泳スルコトヲ禁ス

第二十六條 艦船ハ第二十四條、第二十五條ノ水泳區域内ヲ運航スルコトヲ得ス

第二十七條 第一區ニ在ル艦船ハ後部ニ二隻以上ノ船舟ヲ繫クヘカラス但シ其ノ艦船ノ幅ヲ超エサル限リ並列シテ繫クコトハ妨ナシ



第二十八條 第一區ニ在ル艦船ハ夜間總テノ短艇ヲ曳キ上ケテ「ス」キンギンプーム」ヲ收メ若ハ擡揚スヘシ又知港事必要ト認ムル場合ニハ書問「ス」キンギンプーム」ヲ出スコトヲ禁スルコトヲ

ルヘシ

第二十九條 陸岸ニ繫維スル艦船ハ知港事ノ承認ヲ得ルニアラサレハ「ス」キンギン「プ」ムヲ出スコトヲ得ス

第三十條 石炭其ノ他海底ニ堆積スヘキ虞アル物件ヲ積卸スルトキハ之ヲ水中ニ墜落セサルコトニ注意スヘシ

第三十一條 物件委棄禁止區域ニ在ル艦船ノ委棄物ヲ蒐集スル爲知港事ヨリ適宜ノ舟ヲ出シテ毎日數回巡回セシム

前項ノ塵受舟ニハ標識トシテ號標  赤ヲ灰燼舟ニハ號標  赤ヲ掲ケシム

艦船ニ在リテハ豫メ委棄物ヲ準備シ置キ前項ノ各舟ヲシテ永ク停留セシムヘカラス

第三十二條 第二區以内ニ入ルヘキ艦船ニシテ日没後到達シタルトキハ日出マテ第三區ニ於テ航路ヲ避ケ假泊スヘシ但シ知港事ヨリ錨地ノ指定ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 艦船第二區以内ヲ運航スルトキハ他艦船ニ危害ヲ加フルカ如キ速力ヲ用フヘカラス

第三十四條 軍港水域ニ於テ曳航チナスニハ特ニ知港事ノ許可ヲ得タルトキノ外ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 端舟及荷舟ヲ曳クトキハ曳船ノ船尾ヨリ最後ノ被曳船ノ船尾ニ至ル迄ノ距離ハ晝間ニ在リテハ六十間、夜間ニ在リテハ二十間ヲ超ユヘカラス
- 二 端舟及荷船ハ前號ノ距離ヲ超エサル限リハ二隻ツツ並列シ

テ曳クコトヲ得

第三十五條 二隻以上ノ艦船同時ニ第二區以内ニ進入セムトスルトキハ錨地ノ指定ヲ受ケタル順次ニ從ヒ一隻錨泊若ハ鑿留ヲ了ルマテ他艦船ハ第三區ニ待合スヘシ但シ指定ノ錨地隔絶シテ艦船ノ操縦上危險ヲ生スル虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 二隻以上ノ艦船第二區以内ヨリ同時ニ出テントスルトキハ港口ニ近キモノ先ツ第三區ニ出ツヘシ

第三十七條 艦船第二區以内ニ入ラントスルニ當リ出テ來ル他ノ艦船アルトキハ一時第三區ニ停留シテ待合スヘシ

第三十八條 艦船ハ天災其ノ他不時ノ事故ニ應スル爲錨泊ニ在リテハ豫備錨ニ錨鎖ヲ附著シ單錨泊又ハ浮標ニ鑿留スル場合ニ在リテハ大錨投下ノ準備ヲナシ置クヘシ

第三十九條 海軍所屬外ノ船舶ニシテ第二區以内ニ入ラントスルモノハ豫メ入港ノ許可ヲ得タルモノト否トテ論セス第三區内航路ノ妨トナラサル所ニ於テ萬國船舶信號P D旗ヲ掲ケルカ若ハ其ノ他ノ方法ニ依リ指揮ヲ待ツヘシ

第三章 上陸場其ノ他陸岸ニ關スル事項

第四十條 上陸乗船ニ關シテハ左ノ規定ニ據ルヘシ

- 一 縣河橋(ピラミット形倉庫前)ヲ一般ノ上陸乗船場ト定ム
- 一 防備隊、知港事及修理工場前埠頭ハ公用及特許ヲ得タルモノノ外上陸乗船ヲ許サス

第四十一條 埠頭ニハ上陸乗船若ハ物件積卸ノトキノ外船舟ヲ繫

維スヘカラス

第四十二條 軍港境域内ハ標札ヲ以テ制限シタル事項ニハ違背スルコトアルヘカラス

第四十三條 第一區沿岸ニ於テハ該沿岸使用ノ關係官衙ノ承認ヲ得シテ端舟ヲ陸揚シ又ハ物品ヲ集積スヘカラス

第四十四條 第一區、第二區ノ島嶼ニハ公務ノ外知港事ノ許可ナクシテ繫船若ハ上陸スヘカラス

第四章 通信信號ニ關スル事項

第四十五條 本細則第八十七條ニ依リ臨時ニ清水ヲ請求スル場合ニ於テハ萬國船舶信號Y R旗ヲ見易キ所ニ掲ケヘシ知港事見張所ニ於テハ同一ノ旗ヲ掲ケ應諾ノ證トス又直ニ其ノ請求ニ應ジ難キトキハ之ヲ半掲ス

第四十六條 在港艦船ニ於テ本細則第八十六條及第八十七條ニヨリ使用船舟ヲ曳ク爲知港事所屬ノ小蒸汽船ヲ招致セムトスルトキハ萬國船舶信號Y P旗ヲ見易キ所ニ掲ケ夜間ハ青白二燈ヲ上

下ニ連掲スヘシ
第四十七條 艦船ニ於テ委棄物ノ量夥多ニシテ第三十一條ノ舟之ニ應スルニ足ラス更ニ舟ヲ要スルトキハ萬國船舶信號Y M旗(塵受舟呼)若ハY J旗(灰燼舟呼)ヲ掲ケヘシ知港事見張所ニ於テ同一ノ旗ヲ掲ケテ應諾ノ證トス若シ直ニ其ノ要求ニ應ジ難キトキハ之ヲ半掲ス
第四十八條 艦船軍港水域ニ於テ火災又ハ非常ノ場合ニ遭遇シ救

護ヲ要スルトキハ船鐘ヲ連打シ且晝間ハ萬國船舶信號N C旗ヲ掲ケ夜間ハ絶エス赤燈ヲ上下シ且號火ヲ點スルカ又ハ火箭ヲ掲ケヘシ

第四十九條 知港事ニ通信船ヲ置キ第二區以内ニ在船セル艦船ヘ陸上各艦ヨリノ文書及其ノ他輕易ノ物品ヲ送達セシム通信船ニハ船首ニ白地ニ赤ノ蛇ノ目ヲ畫キタル三角形ノ旗ヲ掲ケ

第五十條 長九味山ニ見張所ヲ置キ知港事ニ屬セシメ軍港内海上ノ監視及海陸ノ通信ニ任セシム

第五十一條 艦船ヨリ見張所ニ向ツテ信號チナスニハ萬國船舶信號D旗ヲ掲ケヘシ

第五十二條 艦船ヨリ陸上各部ニ通信チナサントセハ第五十條ニ記スル見張所ニ信號ヲ以テスヘシ

見張所ハ直ニ電話ヲ以テ之ヲ取次ケモノトス

第五十三條 總テ艦船隊等ニ於テ備入レタル小舟ニハ見易キ一定ノ旗章ヲ掲ケシムヘシ但シ豫メ此ノ旗章ヲ知港事ニ通知シ置クヲ要ス

第五章 爆發物其ノ他取締ニ關スル事項
第五十四條 公務ノ外何人ト雖要港部司令官ノ許可ナクシテ火藥庫及防禦營造物ニ接近スヘカラス

第五十五條 爆發物若ハ燃燒シ易キ物件ヲ積載スル艦船ハ要港部司令官ノ許可ナクシテ第一區ニ進入スルコトヲ得ス但シ海軍所

屬艦船ハ此ノ限リニ在ラス

第五十六條 海軍所屬艦船入渠ニ際シテハ彈丸ハ重量輕減ニ必要ナル數量ヲ又火藥類ハ全部卸スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ要港部司令官ノ許可ヲ得テ火藥類ハ之ヲ卸ササルコトヲ得海軍所屬外ノ艦船入渠又ハ陸岸ニ繫維セントスルトキハ特ニ要港部司令官ノ許可アルニアラサレハ第一區ニ入ラサル以前ニ於テ總テノ危險物ヲ卸スヘシ

第五十七條 軍港水域ニ於テ左記各號ノ一ニ該當スル艦船ハ航行

一 艦船ニシテ制規ノ格納所以外ニ爆發物其ノ他危險物ヲ積載スルモノ

二 現ニ爆發物其ノ他危險物ヲ積卸スル艦船

三 爆發物其ノ他危險物ヲ積載スル船舶、船舟、船橋ヲ備ヘサル船舟ハ長竿ニB旗若ハ赤燈ヲ附著シテ之ヲ樹ツヘシ

第五十八條 前條ノ艦船第二區以內ニ進入セントスルトキハ特ニ要港部司令官ニ顯出ツヘシ但シ本細則第四條及第五條ニ依リ入港願出ノ事由爆發物其ノ他危險物ノ運搬ニ在ルトキハ本條ノ願出ヲ要セス

第五十九條 船舶信號用ノ爲ニ備フル火藥、雷管、火箭、號火、救命、火災等ニシテ安全ナル方法ヲ以テ適當ニ格納シアルモノ

第六十四條 火藥、彈丸等ヲ運搬スル汽船ハ要港部司令官ノ承認ヲ得タルモノニ限リ火藥庫ヲ距ル百三十間以內ノ埠頭若ハ海岸ニ著船スルコトヲ許ス

第六十五條 第一區ニ於テハ爆發物其ノ他ノ危險物ヲ積卸スルニハ其ノ目的ニ供シタル棧橋若ハ埠頭ヨリスヘシ若シ必要アリテ他ノ場所ニ於テ積卸チナサントスルトキハ要港部司令官ノ承認ヲ受ケヘシ

第六十六條 本細則ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒、扶斯、A型パラチアス、B型パラチアス、痘瘡、發疹室扶斯、猩紅熱、實布の利亞、「バースト」、再歸熱、流行性腦脊髄膜炎及麻疹ヲ謂フ

第六十七條 軍港ニ入ル艦船ハ投錨後直ニ艦内衛生ノ狀況ヲ要港部司令官ニ報告スヘシ但シ投錨後七日以內ニ再ヒ入艦シ同港内衛生ノ狀況ニ異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 軍港水域及之ニ注入スル河流溝渠ハ勿論其ノ他軍港境域内何レノ場所ト雖傳染病者ノ排泄物、病毒汚染ノ疑アル物品及其ノ他健康ニ害アル一切ノ物件ヲ投棄スルコトヲ禁ズ

第六十九條 軍港水域ニ於テ急死者アルトキハ左ノ各號ニヨルヘシ

ハ本細則第五十五條乃至第五十八條ニ依ルノ限ニ在ラス

第六十條 第一區ニ於テハ特ニ要港部司令官ノ命アルニアラサレハ砲及銃砲等一切ノ火器ヲ使用スルコトヲ得ス

第六十一條 軍港境域内ト雖左記各號ノ區域ヲ除クノ外鑛業、土工及狩獵ノ目的ヲ以テスルモノニ限リ法律規則ノ制限内ニ於テ火器若ハ爆發物ノ發射發火ヲナスコトヲ得但シ狩獵ハ場合ニ依リ之ヲ停止スルコトアルヘク又其ノ鑛業及土工ノ爲山岡地盤ノ掘鑿ヲナスモノハ軍港要港規則第十八條ニ依リ地方長官ヘノ願書ニ其ノ事ヲ附記スルヲ要ス

一 第一區、第二區ノ水面

二 第一區、第二區ノ沿岸ヨシテ水面ヲ距ル七十五間以內ノ陸地

三 海軍用地及之ヲ距ル七十五間以內ノ陸地及水面

四 火藥庫ヲ距ル百三十間以內ノ陸地及水面

五 特ニ禁制ノ揭示アル場所

第六十二條 前條各號ノ區域ヲ除キタル軍港境域内及練兵場ニ於テハ他ニ危險ヲ及ボササル充分ナル安全ヲ保テ演習ノ目的ヲ以テスルモノニ限リ銃砲、水雷其ノ他爆發物ノ發射發火ヲ爲スコトヲ得但シ豫メ要港部司令官ニ顯出スヘシ

第六十三條 火氣ヲ有スル船艇等ハ萬國船舶信號B旗ヲ掲ケル艦船ノ近傍ヲ通航スル場合ニハ風下少クモ二十間以上ノ距離ヲ保ツヘシ

一 海軍所屬ノ艦船ニ在リテハ軍醫官若ハ士官ヲ直ニ要港部ニ派シ其ノ實況ヲ報告セシムヘシ

二 海軍所屬外ノ船舶船舟ニ在リテハ其ノ實況ヲ要港部及地方警察署ニ届出ツヘシ

第七十條 海軍所屬外ノ船舶第一區、第二區ニ於テ急病者アルトキハ速ニ見張所ヲ介シテ要港部ニ届出ツヘシ

第七十一條 軍港水域内ニ在ル海軍所屬ノ艦船内ニ虎列刺、痘瘡「バースト」發生シタルトキハ直ニ其ノ旨信條ヲ以テ要港部ニ報告シ書問ハ萬國船舶信號Q旗ヲ掲ケ夜間ハ紅白二燈ヲ上下ニ連掲シ一切ノ交通ヲ遮斷シ要港部ヨリ派遣スル軍醫官ノ臨檢ヲ受ケ要港部司令官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第七十二條 軍港水域ニ在ル海軍所屬ノ艦船内ニ前條以外ノ傳染病發生シタルトキハ直ニ其ノ旨信條ヲ以テ要港部ニ報告シ軍艦ニ在リテハ軍醫官ヲ要港部ニ派シ其ノ實況ヲ報告セシムヘシ

第七十三條 軍港水域ニ於テ艦船所屬ノ船舶船舟内ニ傳染病患者若ハ同病死者アルトキハ其ノ屬スル艦船廳ハ前二條ニ準シ其ノ手續ヲナスヘシ

第七十四條 軍港水域ニ於テ海軍所屬外ノ船舶船舟内ニ傳染病患者若ハ同病類似ノ患者並ニ同病死者アルトキハ其關係者ハ勿論

之ヲ目撃シタル者若ハ之ヲ聞知シタルモノハ直ニ要港部憲兵若ハ最近ノ警察官ニ通知スヘシ

要港部ニ於テハ必要ト認ムル場合ニハ軍醫官ヲ派シ臨檢セシメ又其船舶船舟ノ消毒方法ニ關シ地方警察官若ハ檢疫關係吏員ト協議セシムコトアルヘシ

第七十五條 軍港ニ來航スル艦船ニシテ現ニ虎列刺、痘瘡、トベスト患者若ハ同病死者アルモノ、同病患者若ハ死者アリタルモノ又ハ同病流行地ヲ發シ或ハ經由シ若ハ同病毒ニ汚染シタル他ノ艦船ト交通シタルモノニシテ消毒ヲ畢ラサルモノハ港外三海里ノ地ヨリ晝間ハ萬國船舶信號Q旗ヲ掲ケ夜間ハ紅白二燈ヲ上下ニ連掲シ第三區ニ假泊シ交通ヲ遮斷シ要港部ヨリ派遣スル軍醫官ノ臨檢ヲ受ケ要港部司令官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第七十六條 前條ニ該當スルモノニシテ其ノ既ニ檢疫及消毒ヲ了リタルモノト雖第三區ニ假泊シ信號又ハ他ノ方法ヲ以テ其ノ旨ヲ要港部ニ届出テ要港部ヨリ派遣ノ軍醫官ニ檢疫濟若ハ消毒濟ノ證ヲ示シ要港部司令官ノ指揮ヲ受クヘシ但シ派遣軍醫官ニシテ必要ト認ムル場合ニハ臨檢スルコトアルヘシ

第七十七條 軍港ニ來港スル艦船ニシテ現ニ第七十五條以外ノ傳染病患者若ハ同病死者アルモノハ投錨後直ニ其ノ旨ヲ要港部ニ届出テ要港部司令官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第七十八條 軍港地方ニ於テ傳染病流行ノ際來航スル艦船ニ地方ノ不健康ヲ知ラシムル爲知港事ヲシテ該艦船ノ投錨後約十分間

長九味山見張所信號竿ニ晝間ハ萬國船舶信號Q旗ヲ掲ケシメ夜間ハ紅白二燈ヲ上下ニ連掲セシム

第七十九條 艦船消毒隔離ノ爲駐泊スル所ハ知港事之ヲ指定ス第八十條 總テ消毒並ニ隔離ヲ要スル艦船ハ晝間ハ萬國船舶信號Q旗ヲ掲ケ夜間ハ紅白二燈ヲ上下ニ連掲スヘシ

第八十一條 本細則ニヨリQ旗及紅白二燈ヲ掲クヘキ艦船ノ乘員要港部司令官ノ命令若ハ許可ヲ得テ要港部ニ至ルトキハ左ノ各號ニ據ルヘシ

一 乗用船舟ニハ晝間ハ萬國船舶信號Q旗ヲ掲ケ夜間ハ紅白二燈ヲ上下ニ連掲スヘシ

二 乗用船舟員ハ一切上陸セシムヘカラス又他ノ艦船員ト交通セシムヘカラス

第八十二條 本細則ニヨリQ旗及紅白二燈ヲ掲クヘキ場合ニ當リ其ノ準備ナキ船舟ハ標札ヲ掲ケルカ其ノ他適當ノ方法ヲ以テ之ニ換ユルコトヲ得

第八十三條 軍港境域内ニ在ル海軍諸官衛等ハ出來ル限リ本細則ノ規定ニ準據スヘシ

第八十四條 本細則ノ規定ニ違反シタルモノヲ認ムルカ或ハ違反者アルコトヲ聞知セル者ハ速ニ要港部憲兵若ハ警察官ニ通知スヘシ

第八十五條 軍港、要港規則第二十一條ニ依リ軍港境域内衛生ノ事ニ關シ地方長官ヨリ要港部司令官ニ協議スヘキ重ナル事項ハ

左ノ如シ

一 各種傳染病ノ豫防並ニ消毒ニ關スル事項

二 上水、下水、溝渠、公共厠園及芥溜ノ新設、改修、存廢、ニ關スル事項

三 魚市場、屠獸場、家畜營業及飼養場、遊廓、墓地、火葬地ノ新設、存廢ニ關スル事項

四 各種興行場、公園、傳染病院 傳染病隔離所等並ニ之ニ類似ノモノノ新設、存廢ニ關スル事項

五 諸工業場ニシテ軍港境域内ノ河川流水ヲ使用スルモノ並ニ衛生上ニ關係ナシ及ホスヘキモノノ新設、存廢等ニ關スル事項

六 前諸號ノ外一般公衆ノ衛生ニ關スル事項

第七章 雜則

第八十六條 艦船若ハ諸官廳ニ於テ軍港内ニ於テ汽艇、運搬船、曳船又ハ通船等ヲ要スルトキハ前日迄ニ知港事ニ請求スヘシ但シ臨時至急ヲ要スル場合ニハ隨時此ノ手續ヲナスコトヲ得

第八十七條 海軍所屬艦船ニシテ清水ヲ要スルトキハ前日迄ニ其ノ數量並ニ飲用或ハ汽罐用ヲ區別シ知港事ニ請求スヘシ但シ臨時至急ヲ要スル場合ニハ隨時此ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第八十八條 第二區以内ニ於テ營業スル備船舟ハ本細則第五條ニ依リ知港事ニ願出テ其ノ指示ヲ受クヘシ

第八十九條 艦船廳等ニ於テ小舟備入ヲ要スルトキハ前條ニ基キ既ニ知港事ノ許可ヲ受ケタルモノヲ備入ルルヲ例トス

土木法規 金三章 港 灣 附軍港、要港及要塞地帶

○軍港、要港ニ關スル件

明治二十三年一月十六日 法律第二二號

朕軍港要港ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍港要港境域内ニ所在ノ人民及出入スル艦船ハ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ從フヘシ但シ海軍大臣ニ於テ軍港要港規則ヲ定ムルトキハ内務大臣農商大臣ト協議スヘシ

(明治四十三年十二月二十六日勅令第四百五十五號ヲ以テ四十四年一月一日ヨリ朝鮮ニ施行セラル)

○軍港要港規則違犯者處分ノ件

明治二十三年九月十三日 法律第八三號

朕軍港要港規則違犯者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(明治四十三年十二月二十六日勅令第四百五十五號ヲ以テ四十四年一月一日ヨリ朝鮮ニ施行セラル)

○要塞地帶法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

大正二年九月二十三日 勅令第二八四號

要塞地帶法ノ第十八條及第二十八條ヲ除キ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○要塞地帶法

明治三十二年七月十五日
法律第一〇五號

第一章 總則

第一條 要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條 要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以內ニ於テ之ヲ定ム

第三條 要塞地帶ハ陸地ト海同トナ間ハス之ヲ三區ニ分テ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ並之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港、要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣、海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ二百五十間以內及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以內

第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以內

第四條 要塞司令官、鎮守府司令長官、要港部司令官及築城部本部長ハ要塞地帶ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帶內及第七條第二項ノ區域內何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸軍用地ニ出入セシメントスルトキハ五ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域內ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令長官要港部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條、第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以內ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶內水陸ノ形狀ヲ測量、攝影、複寫、錄取スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以內ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

第八條 要塞司令官ハ要塞地帶內ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帶ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞地帶內ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

下官僚ヲシテ要塞地帶內及第七條第二項ノ區域內何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸軍用地ニ出入セシメントスルトキハ五ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域內ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令長官要港部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條、第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以內ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶內水陸ノ形狀ヲ測量、攝影、複寫、錄取スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以內ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

第八條 要塞司令官ハ要塞地帶內ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帶ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞地帶內ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 第一區內ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
- 二 浴室及固定竈爐
- 三 不燃質物ヲ以テ築造セル高さ二尺ヲ超ユル諸般ノ築造物
- 第十一條 第一區內ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ
 - 一 埋葬地
 - 二 水車及風車
 - 三 井
 - 四 容易ニ他ニ移動スヘカラサル機器器具ヲ備フル家屋
 - 五 生垣及木造ノ圍牆
 - 六 第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫
- 第十二條 第二區內ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ
 - 一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
 - 二 埋葬地
 - 三 不燃質物ヲ以テ築造セル高さ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物
- 第十三條 第一區、第二區內ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋內ト屋外トヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ
 - 一 第一區內ニ於テハ高さ五尺、第二區內ニ於テハ高さ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石炭類

二 第一區內ニ於テハ高さ一丈三尺、第二區內ニ於テハ高さ一丈七尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條 第一區、第二區內ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋、倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス

第十五條 各區內ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土、開鑿等
- 二 溝渠、鹽田、排水及灌水
- 三 公園、育樹場、竹木材、菓園及桑茶畑
- 四 耕作地

第十六條 各區內ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第十七條 本章ノ禁止制限ニ違背シ新設、改築、増築變更シタル家屋、倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルモノハ之ヲ復舊セシメ期限內ニ除去復舊セサルトキ若ハ其ノ期限內ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルトキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅ニ次キ先取權ヲ

有ス

本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘシ

第十八條 地帶ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十九條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限リ特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十條 本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニシテ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合若ハ軍港、要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地力海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳力此ノ法律ニ揭クル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第二十一條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條、第九條、第十一條乃至第十五條ニ掲グル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十六條ニ掲グル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ十一日以上二年以下ノ「重禁錮」又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ「未遂犯罪」ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條 第十條乃至第十三條、第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀損シタル者ハ十一日以上二月以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 要塞地帶創設告示ノ當時家屋、倉庫築造物等ノ新設變更、改築、増築中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス

第二十八條 要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測量標條例ノ規定ヲ準

用ス

第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨グルコトナシ

第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限リ其ノ效力ヲ失フ

第三章 罰則

第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ十一日以上二年以下ノ「重禁錮」又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ「未遂犯罪」ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條 第十條乃至第十三條、第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀損シタル者ハ十一日以上二月以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 要塞地帶創設告示ノ當時家屋、倉庫築造物等ノ新設變更、改築、増築中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス

第二十八條 要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測量標條例ノ規定ヲ準

用ス

第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨グルコトナシ

第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限リ其ノ效力ヲ失フ

○要塞地帶法施行規則 明治三十三年六月十六日 陸軍省令第四四號

改正 明治三十四年 大正三年五月二十日 大正四年七月八日 省令第一五號 省令第七號 省令第九號

第一條 要塞地帶法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬、煉瓦、石、土及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路橋梁ト稱スルハ國道、縣道及道幅三間以上ノ公共道路及此等ノ路線ニ架設スル橋梁ヲ謂フ

第二條 左ニ掲グル事項ハ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一 港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測

二 土地ノ丈量但シ地目地類ノ證換、土地分合、境界査定、家屋、倉庫ノ新設、變更並本項第四號乃至十一號ニ掲ケル作業ニ要スルモノニ限ル

三 檢證ノ爲相當官憲ノ行ヲ測量、模寫、撮影、錄取

四 長サ百間ヲ超エサル生垣及木造ノ圍牆ノ新設、變更

期限

三 要塞地帶法第十條(解除シタル事項ニ限ル)乃至第十二條並第十五條及第十六條(解除シタル事項ニ限ル)ニ掲グルモノニアリテハ其ノ目的、設計、位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲グルモノニ在リテハ其ノ器械器具設備ノ設計及其ノ位置共

四 要塞地帶法第十三條ニ掲グルモノニ在リテハ累積物ノ種類累積ノ目的、位置、高さ並期間
要港地帶法第十四條ニ依リ許可ヲ得ムトスルモノハ前項ニ準

第五條 陸軍大臣ノ許可ヲ得ムトスル者ハ工事ノ種類、設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該要塞司令官ヲ經由シテ陸軍大臣ニ願出ツヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス

第六條 府、縣、郡、市、町、村、水利組合其ノ他公共團體並社團法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ願出ツヘシ
府、縣、郡、市、町、村水利組合其ノ他公共團體ヨリ出願スル場合又ハ要塞地帶法第七條中撮影、模寫、錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ第四條ノ與書ヲ要セス

第七條 許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノハ先ツ其ノ許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第十五條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○要塞地帶法施行規則

明治三十三年六月十六日
海軍省令第一六號
改正 明治三十四年 大正三年五月二十日 大正四年七月八日
第一〇號第一四號 海軍省令第六號 海軍省令第七號

第一條 要塞地帶法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬、煉瓦、石、土及之ニ準スヘキモノヲ謂フ道路ト稱スルハ國道、縣道及道幅三間以上ノ公共道路ヲ謂フ橋梁ト稱スルハ道路ヲ交續スル爲架設スルモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲グル事項ハ要塞地帶法ニ依リ許可ヲ受クルヲ要セス但シ海軍大臣ノ告示スル區域及事項ニ就テハ此ノ限ニ在ラス
一 港灣ニ出入メシ船舶ノ航行ニ必要ナル錘測
二 土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換、土地分合、境界査定、家屋、倉庫ノ新設、變更並本項第四號乃至第十一號ニ掲グル作業ニ要スルモノニ限ル

三 檢證ノ爲相當官憲ノ行フ測量、模寫、攝影、錄取
四 長さ百間ヲ超エサル生垣及木造ノ圍牆ノ新設變更
五 不燃質物ヨリ成ラサル建坪五十坪以下ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ火藥庫ノ近傍ニ在リテハ其ノ外圍ヨリ外方五十間以外ノ場合ニ限ル

六 面積三百坪以下ニシテ第一區ニ在リテハ高低二尺、第二區、第三區ニ在リテハ高低三尺ヲ超エサル堆土、開鑿等
七 宅地内ニ於テスル築山泉水等ノ新設變更

第八條 前諸條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス
許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス携帶シ何時ニテモ憲兵、衛戍職務ノ軍人、當該要塞司令官部 對馬ニ在リテハ 警備隊司令官部 職員及警察官吏ノ閱覽ニ供スヘシ

第十條 許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再下付ヲ願出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テハ同時ニ最寄警察官署又ハ憲兵隊分隊、分遣出張所ニ其ノ旨ヲ届出テ作業ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條 許可ヲ受ケタル作業者ハ作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲クヘシ但シ要塞地帶法第七條及第九條ニ掲グルモノニアリテハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ハ之ヲ取纏メ毎月末日ヲ以テ當該要塞司令官ニ報告スヘシ
第十三條 許可證ヲ所持スヘキ者ニシテ當該官ノ閱覽ヲ拒ミタル者ハ二圓以上十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十四條 本則ハ陸軍防禦營造物ノ地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ヲ除キ總テノ要塞地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ニ關シテ之ヲ適用ス

八 不可抗力ニ由リ變更シタル土地物件ヲ原狀ニ復スル作業

九 深サ幅各六尺ヲ超エサル溝渠、排水、灌水ノ新設變更

十 竹木林ノ伐採

十一 面積五百坪ヲ超エサル育樹場、果園、桑茶畑、鹽田及耕作地ノ新設變更

第十三條 鎮守府司令官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ得ントスル者ニ左ニ掲グル事項ヲ記シ其ノ作業地(航空ノ場合ニ在リテハ其ノ發着場)ヲ管轄スル市町村長(朝鮮ニ在リテハ警察署長、同分署長又ハ警察事務ヲ取扱フ憲兵分隊長、憲兵分遣所長)ノ與書ヲ得テ當該鎮守府司令官若ハ要港部司令官ニ願出ツヘシ

一 要塞地帶法第七條ニ掲グルモノハ其ノ目的、區域及期限但シ航空ノ場合ニ在リテハ使用スヘキ航空機ノ種類及型式共
二 同法第九條ニ掲グルモノハ漁獵、採藻ノ區域及期間、艦船繫泊ノ位置及期間、土砂掘鑿ノ區域、方法及期限
三 同法第十一條、第十二條、第十四條及第十五條ニ掲グルモノハ其ノ目的、設計、位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲グルモノハ其ノ器械器具ノ位置及設計ヲ詳記スルヲ要ス

四 同法第十三條ニ掲グルモノハ累積物ノ種類、累積ノ目的、位置、高さ並期間

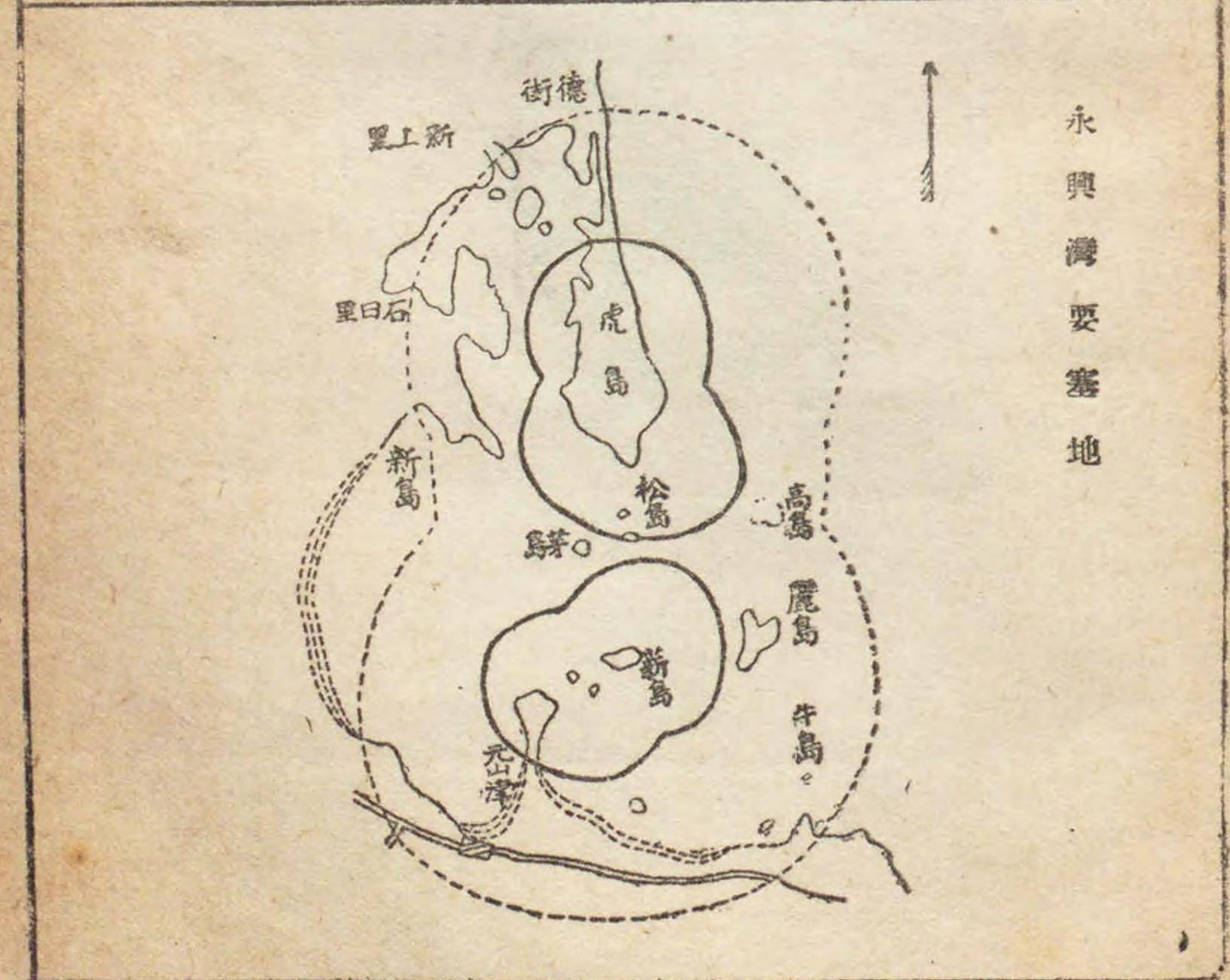
第十四條 要塞地帶法第十條、第十六條ノ事項ノ禁止ヲ解除シタル場合ニハ仍ホ本則第三條、第五條ノ規定ヲ適用シ鎮守府司令長

官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス
 第五條 海軍大臣ノ許可ヲ得ントスルモノハ工事ノ種類、設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ヲ經由シテ海軍大臣ニ願出ツヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス
 第六條 府、縣、郡、市、町、村、水利組合其ノ他公共團體並社團法人ニ在テハ其ノ代表者ヨリ願出ツヘシ
 前項ノ場合又ハ要塞地帶法第七條中攝影、模寫、錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ本則第三條ノ與書ヲ要セス
 第七條 許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ受ケルヲ要スルモノハ先ツ其ノ許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス
 第八條 前諸條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ津用ス
 第九條 許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス
 許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス之ヲ携帶シ其ノ地點ヲ警衛スル軍人軍屬憲兵及警察官吏ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ閱覽ニ供スヘシ
 第十條 許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再交付ヲ願出ツヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ同時ニ其ノ旨ヲ最寄警察官吏又ハ憲兵ニ届出テ其ノ承認ヲ得テ作業ヲ繼續スルコトヲ得
 第十一條 許可ヲ受ケタル作業者ハ作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記

シタル標札ノ類ヲ掲グヘシ但シ要塞地帶法第七條及第九條ニ掲グルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第十二條 許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長（朝鮮ニ在リテハ警察署長、同分署長又ハ警察事務ヲ取扱フ憲兵分隊長、憲兵分遣所長）ニ届出ツヘシ市町村長（朝鮮ニ在リテハ警察署長、同分署長又ハ警察事務ヲ取扱フ憲兵分隊長、憲兵分遣所長）ハ之ヲ取纏メ毎月末日ヲ以テ當該鎮守府司令官若ハ要港部司令官ニ報告スヘシ
 第十三條 許可證ヲ所持スヘキ者ニシテ當該官吏ノ閱覽ヲ拒ミタル者ハ二圓以上十圓以下ノ科料ニ處ス
 附則 第五條ノ規定ハ其ノ旨ニ依リ之ヲ適用ス
 第十四條 本則ハ海軍防禦營造物ノ地帶及要港地帶法第七條第二項ノ區域ニノミ之ヲ適用ス
 第十五條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス
 ○要塞地帶圖 大正三年十一月二十一日 陸軍省海軍省告示

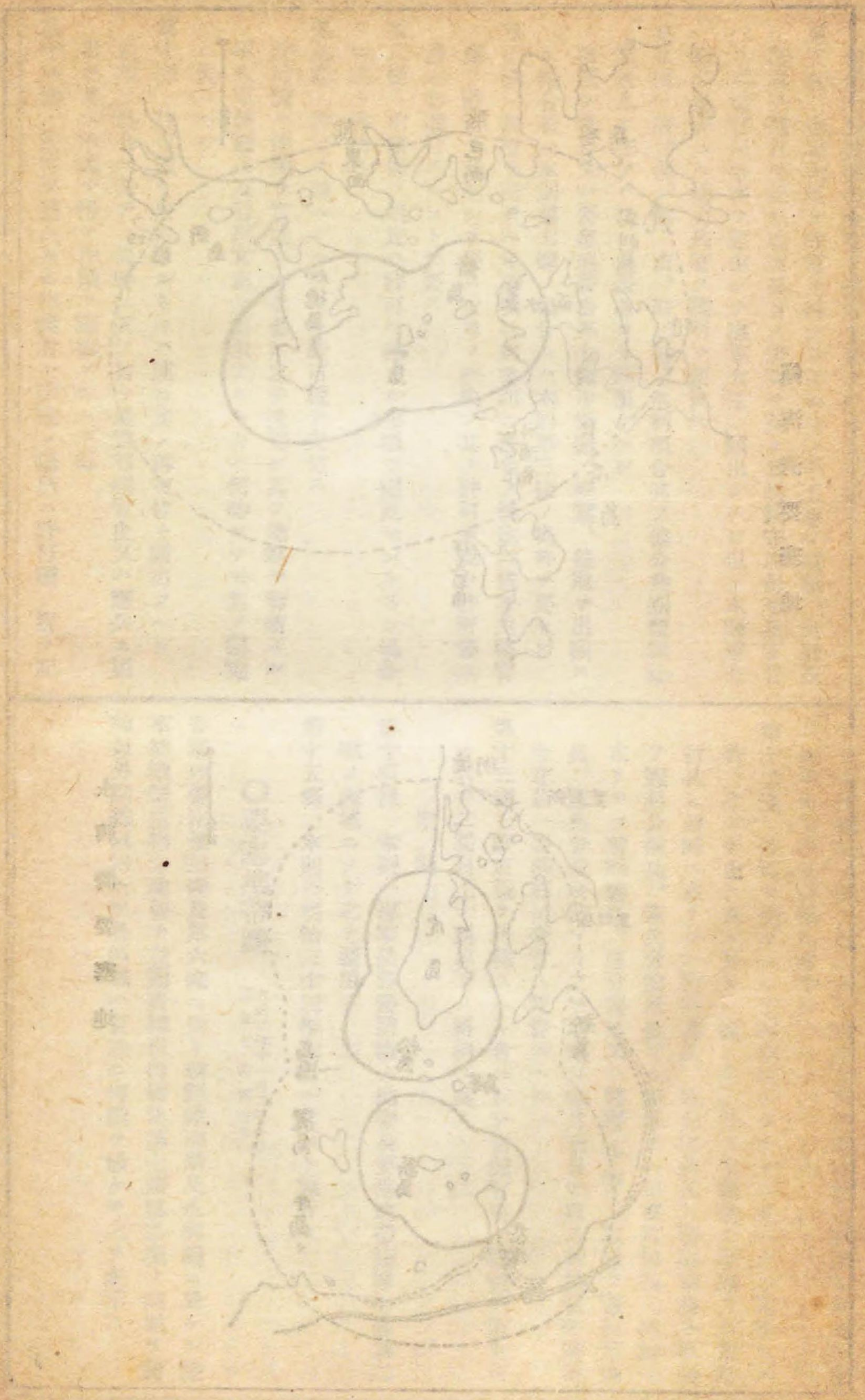


鎮海灣要塞地



永興灣要塞地

第四章 上水及下水



○水道ニ關スル件

大正四年九月十四日
勅令第五〇號

水道ニ關スル件左ノ通定ム
府 道 長 官 尹

- 第一條 公衆ニ給水スル爲地方費又ハ府ニ於テ水道ヲ敷設セムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル目論見書及圖面ヲ具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ其ノ計畫又ハ設計ノ變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ
 - 一 水道事務所ノ位置
 - 二 水源ノ位置別及河川、池湖又ハ掘井ノ並其ノ圖面、源水分折表及水量ノ概算
 - 三 貯水池、唧水場、唧水場ノ位置及水道線路ノ經過地並其ノ圖面
 - 四 給水區域及其ノ區域内ノ戸口、豫定給水量、豫定給水人口並將來ニ於ケル給水量増加ノ見込
 - 五 水壓ノ概算
 - 六 工事設計及其ノ圖面
 - 七 起工竣竣工期限
 - 八 工費ノ豫算及其ノ收入支出ノ方法
 - 九 水料及其ノ徵收方法並經常收支ノ概算
- 第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル者工事ニ著手シタルトキハ直ニ

土木法規 第四章 上水及下水

著手月日及工事ノ豫定功程ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ
前項ノ工事施行中ハ毎年十二月末日現在ヲ以テ工事成績ヲ翌月十五日迄ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ

- 第三條 既設水道ノ工作物ニ重要ナル變更又ハ増設工事ヲ爲サムトスルトキハ計畫説明書、設計書及圖面ヲ具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 第一條及第三條第一項ノ工事ヲ竣功シタルトキハ直ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ
- 第四條 朝鮮總督ニ届出竣功検査ヲ受クヘシ
前項ノ検査ヲ受ケタル後ニ非サレハ其ノ工作物ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第五條 給水ヲ開始セムトスルトキハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外給水規則ヲ設ケ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ廢止又ハ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第六條 官營水道ノ管理者又ハ其ノ他ノ水道ノ經營者ハ強雨、結氷及解氷ノ時ニ於テ臨時水質試験ヲ施行スルノ外毎月一回以上水質試験ヲ施行スヘシ但シ水道設備ノ状態其ノ他特別ノ事由ニ因リ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 公益上ノ必要又ハ己ムヲ得サル事故ニ因リ給水ノ停止若ハ制限ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ニ報告スヘシ

○面經營ノ水道ニ關スル件 大正七年五月十日 官報第七二二號

政務總監

各道長官宛

面ニ於テ水道ヲ敷設經營セムトスルトキハ大正四年本府訓令第五十號ニ準シ總督ノ認可ヲ受ケ處理セシムルコトニ御取扱相成度此段及通牒候也

○水道設備ニ關スル件 大正八年九月三日 官報第七二二號

土木部長

全羅南道知事宛

大正八年八月二十一日附全南土第六二三號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ照會相成候處私人經營ノ水道ニ關シテハ別ニ取締規程無之モ溪流水ヲ引用スル場合ハ河川取締規則ニ依リ許可ヲ要スル義ニ付同則ニ依リ許可ノ内容トシテ給水設備ニ關スル一切ノ計畫ヲ審査スルコトニ御取扱相成可然存候此段及回答候也

○水道上水保護規則 明治四十三年九月二十九日 官報第七二二號

第一條 水道上水保護區域内ニ於テ瓦礫、塵芥、動物ノ屍體等ヲ投棄シ又ハ家畜放飼、捕鳥、漁獵、游泳、洗濯其ノ他水質ヲ汚損スヘキ行爲ヲ爲スヘカラス
第二條 水道上水保護地域内ニ於テ家屋其他建造物ヲ作り又ハ田

畜ヲ開墾シ若ハ土地ノ形狀ヲ變更セムトスルトキハ所轄警察署ノ許可ヲ受ケヘシ

第三條 第一條及第二條ニ違反シ水道上水保護ニ障礙ヲ生シタルトキハ警察官署ハ期間ヲ指定シ障礙除去ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

前項ニ依リ施設ヲ命セラレタル者其ノ期間内ニ之ヲ行ハサルトキハ當該官署ハ自ラ之ヲ行ヒ又ハ第三者ヲシテ之ヲ行ハシメ其ノ費用ハ義務者ヨリ徴收スルコトアルヘシ

第四條 水道上水保護區域ハ「警務總監又ハ警務部長之ヲ定ム」第五條 本則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

○水道上水保護區域設定ニ關スル件 大正四年九月十三日 官報第七二二號

警務總監宛

土木局長

明治四十三年統監府令第六一號ニヨリ水道保護區域ヲ警務部長ニ於テ定ムル場合ハ警務部令ヲ以テシ之カ發令ニ關シテハ豫メ貴部ニ經伺可致例ニ承リ候處右御處理ノ際ハ本局ニ合議相成候様致度此段及照會候也

追テ本件ハ道警務部ニ於テ豫メ道廳主務部下内協議ヲ遂ケ申出ツルコトトセハ便宜ト認メ候ニ付右様御取計相煩度候

右回答 大正四年九月十八日 官報第七〇號

警務總監

土木局長宛

本月十三日付官秘第二二九號首題御照會ノ趣了承右處理ノ際貴局ニ合議ノ件ハ御來旨ノ通取計フヘク尙警務部長ニ於テ經伺ノ際豫メ道廳主務部下内協議ヲ爲スノ件ニ就テハ其ノ旨通牒致置候條御了知相成度及回答候也

○仁川水道及朝鮮總督府鐵道局水道上

水保護區域 大正六年五月二十三日 京畿道警務部令第一號

明治四十三年十月朝鮮總督府總監府令第十號仁川及朝鮮總督府鐵道局水道上水保護區域左ノ通改ム
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

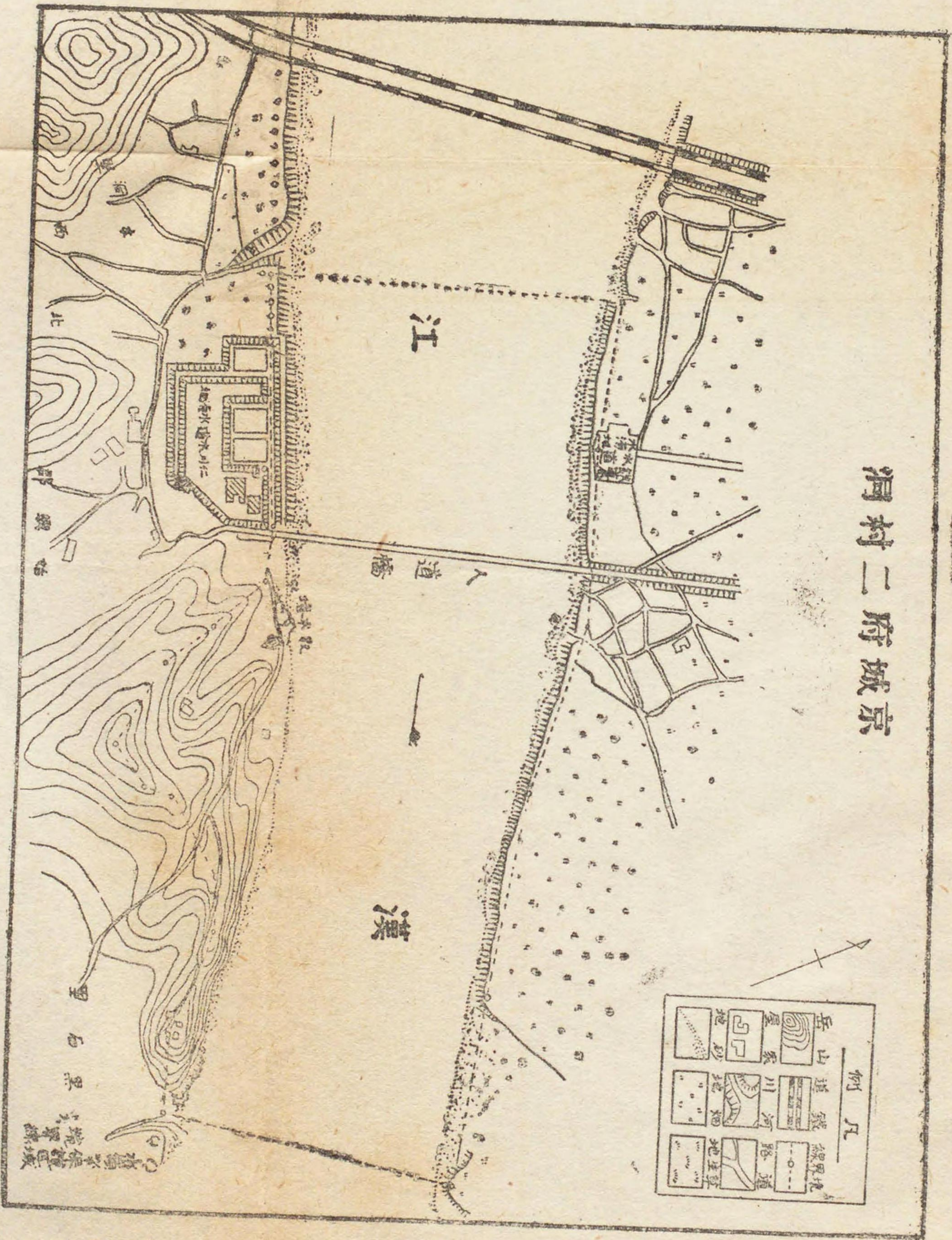
- 一 京畿道始興郡北面本洞里、黒石里及對岸京城府二村洞間漢江本流並其ノ兩沿岸別圖境界線内

一、本圖係以美濃川為主要水源，其上游之支流，經其東流，經二村，而匯入美濃川，其水質之清潔，與日本其他各河不同。
 二、本圖係以美濃川為主要水源，其上游之支流，經其東流，經二村，而匯入美濃川，其水質之清潔，與日本其他各河不同。
 三、本圖係以美濃川為主要水源，其上游之支流，經其東流，經二村，而匯入美濃川，其水質之清潔，與日本其他各河不同。

○二川水質及灌溉關係與保水圖

一、美濃川之水質，其清潔與日本其他各河不同，其原因有三：(一)美濃川之水，其源於深山，其水質之清潔，與日本其他各河不同。(二)美濃川之水，其源於深山，其水質之清潔，與日本其他各河不同。(三)美濃川之水，其源於深山，其水質之清潔，與日本其他各河不同。

地源水司道鉄皮地源水道水川仁
圖之城區護保水上



○大邱水道上水保護區域

大正四年十二月二十六日
 慶尚北道警察部令第二號

水道上水保護規則第四條ニ依リ大邱府水道上水保護區域左ノ通定

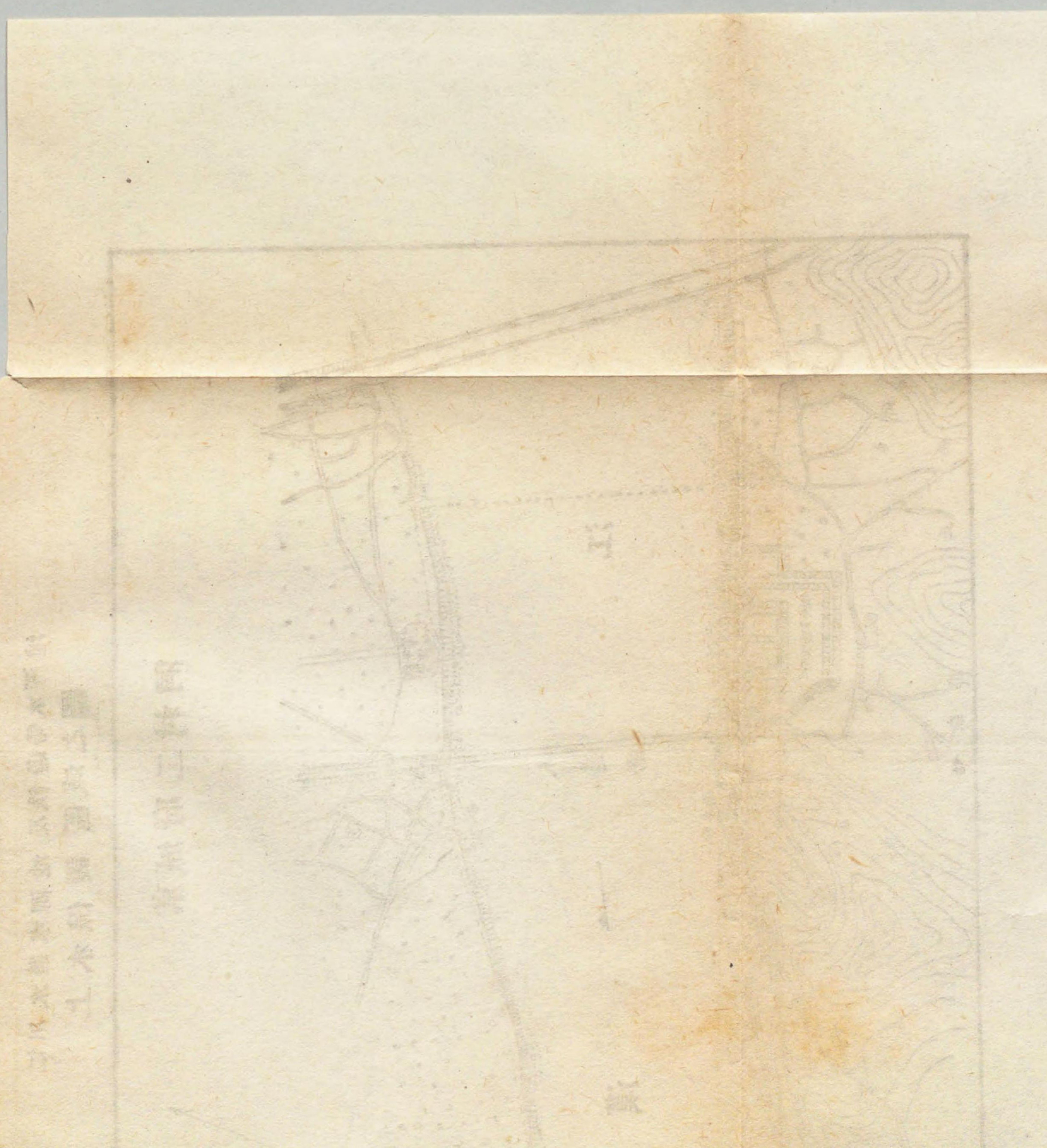
- 一 慶尙北道達城郡嘉昌面梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ヲ
 基點トシ藥水嶺ヲ經テ將房山ノ頂上ニ達シ更ニ基點ヨリ穴岩
 山頂及立岩山頂ヲ經テ空谷野ノ溪流合流點ニ至リ將房山ニ達
 スル地點即チ附圖一乃至五間ノ連絡線内

二 慶尙北道達城郡嘉昌面梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ヲ
 基點トシ藥水嶺ニ至リ梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ニ至
 ル地點即チ附圖一乃至五間ノ連絡線内

三 慶尙北道達城郡嘉昌面梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ヲ
 基點トシ藥水嶺ニ至リ梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ニ至
 ル地點即チ附圖一乃至五間ノ連絡線内

附圖

縮尺



○大邱水道上水保護區域

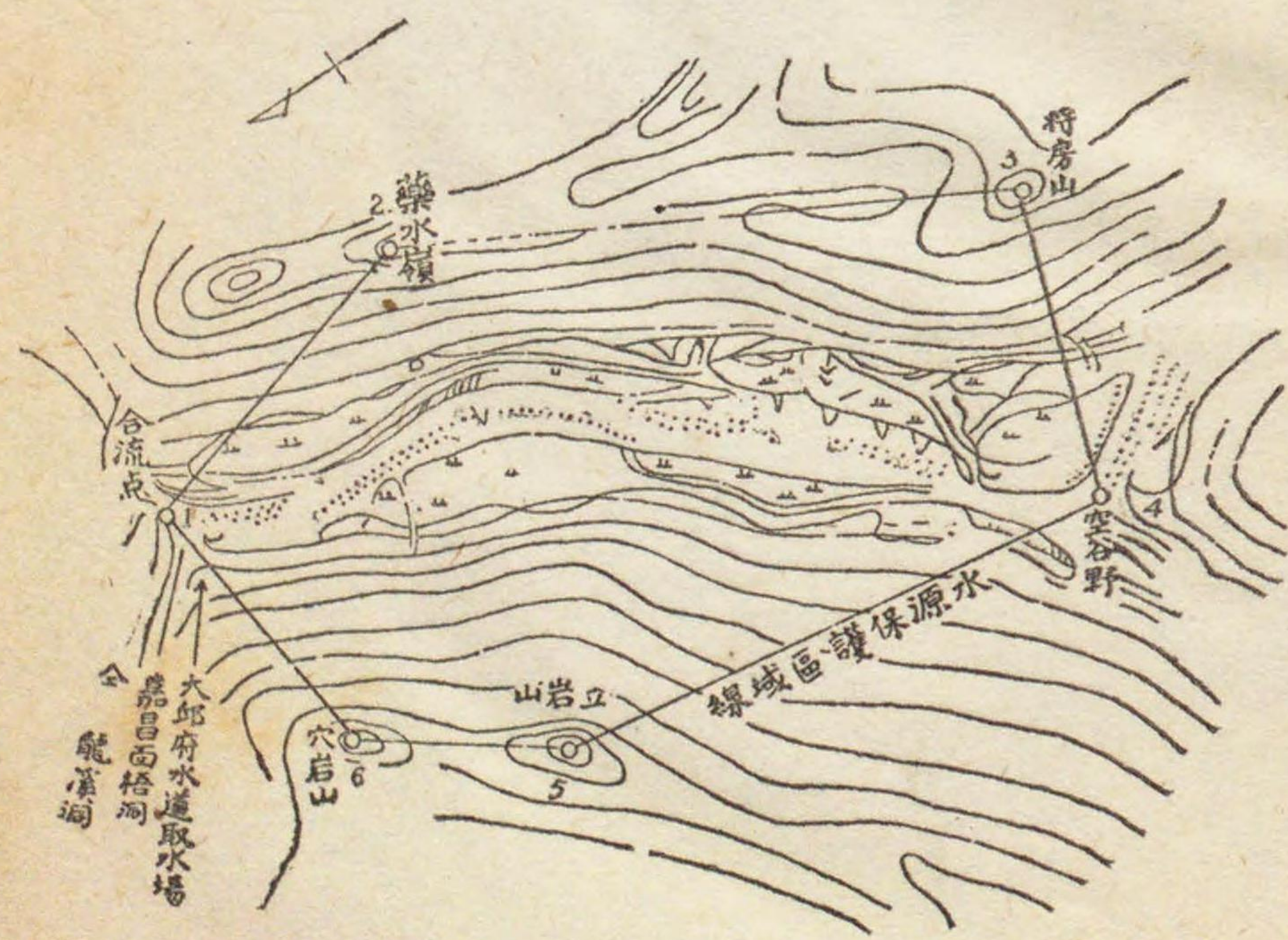
大正四年十二月二十六日
慶尚北道警務部令第二號

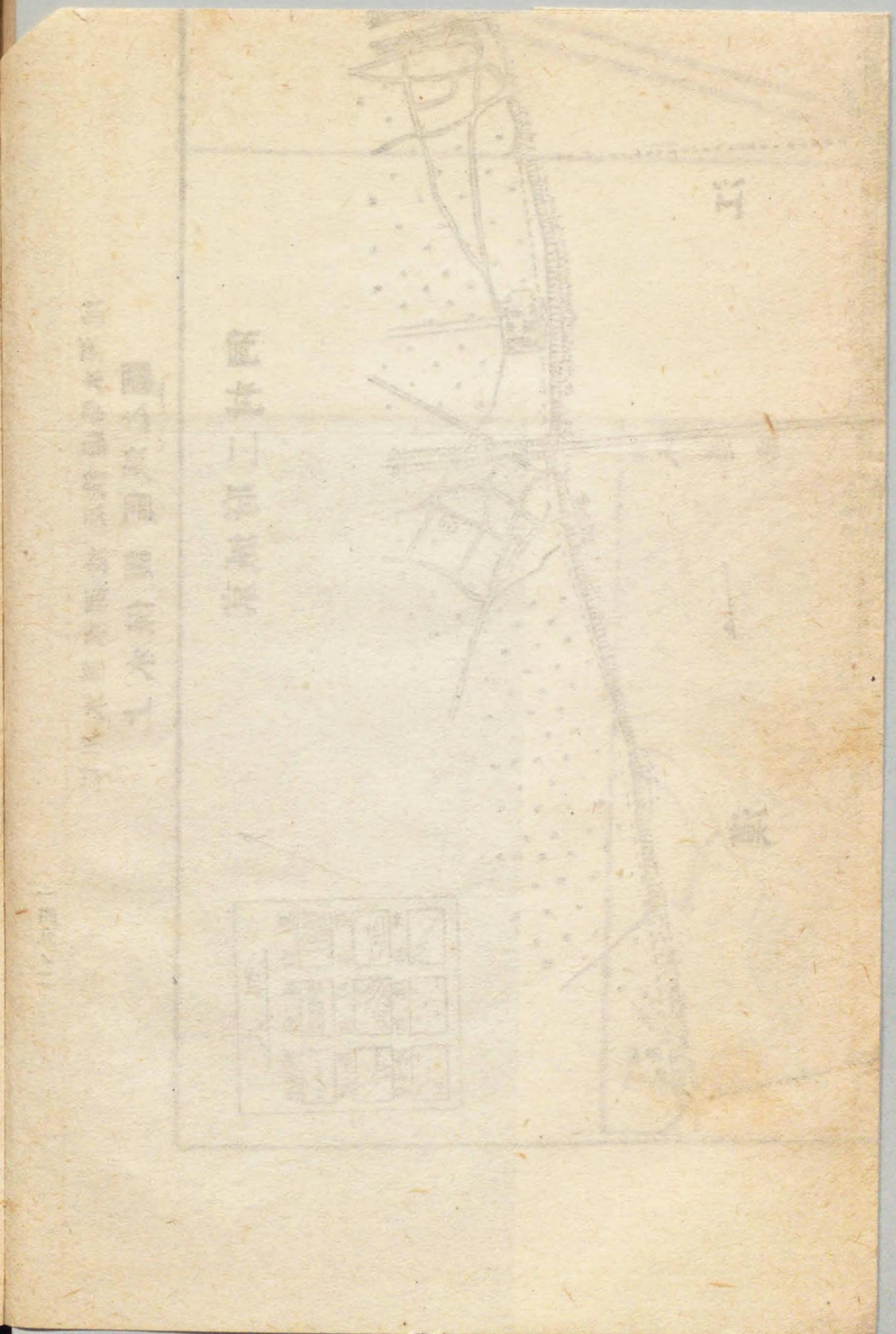
水道上水保護規則第四條ニ依リ大邱府水道上水保護區域左ノ通定

- 一 慶尙北道達城郡嘉昌面梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ヲ基點トシ藥水嶺ヲ經テ將房山ノ頂上ニ達シ更ニ基點ヨリ穴岩山頂及立岩山頂ヲ經テ空谷野ノ溪流合流點ニ至リ將房山ニ達スル地點即チ附圖1乃至5間ノ連絡線内
- 二 慶尙北道達城郡嘉昌面梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ヲ基點トシ藥水嶺ヲ經テ將房山ノ頂上ニ達シ更ニ基點ヨリ穴岩山頂及立岩山頂ヲ經テ空谷野ノ溪流合流點ニ至リ將房山ニ達スル地點即チ附圖1乃至5間ノ連絡線内
- 三 慶尙北道達城郡嘉昌面梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ヲ基點トシ藥水嶺ヲ經テ將房山ノ頂上ニ達シ更ニ基點ヨリ穴岩山頂及立岩山頂ヲ經テ空谷野ノ溪流合流點ニ至リ將房山ニ達スル地點即チ附圖1乃至5間ノ連絡線内

附圖

縮尺一萬五千分ノ一





○大邱水道上水保護區域

大正四年十二月二十六日
慶尚北道警察部令第二號

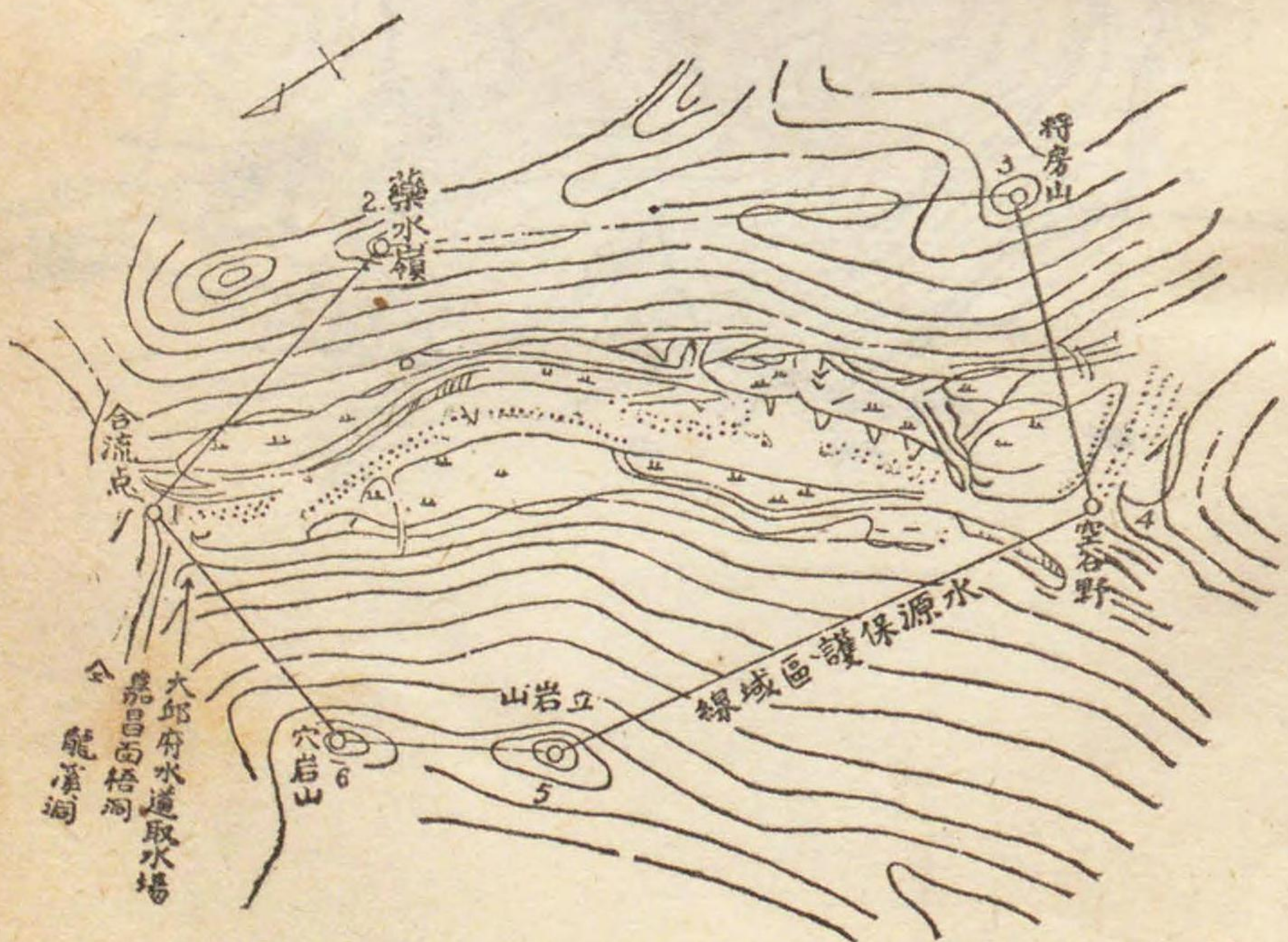
水道上水保護規則第四條ニ依リ大邱府水道上水保護區域左ノ通定

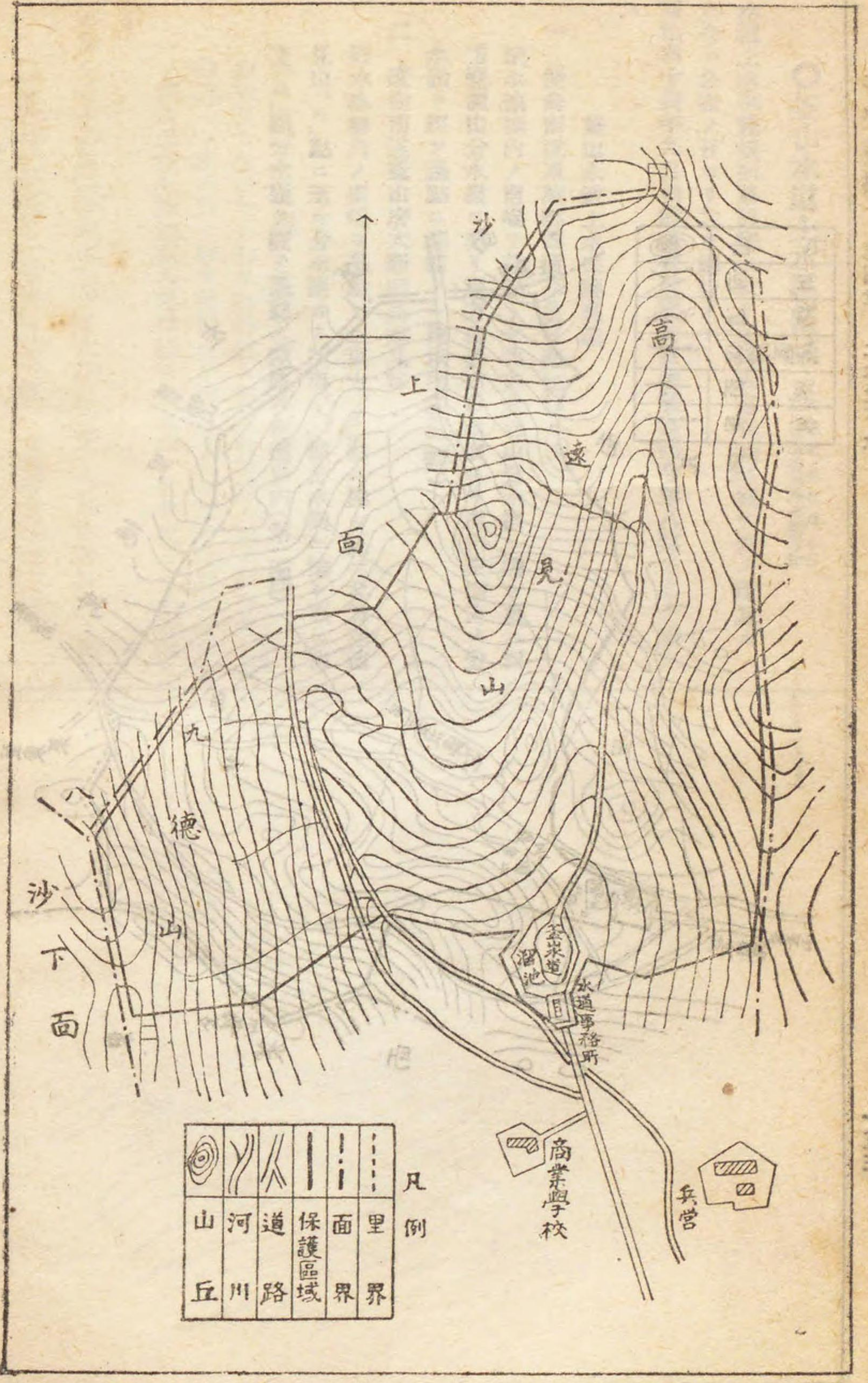
- 一 慶尚北道達城郡嘉昌面梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ヲ基點トシ藥水嶺ヲ經テ將房山ノ頂上ニ達シ更ニ基點ヨリ穴岩山頂及立岩山頂ヲ經テ空谷野ノ溪流合流點ニ至リ將房山ニ達スル地點即チ附圖一乃至五間ノ連絡線内
- 二 慶尚北道達城郡嘉昌面梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ヲ基點トシ藥水嶺ヲ經テ將房山ノ頂上ニ達シ更ニ基點ヨリ穴岩山頂及立岩山頂ヲ經テ空谷野ノ溪流合流點ニ至リ將房山ニ達スル地點即チ附圖一乃至五間ノ連絡線内
- 三 慶尚北道達城郡嘉昌面梧洞新川支流ト月背川トノ合流點ヲ基點トシ藥水嶺ヲ經テ將房山ノ頂上ニ達シ更ニ基點ヨリ穴岩山頂及立岩山頂ヲ經テ空谷野ノ溪流合流點ニ至リ將房山ニ達スル地點即チ附圖一乃至五間ノ連絡線内

○大邱水道上水保護區域
大邱府水道局
大邱府水道局
大邱府水道局

附圖

縮尺一萬五千分の一





凡例

山	河	道	保護區域	里界
丘	川	路	界	界

○群山水道上水保護區域

大正三年四月五日
全羅道警務部令第一號

沃溝郡米面新豊里所在群山水道貯水池堰堤ヨリ下流六十間ノ地ヲ
基點トシ其ノ上方貯水池ニ面シタル流域分水線内

○木浦水道上水保護區域

大正六年七月九日
全羅道警務部令第一號

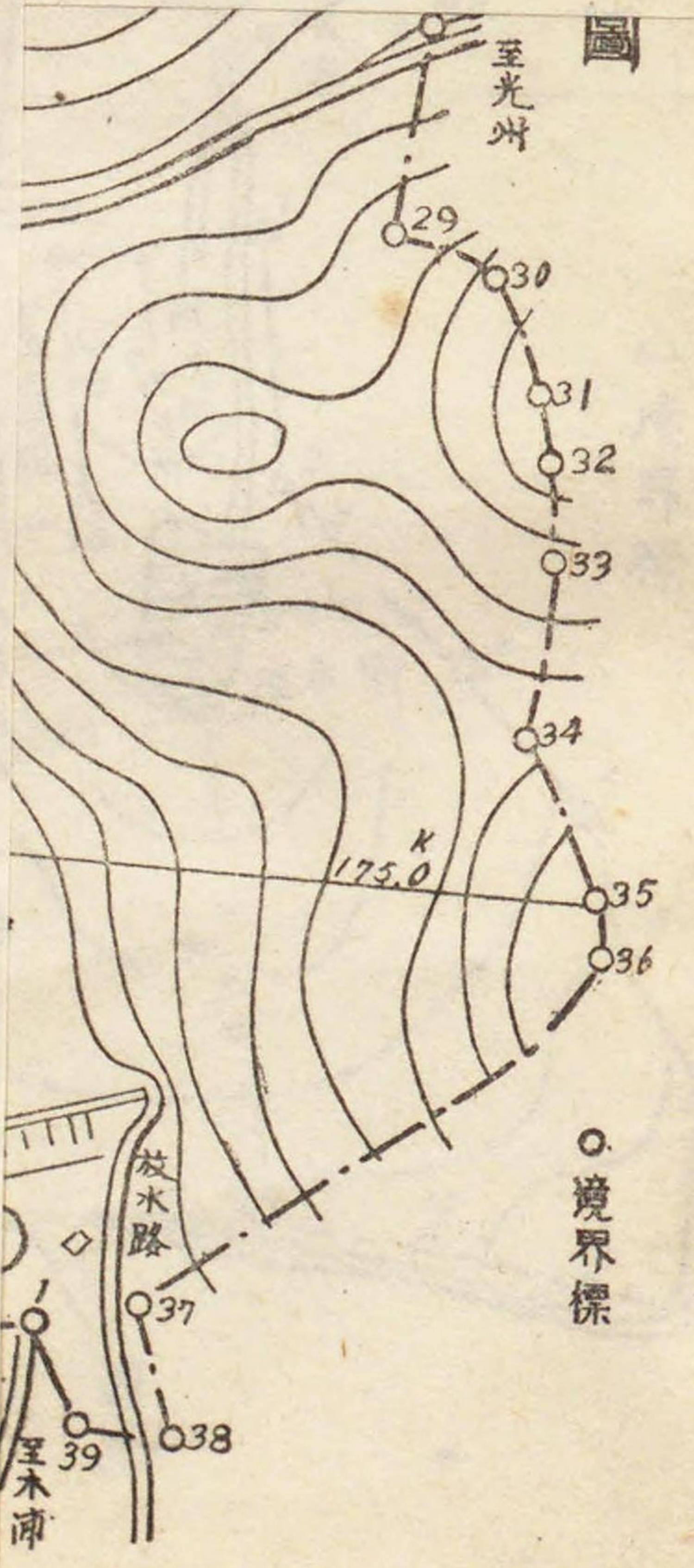
大正五年二月十七日朝鮮總督府全羅南道警務部令第一號木浦水道
上水保護區域ヲ左ノ通改ム

木浦水道上水保護區域

- 一 務安郡二老面上里汗洞坪第一水源貯水池中心ヨリ東方百七十五間西方百六十一間南方百二十八間北方三百九十九間即チ第一號圖面ノ境界線標木第一ヨリ第三十九ニ至ル線内
- 二 木浦府溫錦洞第二水源貯水池中心ヨリ東方六十間西方九十七間南方二十九間北方百五十八間即チ第二號圖面ノ境界線標木第一ヨリ第二十二至ル線内
- 三 務安郡三卿面群山洞第三水源貯水池中心ヨリ東方三百六十三間西方百八十間南方三百九十四間北方二百五十七間即チ第三號圖面ノ境界線標木第一ヨリ第四十六ニ至ル線内

圖面ノ境界線本第一日ノ第四十六二五ノ線内
 三四四式百八十間南式三百大間北式二百五十間
 三 境界線三聯西聯山階三本所領本所中心日ノ東式三百六十
 水第一日ノ線二十二至ノ線内
 一 間南式二十大間北式百五十八間
 二 本所領本所第一本所領本所中心日ノ東式六十間北式六十
 一 聯一聯圖面ノ境界線本第一日ノ線三十三式二至ノ線内
 十五間南式百六十一間南式百二十八間北式三百式十此間
 一 聯一聯二本所土屋百餘間第一本所領本所中心日ノ東式百十
 本所領本所第一本所領本所
 大五五平二日十日
 ○本所水並土木所領圖
 本所領本所第一本所領本所
 大五五平二日十日

一五五ノ二

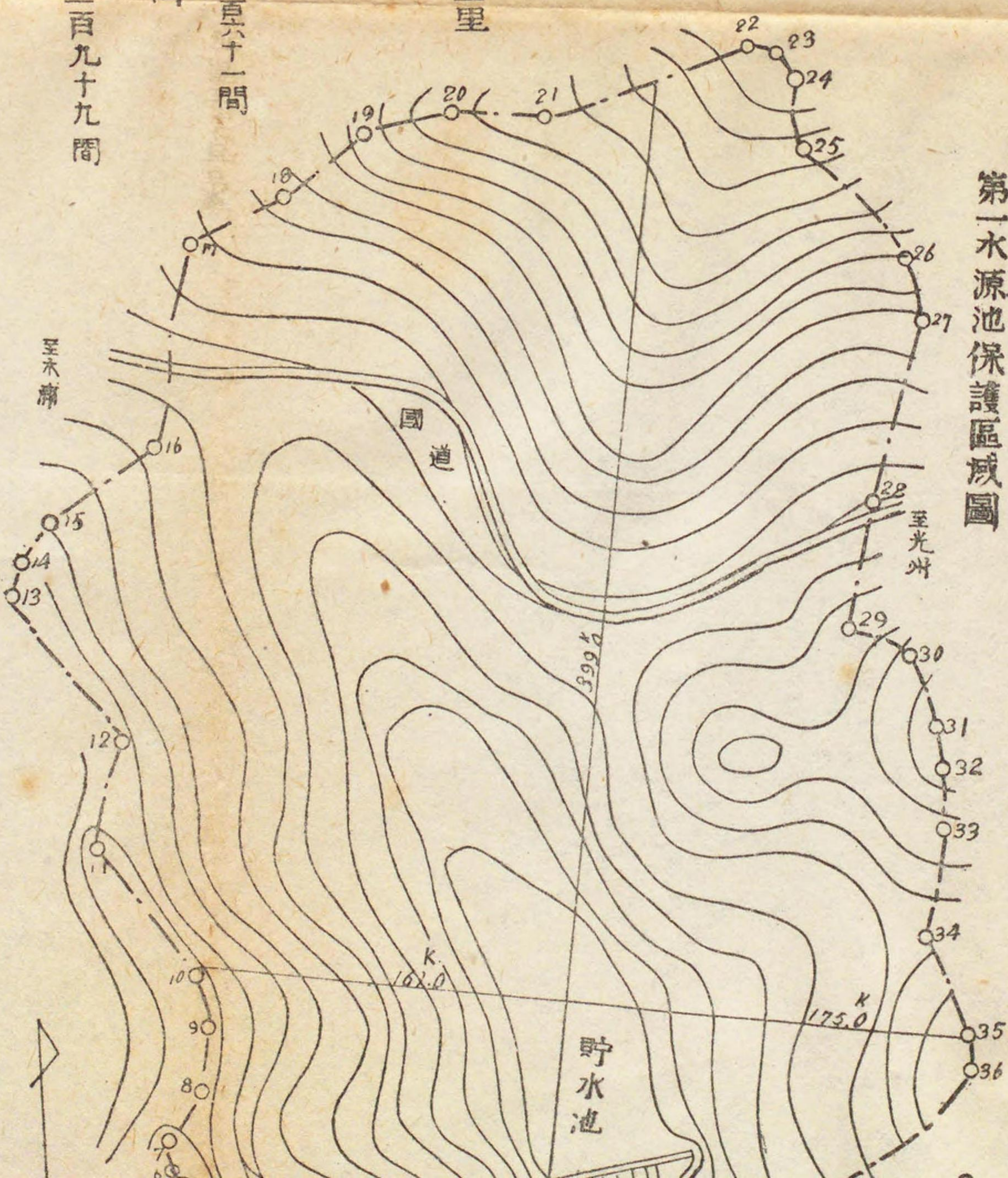


一五五ノ二



木浦·水道

第一水源池保護區域圖



所在地名

務安郡二老面上里

汗洞坪

保護區域

貯水池中心

東方百七十五間 西方百一十一間

南方百二十八間

北方三百九十九間

一、本圖所繪之第一水源池保護區域，係根據地形、地質、水文等條件，經專家學者之調查與研究，所劃定之保護區域。其範圍如下：

二、本圖所繪之第一水源池保護區域，係根據地形、地質、水文等條件，經專家學者之調查與研究，所劃定之保護區域。其範圍如下：

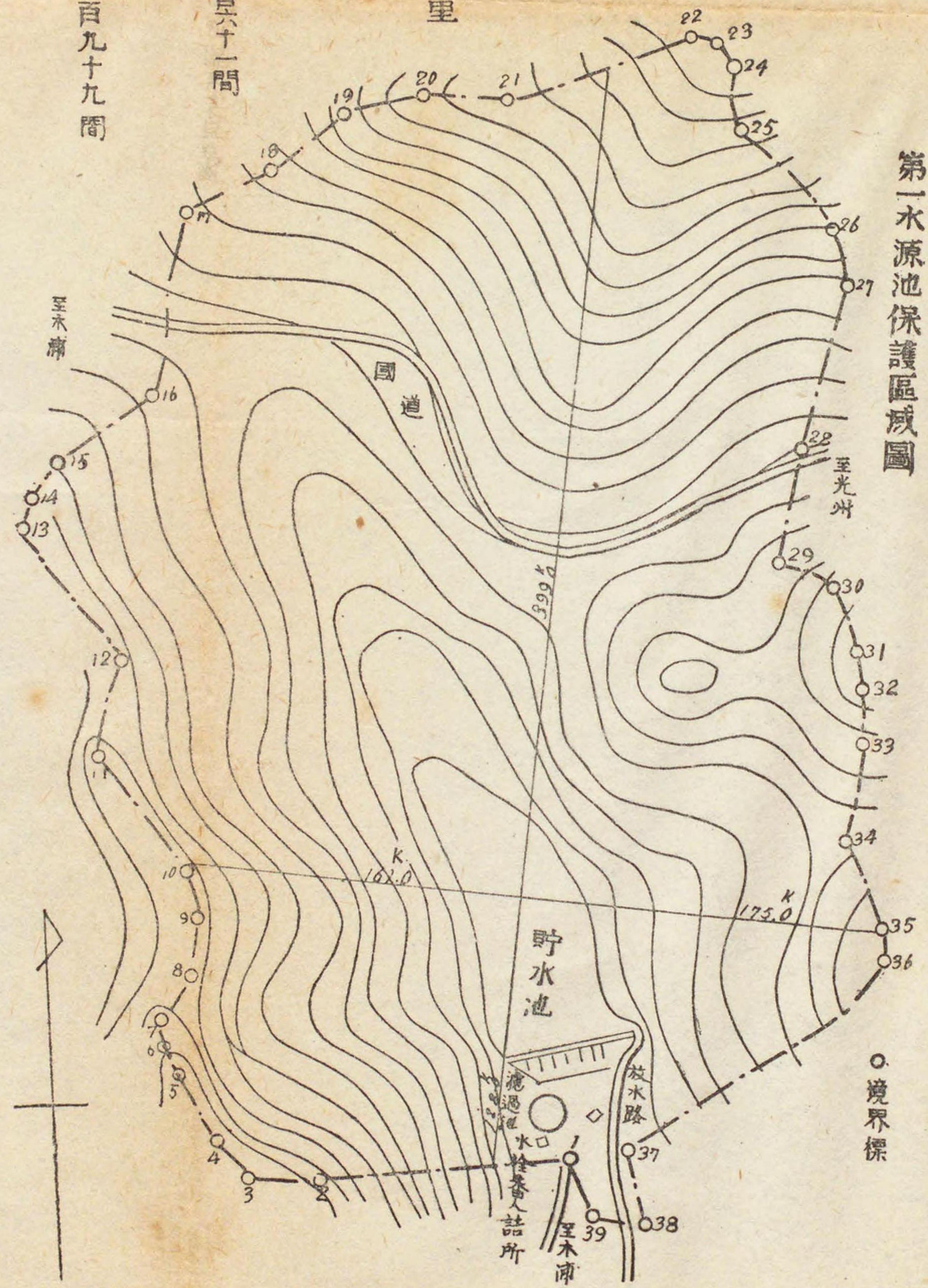
三、本圖所繪之第一水源池保護區域，係根據地形、地質、水文等條件，經專家學者之調查與研究，所劃定之保護區域。其範圍如下：

○ 本圖所繪之第一水源池保護區域，係根據地形、地質、水文等條件，經專家學者之調查與研究，所劃定之保護區域。其範圍如下：

○ 本圖所繪之第一水源池保護區域，係根據地形、地質、水文等條件，經專家學者之調查與研究，所劃定之保護區域。其範圍如下：

木浦・水道

第一水源池保護區域圖



一五五ノ二

仕地名

安郡二老面上里

洞坪

護區域

水池中心

百七十五間 西方百六十一間

方百二十八間

北方三百九十九間

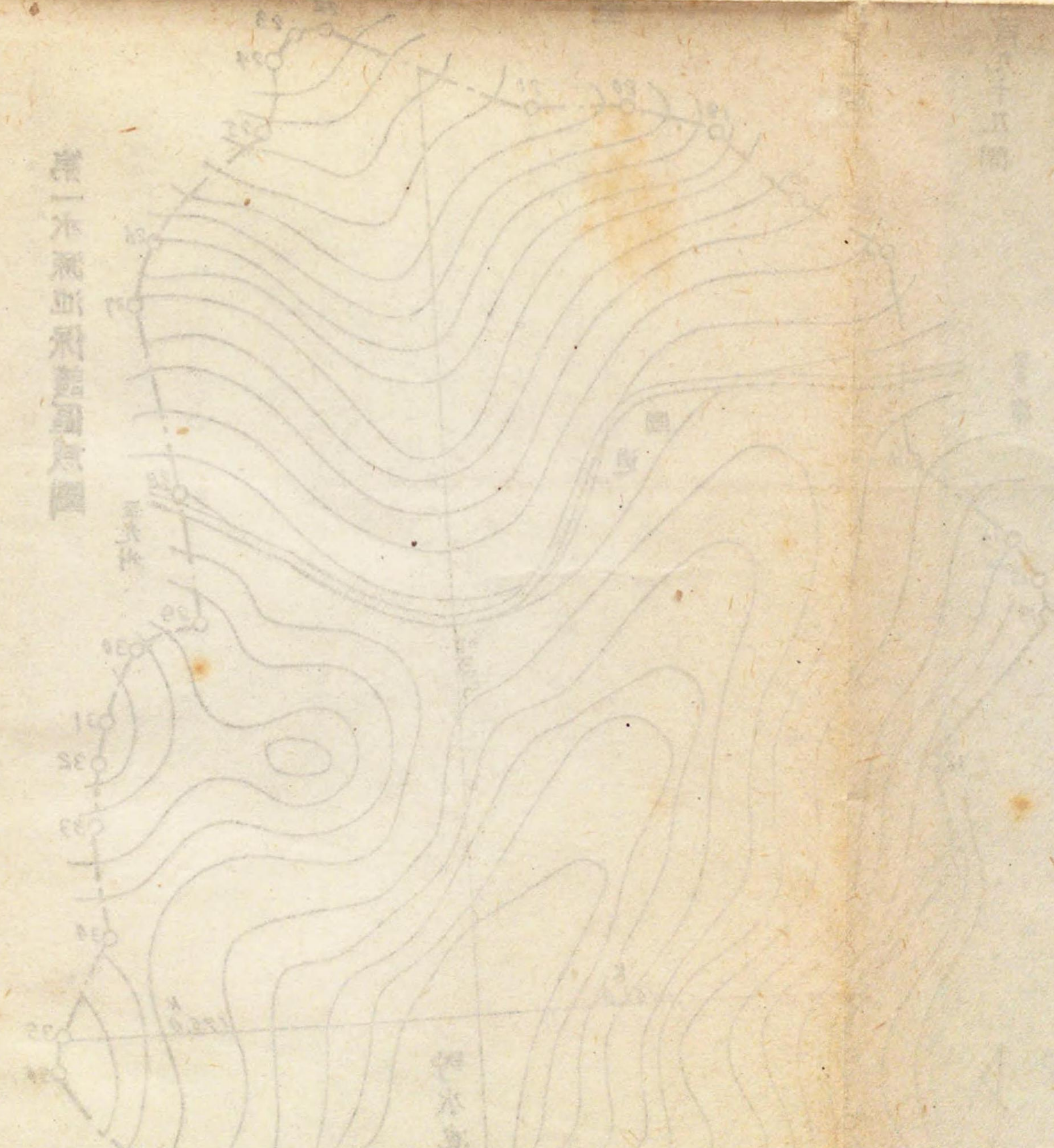
三 貯水池三箇而歸山陸路三水源池六箇中心日東式三百六十
 水口日東式二百二十二箇山陸路
 小間百六十二箇並式百五十八間並式二箇圖面、貯水池
 一 本池水源池貯水池二水源池本池中心日東式六十間並式六十
 一箇圖面、貯水池本池中心日東式三十式三式三式
 十五箇圖面百六十一間並式百二十八間並式三百式十六箇
 一 貯水池二箇並式百五十八間並式一水口貯水池中心日東式百十
 本池水源池貯水池

○木浦水鏡土木貯水池

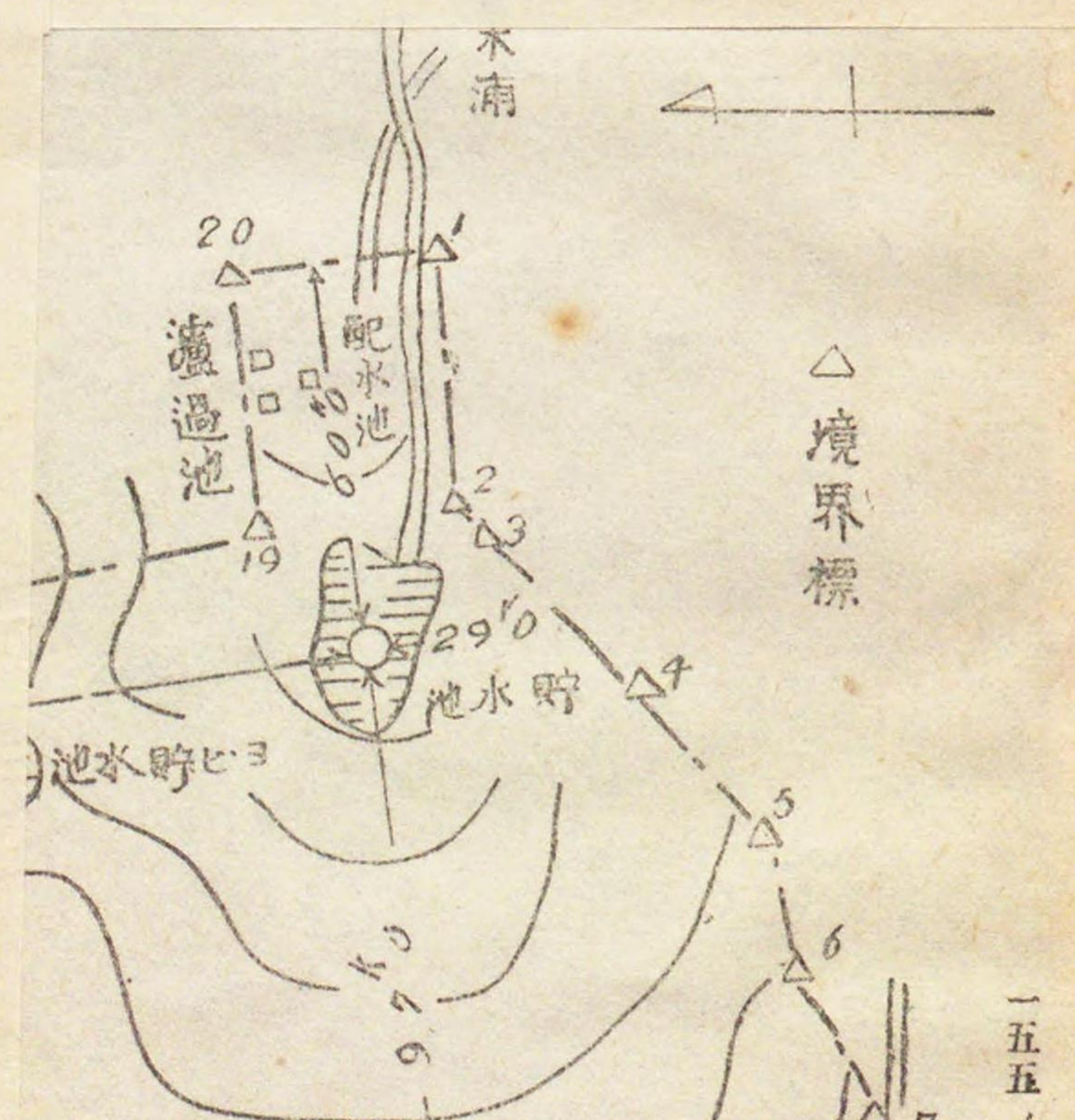
○鐵山水鏡土木貯水池

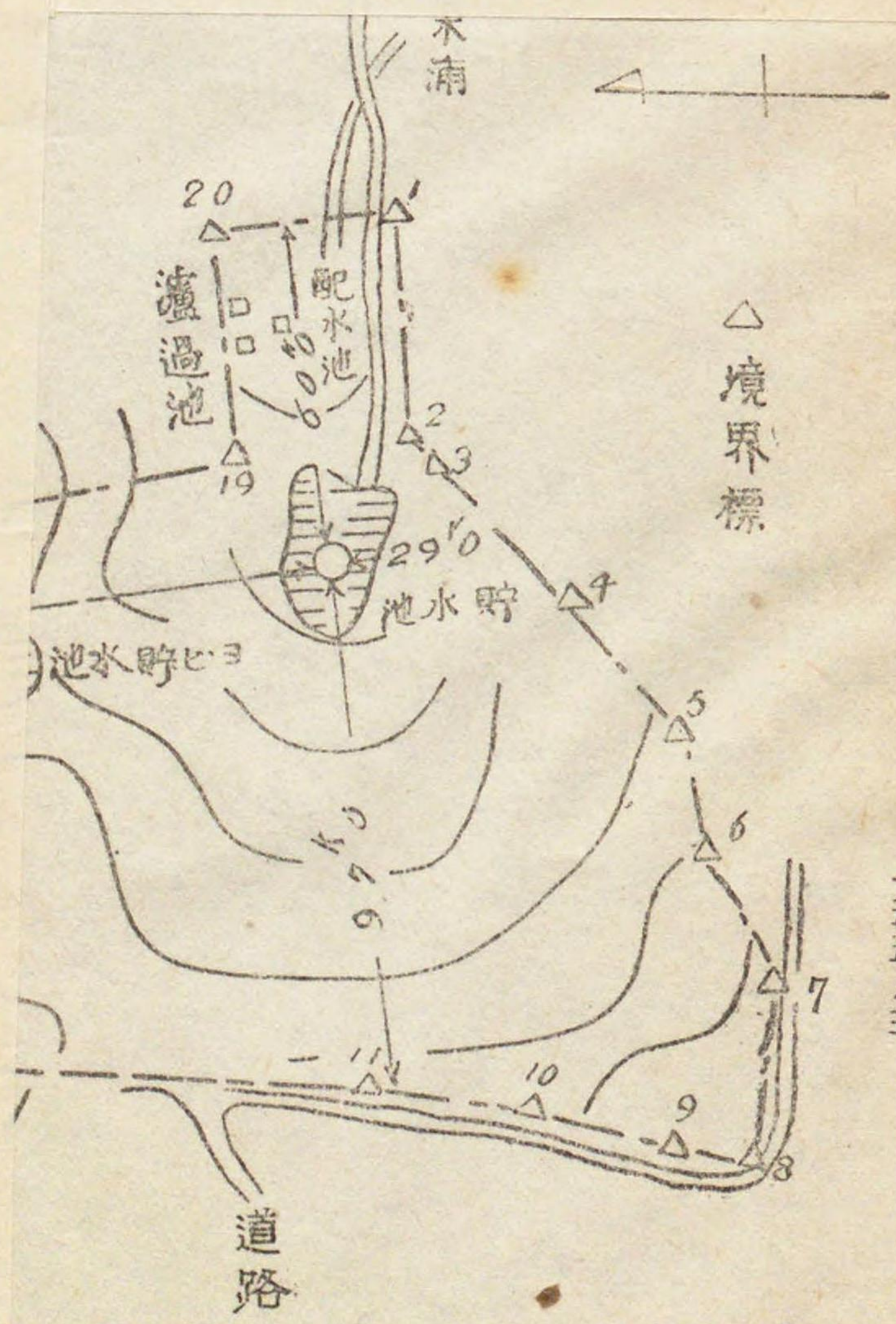
大五五五二日...
 為高麗米而...
 貯水池...
 水口...
 放水路...
 境界線...

南
南
南
南
南



第一水源地附近地形圖





一五五ノ三

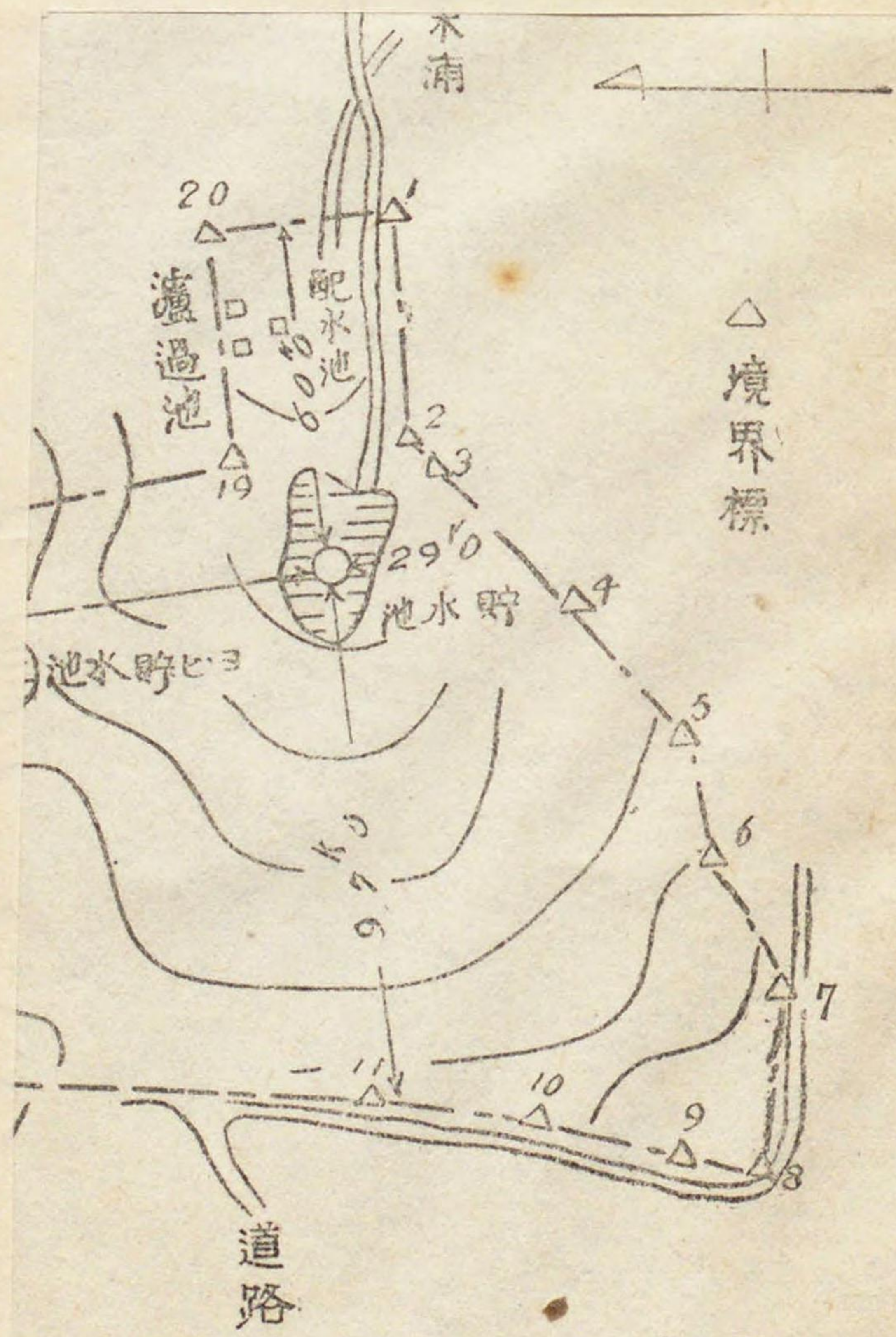


第一水浦配水池灌漑池

○貯水池

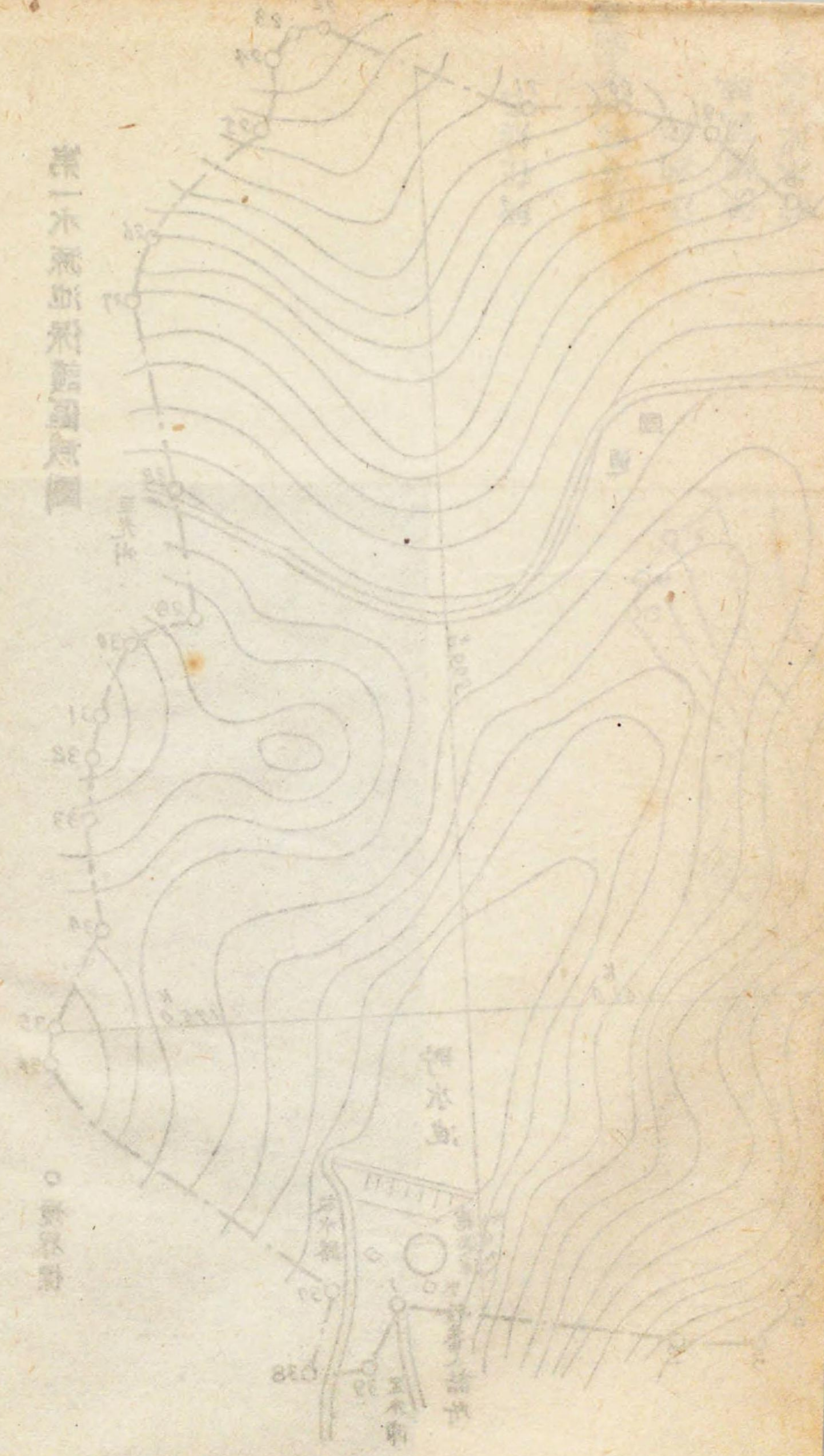
清々百二十八
 千石
 千石
 千石
 千石
 千石

水浦
 配水池
 灌漑池
 貯水池

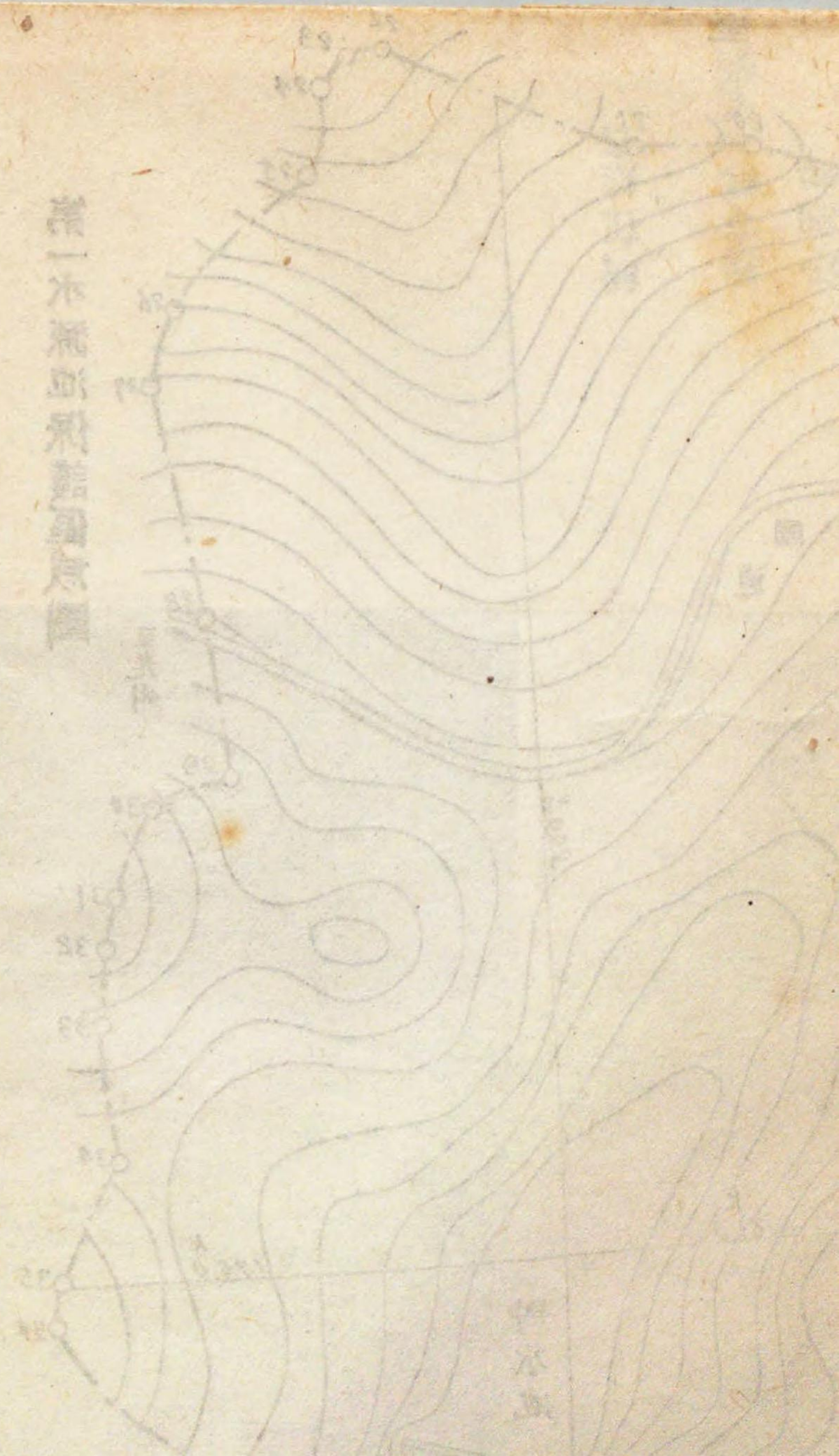
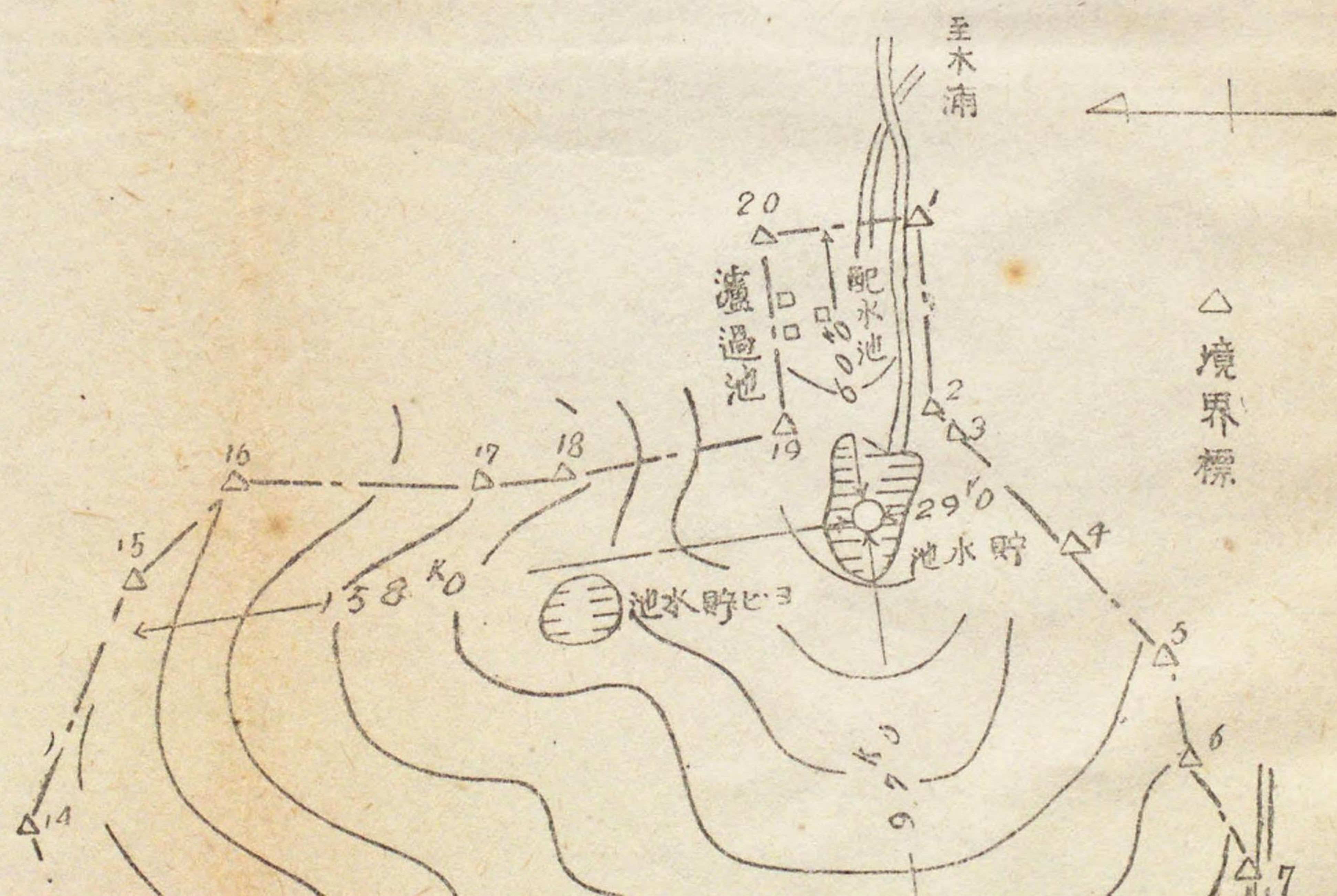


一五五ノ三

第一水原町附近地形圖



水滂水道
 第二水源池保護區域圖
 所在地名
 水滂府温錦洞
 保護區域
 貯水池中心
 東方六十間 西方九十七間
 南方二十九間 北方百五十八間



水浦水道

第二水源池保護區域圖

所在地名

水浦府温錦洞

保護區域

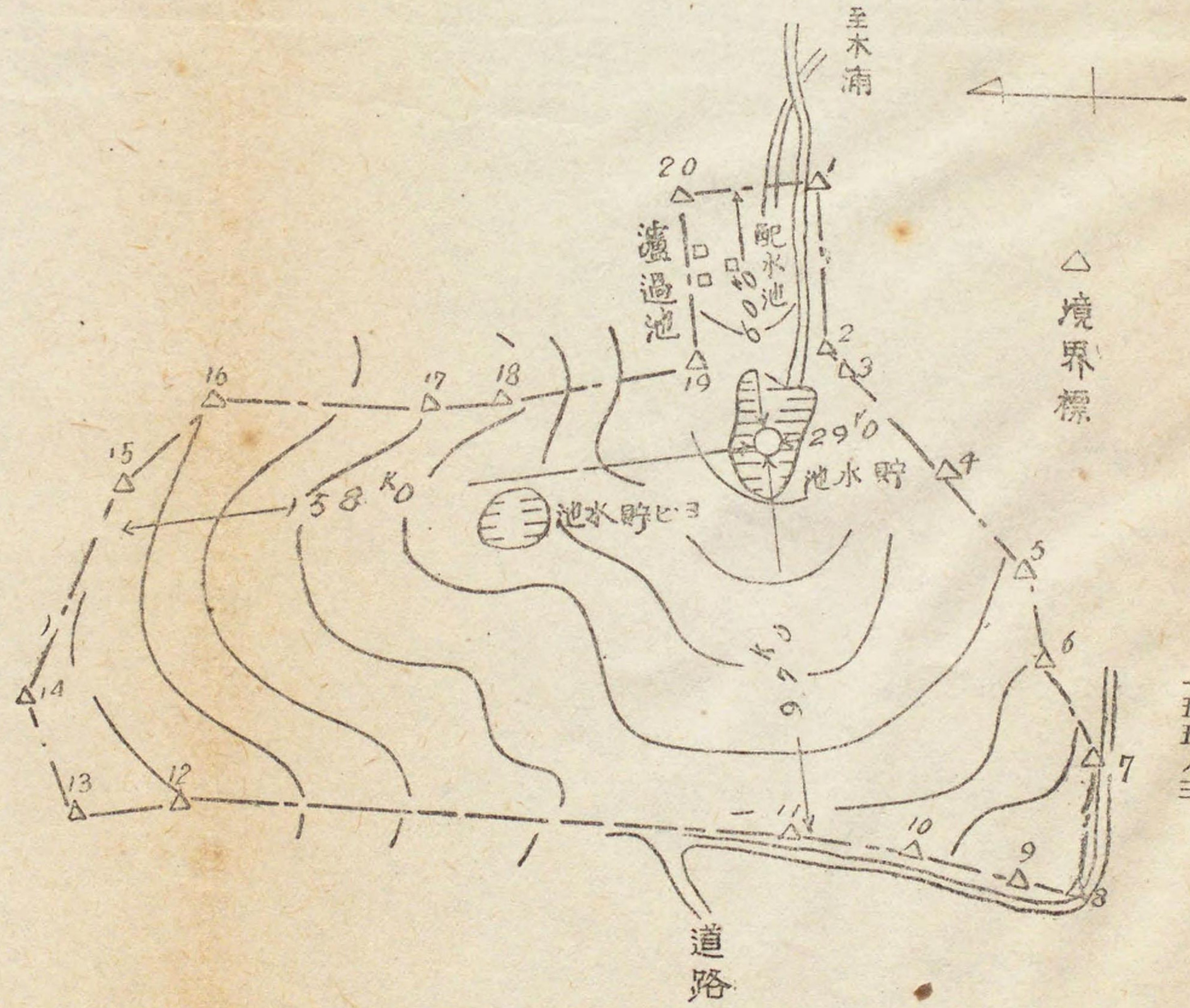
貯水池中心

東方六十間

西方九十七間

南方二十九間

北方百五十八間



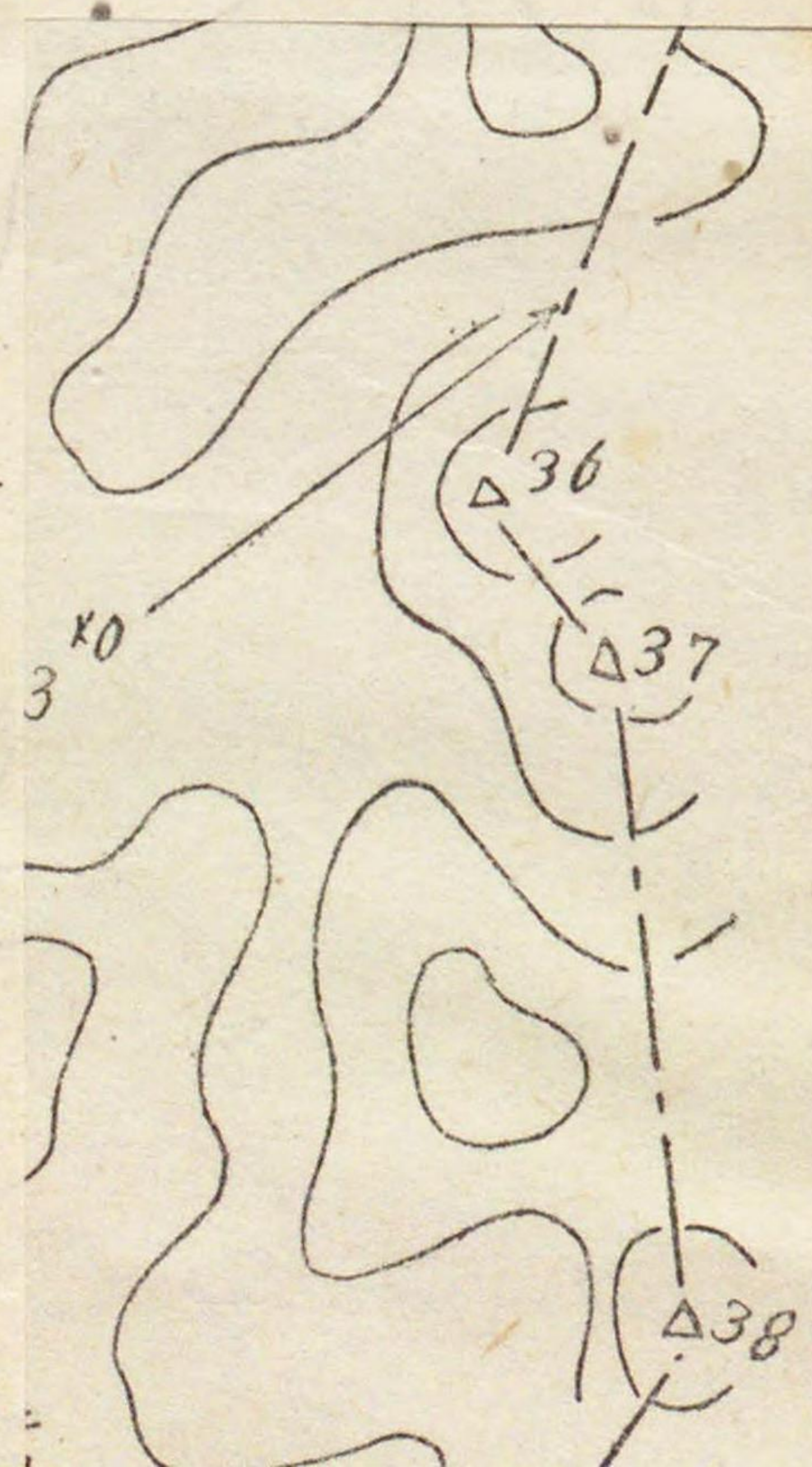
一五五ノ三

第一水源池貯水池圖



五五ノ二

水原水原三本
林立部三本

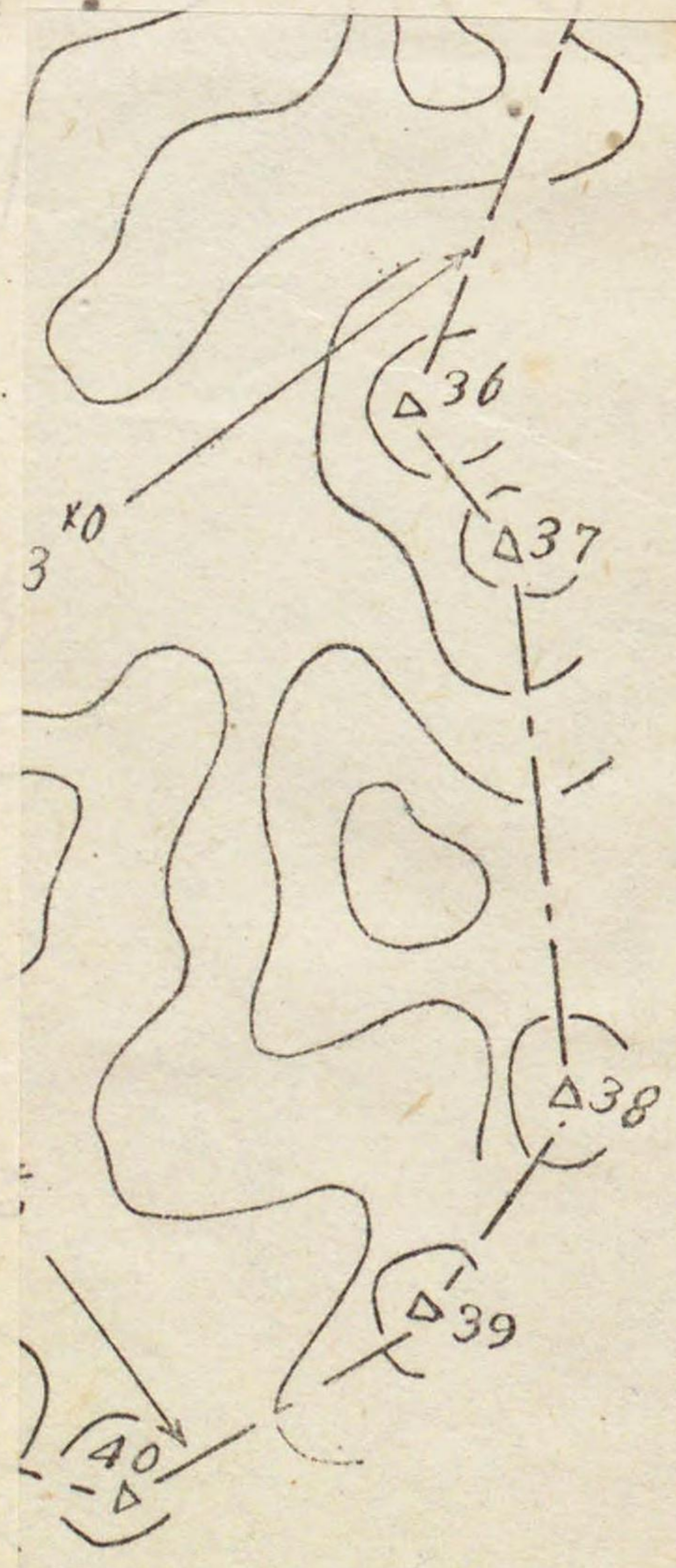


保護區域貯水池中心ヨリ

東方三六三間
南方三〇九間

西方一八〇間
北方二五七間

水三原水三原水
地三原水



保護區減貯水池中心ヨリ

東方三六三間
西方一八〇間
南方三〇九間
北方二五七間

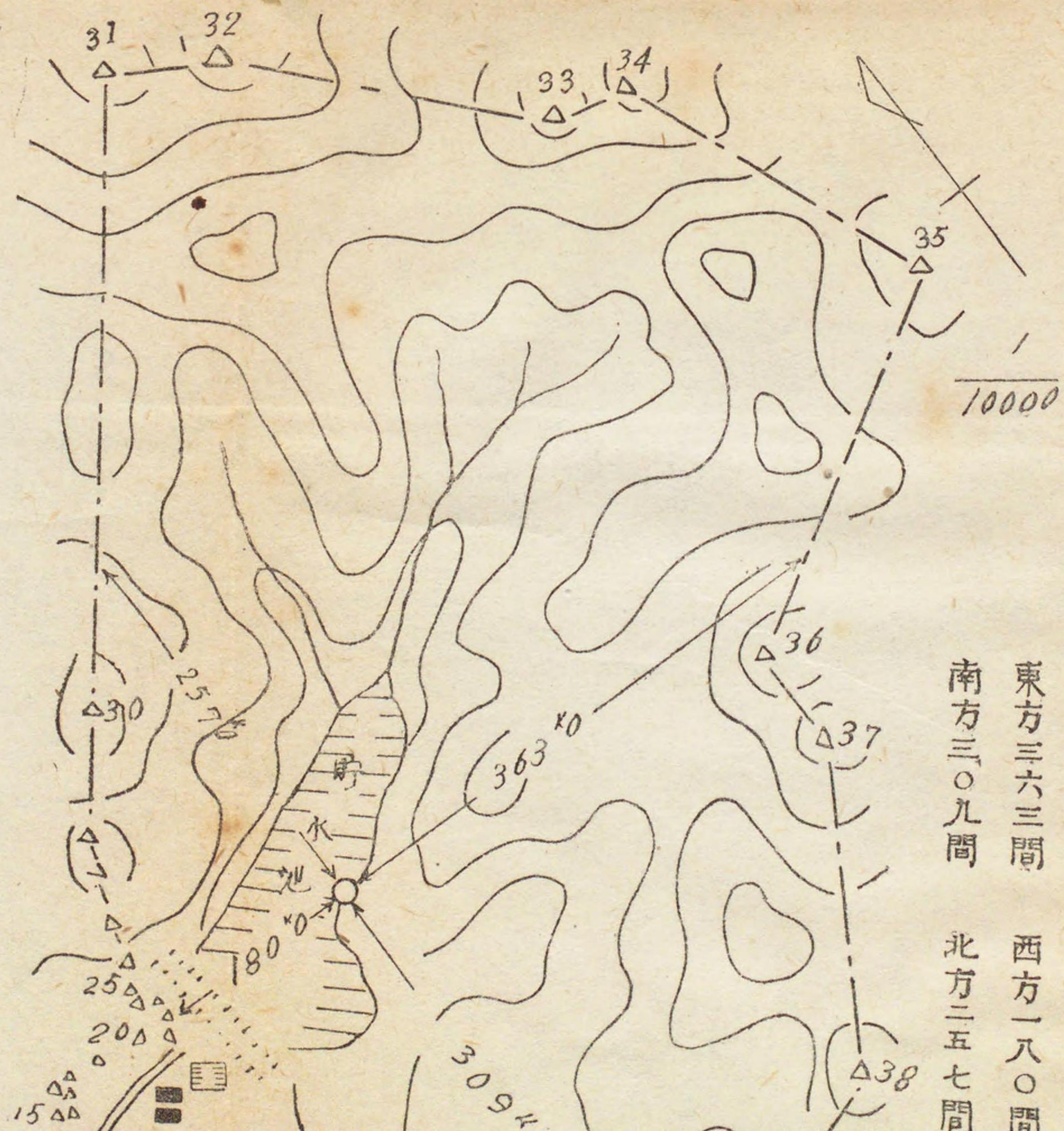
△境界線

一五五ノ四



木浦水道第三水源地保護區圖

務安郡三鄉面山洞在所



保護區域貯水池中心ヨリ

東方三六三間

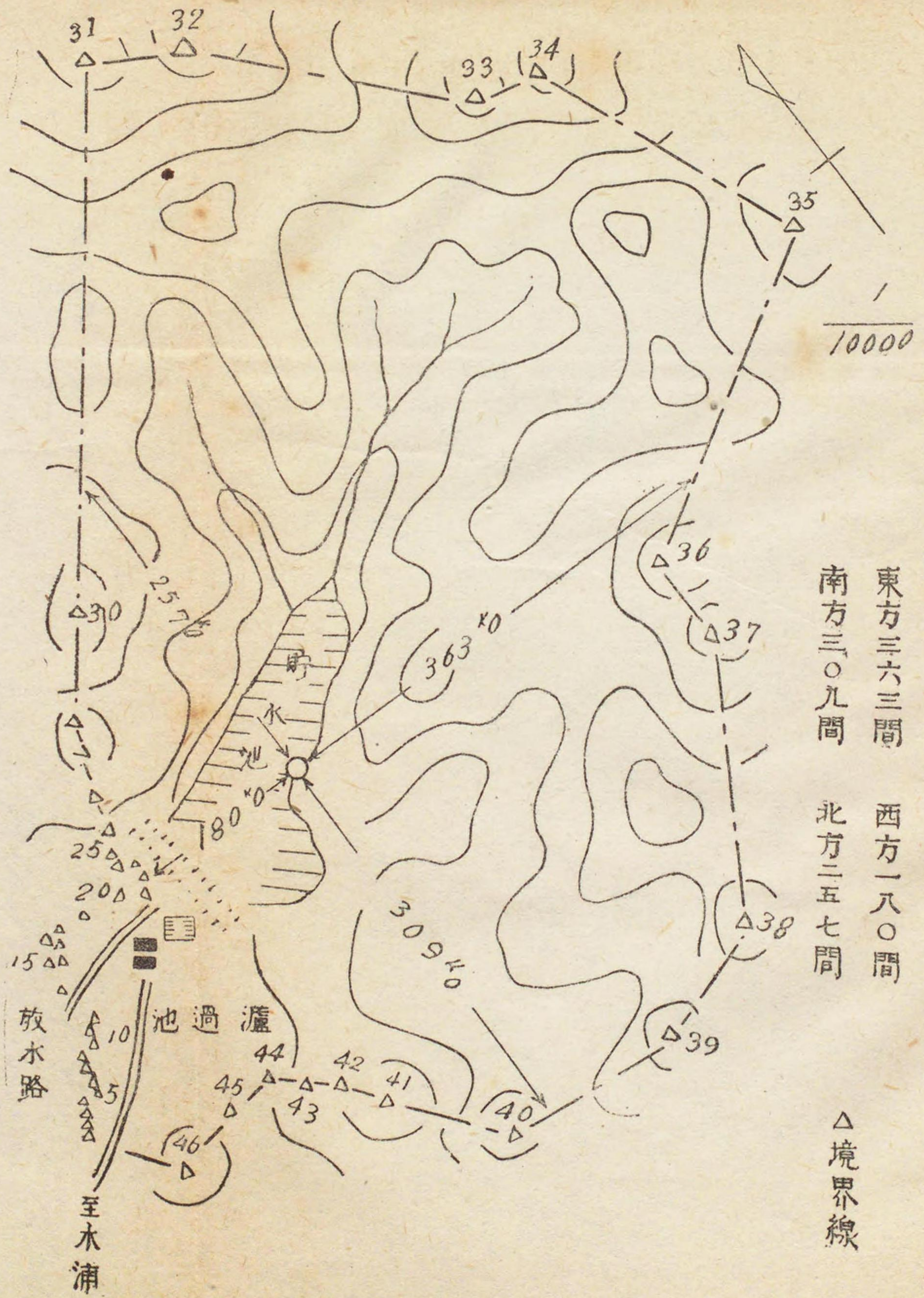
西方一八〇間

南方三〇九間

北方二五七間

木浦水道第三水源池保護區域圖

務安郡三鄉面群山洞在所



保護區域貯水池中心ヨリ

東方三六三間
南方三〇九間
西方一八〇間
北方二五七間

△境界線

一五五ノ四

本圖本縣第三水溝以爲界
 許支那三縣而後其後



○平壤水道及鎮南浦水道上水保護區域

水道上水保護規則等四條ニ依リ平壤水道及鎮南浦水道上水保護區域ヲ左ノ通改ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年十月平安南道警務部令第七號ハ之ヲ廢止ス

一 平壤水道上水保護區域

平安南道大同郡大同江面綾羅里一圓、同面鰲村里地籍大同江本流沿岸及其ノ本流第一號圖面境界線内

一 鎮南浦水道上水保護區域

平安南道龍岡郡大代面山洞里、鎮南浦水道貯水池流域全部第二號圖面境界線内

○海州水道上水保護區域

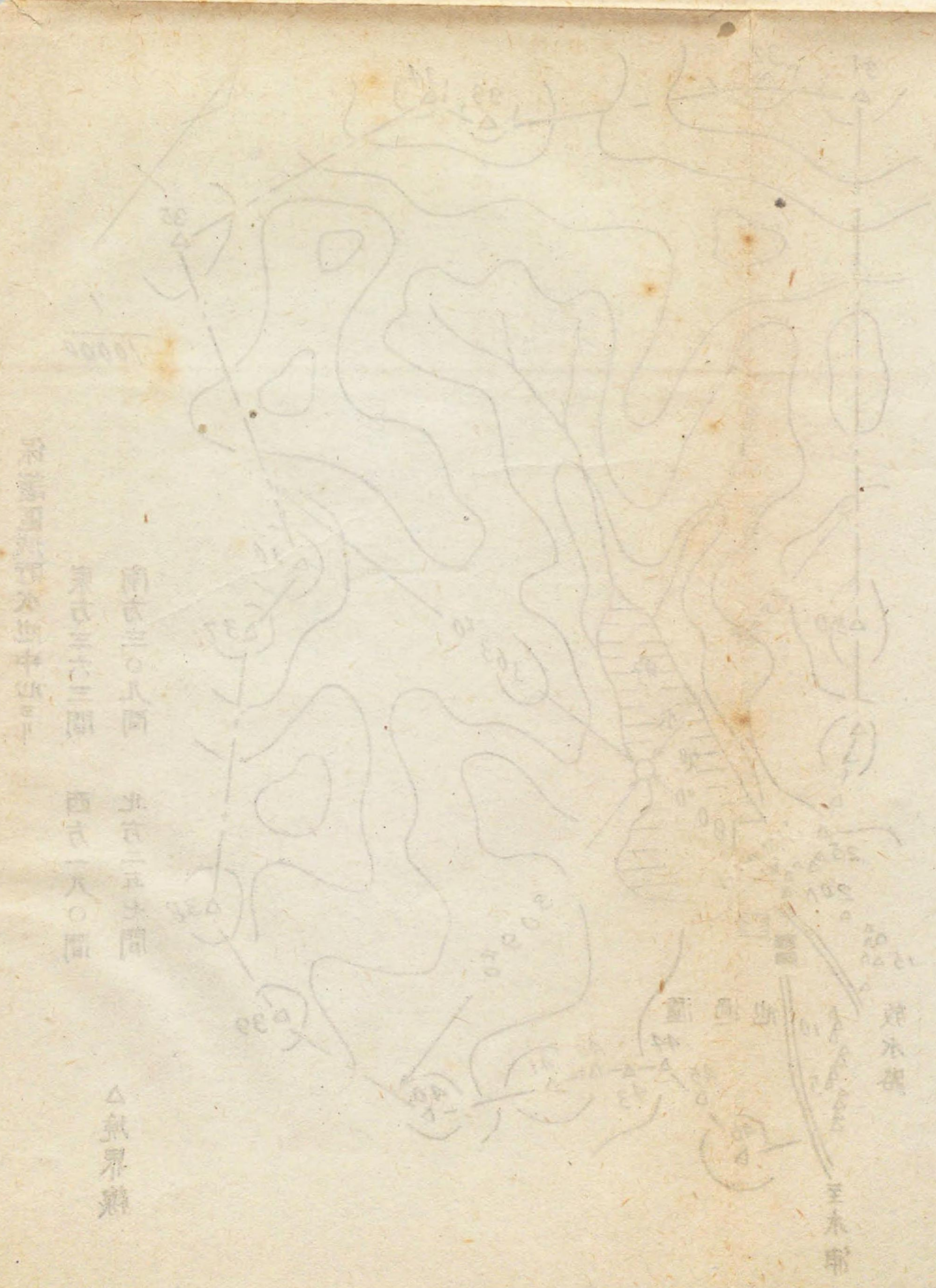
大正六年九月十五日
 海州道警務部令第三號

明治四十三年九月統監府令第六十一號水道上水保護規則第四條ニ依リ海州水道上水保護區域ヲ左ノ通定ム

水道上水保護區域

海州郡海州面及泳東面廣石川流域ノ内海州郡海州面上町所在水道取水場ノ北方五百間ノ地點ヨリ東方九百間、南方五百五十間

ニ至ル境界線内(附圖點線内)



○平壤水道及鎮南浦水道上水保護區域

大正四年十一月五日
平安南道警務部令第五號

水道上水保護規則等四條ニ依リ平壤水道及鎮南浦水道上水保護區域ヲ左ノ通改ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年十月平安南道警務部令第七號ハ之ヲ廢止ス

一 平壤水道上水保護區域

平安南道大同郡大同江面綾羅里一圓、同面鰲村里地籍太同江

本流沿岸及其ノ本流第一號圖面境界線内

一 鎮南浦水道上水保護區域

平安南道龍岡郡大代面山洞里、鎮南浦水道貯水池流域全部第一號圖面境界線内

○海州水道上水保護區域

大正六年九月十五日
黃海道警務部令第三號

明治四十三年九月統監府令第六十一號水道上水保護規則第四條ニ依リ海州水道上水保護區域ヲ左ノ通定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水道上水保護區域

ニ至ル境界線内(附圖點線内)

△氣界線

五五〇

○平壤水道及鎮南浦水道上水保護區域

大正四年十一月五日
平安南道警務部令第五號

水道上水保護規則等四條ニ依リ平壤水道及鎮南浦水道上水保護區域ヲ左ノ通改ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年十月平安南道警務部令第七號ハ之ヲ廢止ス

一 平壤水道上水保護區域

平安南道大同郡大同江面綾羅里一圓、同面繁村里地籍大同江本流沿岸及其ノ本流第一號圖面境界線内

一 鎮南浦水道上水保護區域

平安南道龍岡郡大代面山洞里、鎮南浦水道貯水池流域全部第一號圖面境界線内

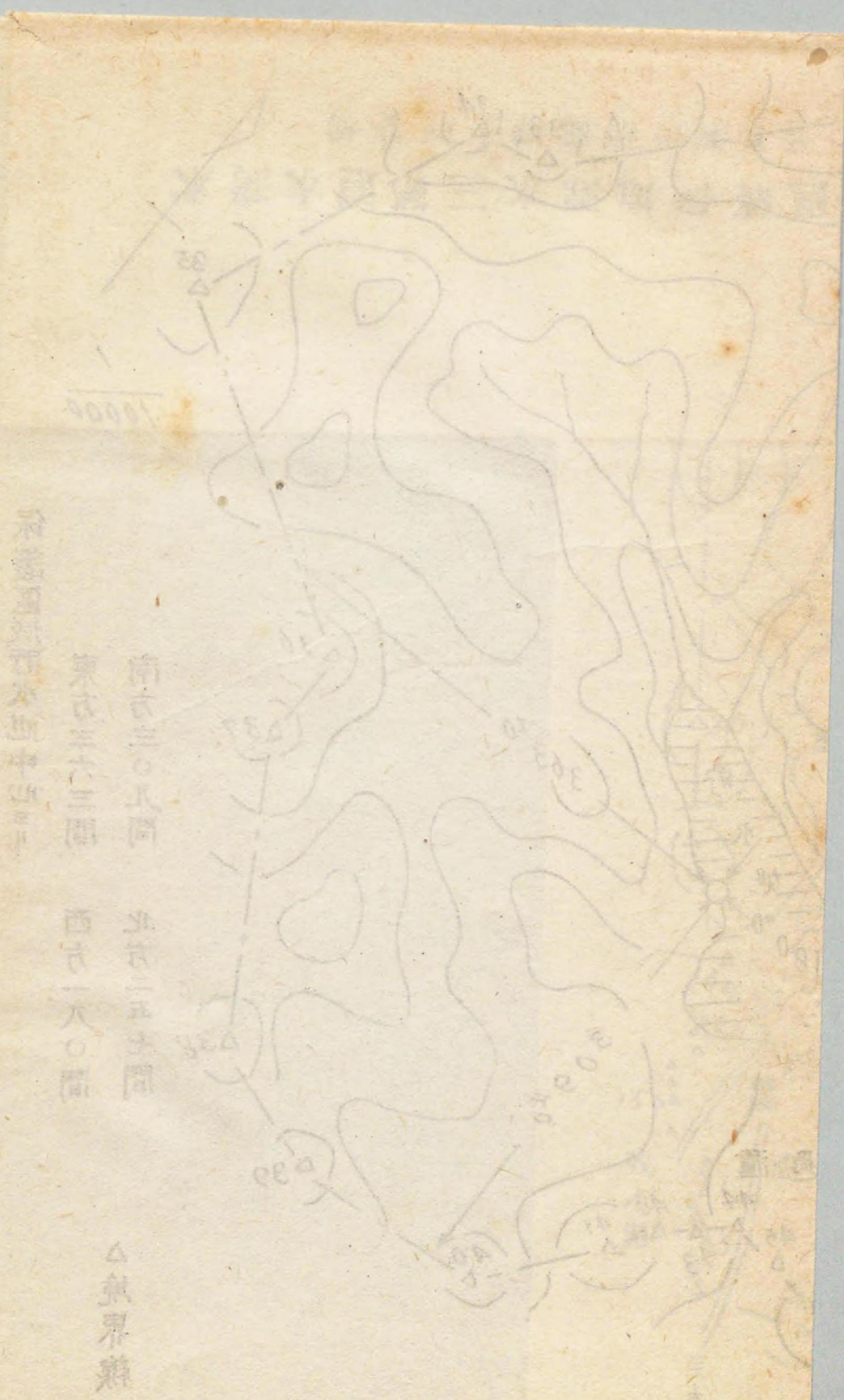
○海州水道上水保護區域

大正六年九月十五日
龍岡道警務部令第三號

明治四十三年九月統監府令第六十一號水道上水保護規則第四條ニ依リ海州水道上水保護區域ヲ左ノ通定ム

水道上水保護區域

海州郡海州面及泳東面廣石川流域ノ内海州郡海州面上町所在水道取水場ノ北方五百間ノ地點ヨリ東方九百間、南方五百五十間、西方五百五十間、西北方千五百間、北方六百五十間、各分水嶺

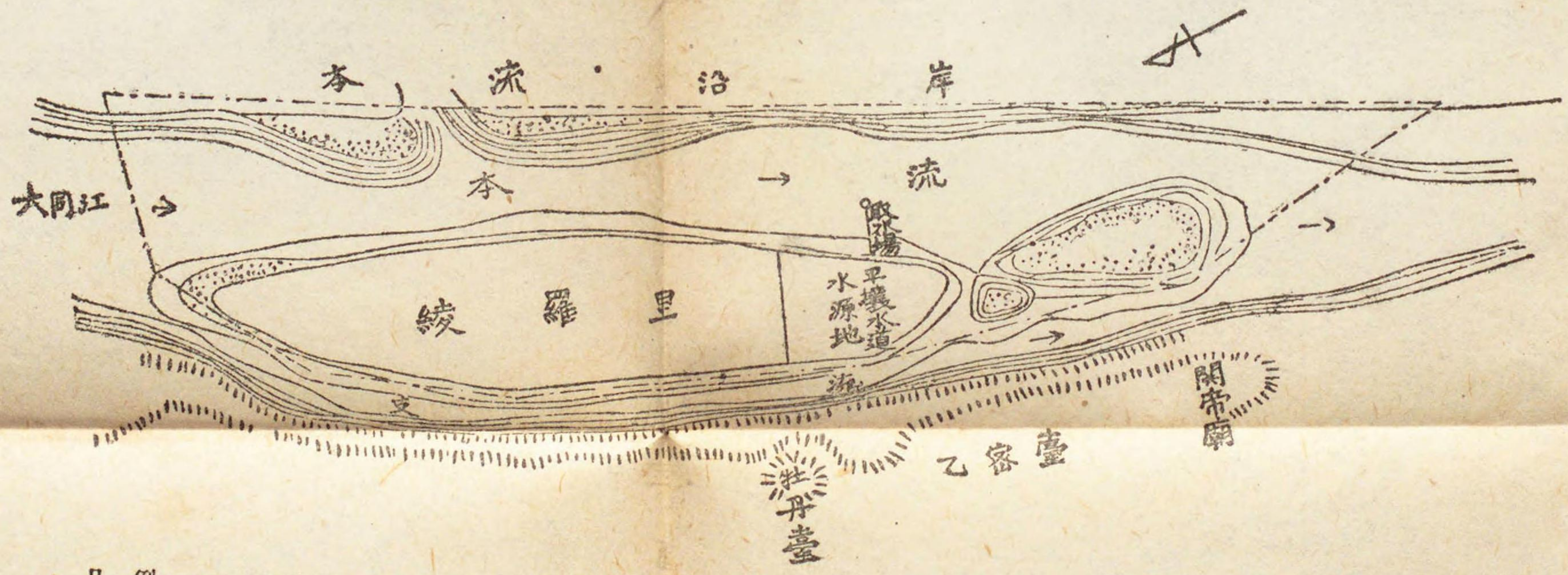


二至ル境界線内(附圖點線内)

第一號

平壤水道上水保護區域平面圖

大同郡大同江面鰲村里



凡例
 平壤水上水
 保護區域
 境界線

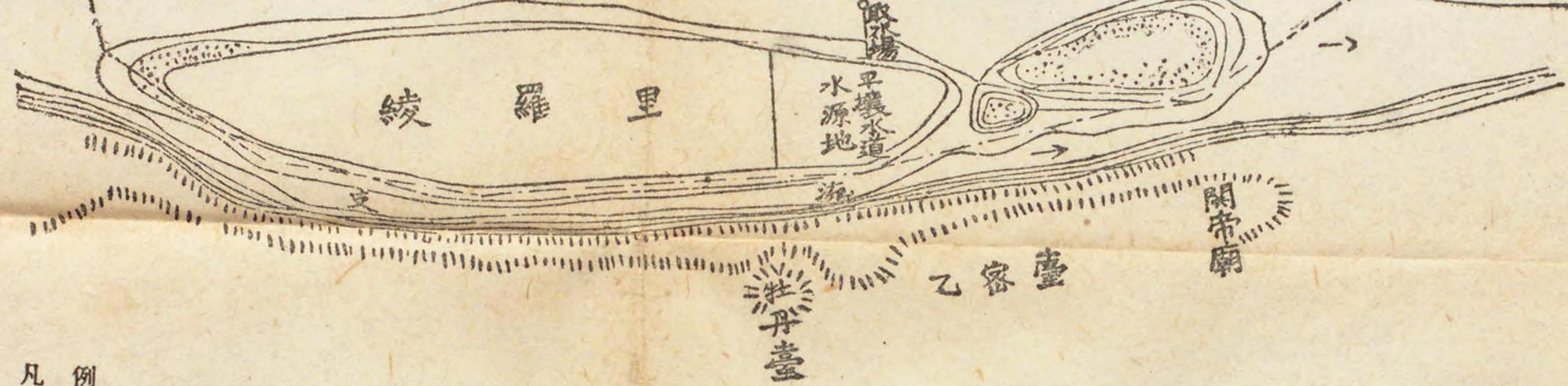
第二號

鎮南浦水道上水保護區域平面圖



○平壤水道及鎮南浦水道水保護區域平面圖

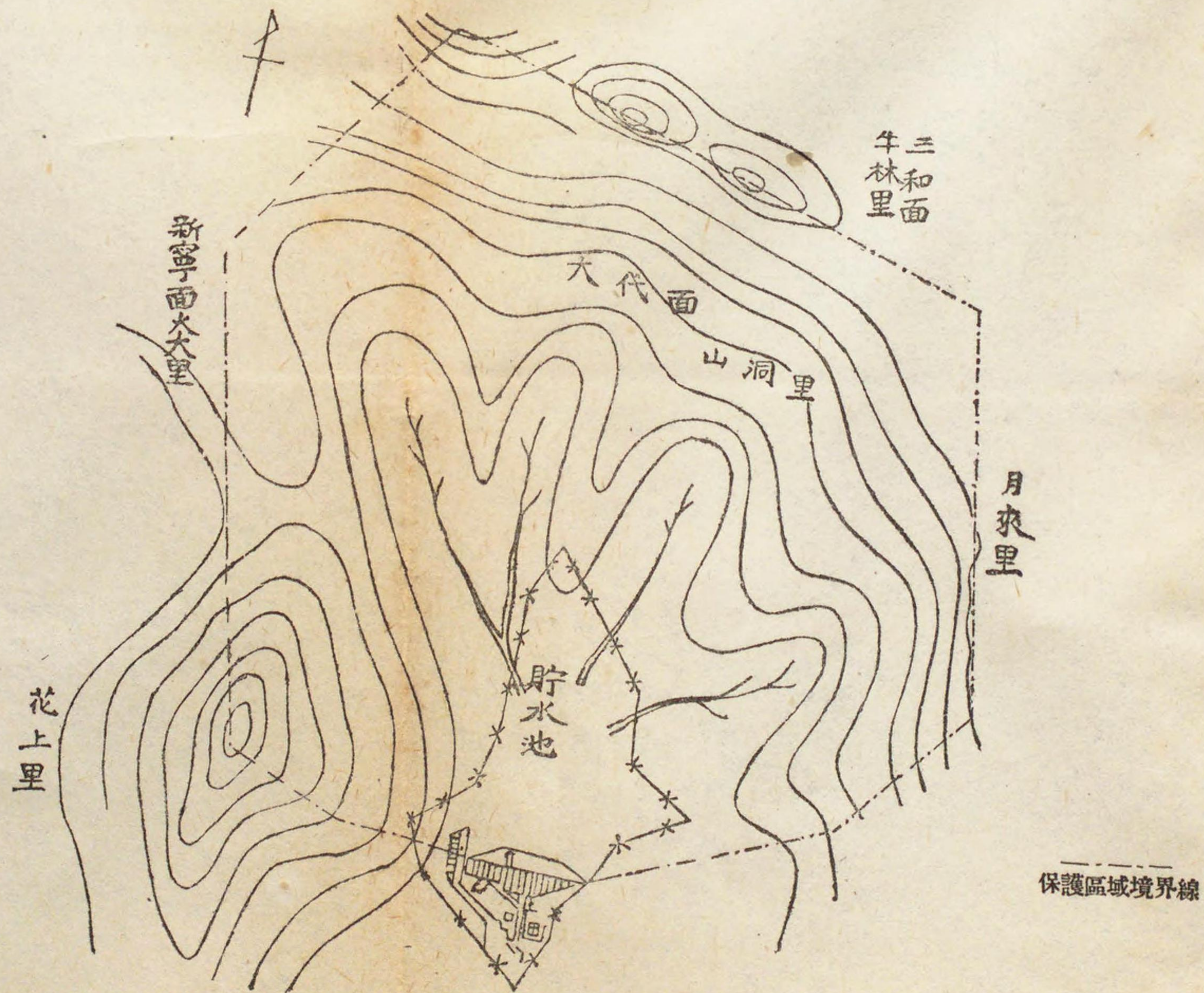
本圖係根據大正十三年(一九二四年)日本對朝鮮之調查資料而繪製者。其範圍係指平壤水道及鎮南浦水道之水源地區而言。其範圍之劃定，係根據該年日本對朝鮮之調查資料而繪製者。其範圍之劃定，係根據該年日本對朝鮮之調查資料而繪製者。



凡例
 平壤上水
 保護區域
 境界線

第二號

鎮南浦水道上水保護區域平面圖



一五七〇二

○平壤水道鎮南浦水道上水保護區域

本圖係根據一九三九年平壤水道調查所調查之資料繪製而成其範圍如下

一 平壤水道鎮南浦水道上水保護區域

二 平壤水道鎮南浦水道上水保護區域

三 平壤水道鎮南浦水道上水保護區域

四 平壤水道鎮南浦水道上水保護區域

五 平壤水道鎮南浦水道上水保護區域

（三）平壤水道鎮南浦水道上水保護區域

圖面平對測製其水土情形南

第一卷

圖中標記其測大形相大



大田

圖中
平對
測製
其水土
情形南

圖面平對測製其水土情形南

第二卷



大田



圖 八
牙 聖 泉
野 聖 泉
土 聖 泉
水 聖 泉

圖 二 第

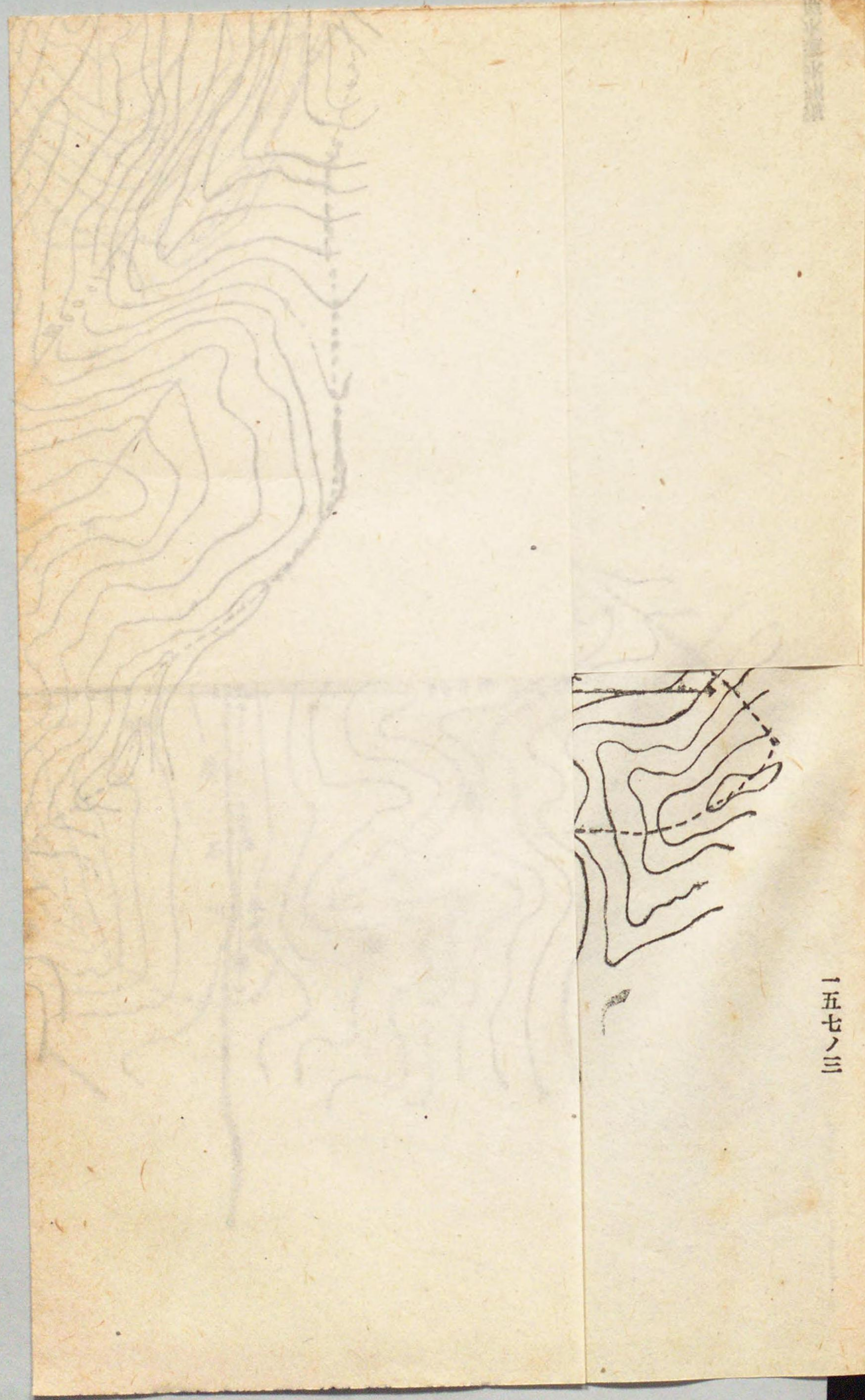


一五七ノ三

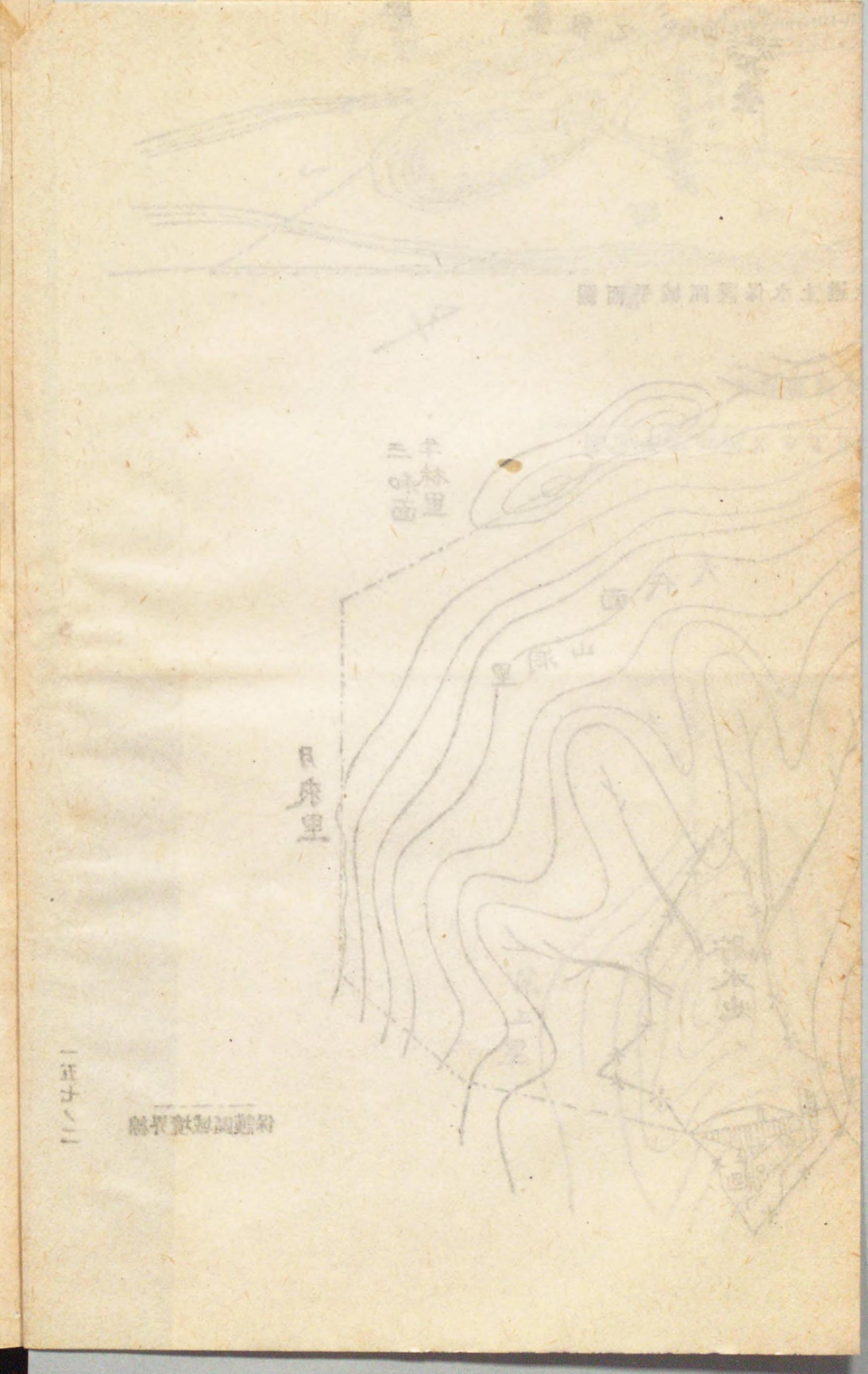
一五七ノ二

縣 界 圖 說 附 錄





一五七ノ三



一五七ノ二

新島郡新島町

日登里

牛久保川

大田山

大田

新島郡新島町



海州水道水原地保護區域







○元山水道上水保護區域

大正四年四月二十八日
威鏡南道警務部令第一號

元山水道上水保護區域左記ノ通相定ム

威鏡南道德源郡赤田面新興里南方ニ於ケル水道送水線路赤田川横
斷箇所ヨリ上流取水場迄ハ其ノ河身及兩沿岸並同取水場ニ對シ新
興里ノ内字日出洞、酸梨洞、大通洞ヲ包含スル谷地一圓

○水道事業月報提出方ノ件

大正四年七月十日
土第九五四號

全羅北道長官宛

土木局長

水道調査上必要ニ付群山水道ニ就キ爾今別紙様式ニ依ヒ事業月報
ヲ調製シ毎月十日迄ニ御提出相成度此段及通牒候也
追テ給水開始以來本年六月迄ノ分ハ月別ニ調製シ此際取纏メ本
月末日迄ニ提出相成度申添候

○京城水道給水取締ニ關スル件

大正四年八月七日
土第一〇九六號

土木局長

給水上
サル場
察官憲
也

追テ
時間
申添候

明治四十

三月三十
水ヲ受ケ
道給水相

○元山水道上水保護區域

大正四年四月二十八日
咸鏡南道警察部令第一號

元山水道上水保護區域左記ノ通相定ム

咸鏡南道德源郡赤田面新興里南方ニ於ケル水道送水線路赤田川横
斷箇所ヨリ上流取水場迄ハ其ノ河身及兩沿岸並同取水場ニ對シ新
興里ノ内字日出洞、酸梨洞、大通洞ヲ包含スル谷地一圓

○水道事業月報提出方ノ件

大正四年七月十日
土第九五四號

土木局長

全羅北道長官宛

水道調査上必要ニ付群山水道ニ就キ爾令別紙様式ニ依ヒ事業月報
ヲ調製シ毎月十日迄ニ御提出相成度此段及通牒候也

追テ給水開始以來本年六月迄ノ分ハ月別ニ調製シ此際取纏メ本
月末日迄ニ提出相成度申添候



給水上ニ支障影カラズ殊ニ水量不足ノ結果一般ニ斷水ノ已ムヲ得
サル場合ニ立至リ候際ニ有之候條夏季間ハ巡視員ヲ増配督勵シ警
察官憲ノ助力ト相俟テ嚴重ニ取締方勵行相成度此段依命及通牒候
也

追テ一般給水ニ支障アル虞アル場合ニ於テハ官設共用栓ノ使用
時間ヲ相當制限相成候義ハ支障無之候ニ付經伺ノ上措置相成度
申添候也

○仁川水道給水開始ノ件

明治四十三年十一月二十九日
本府告示第五九號

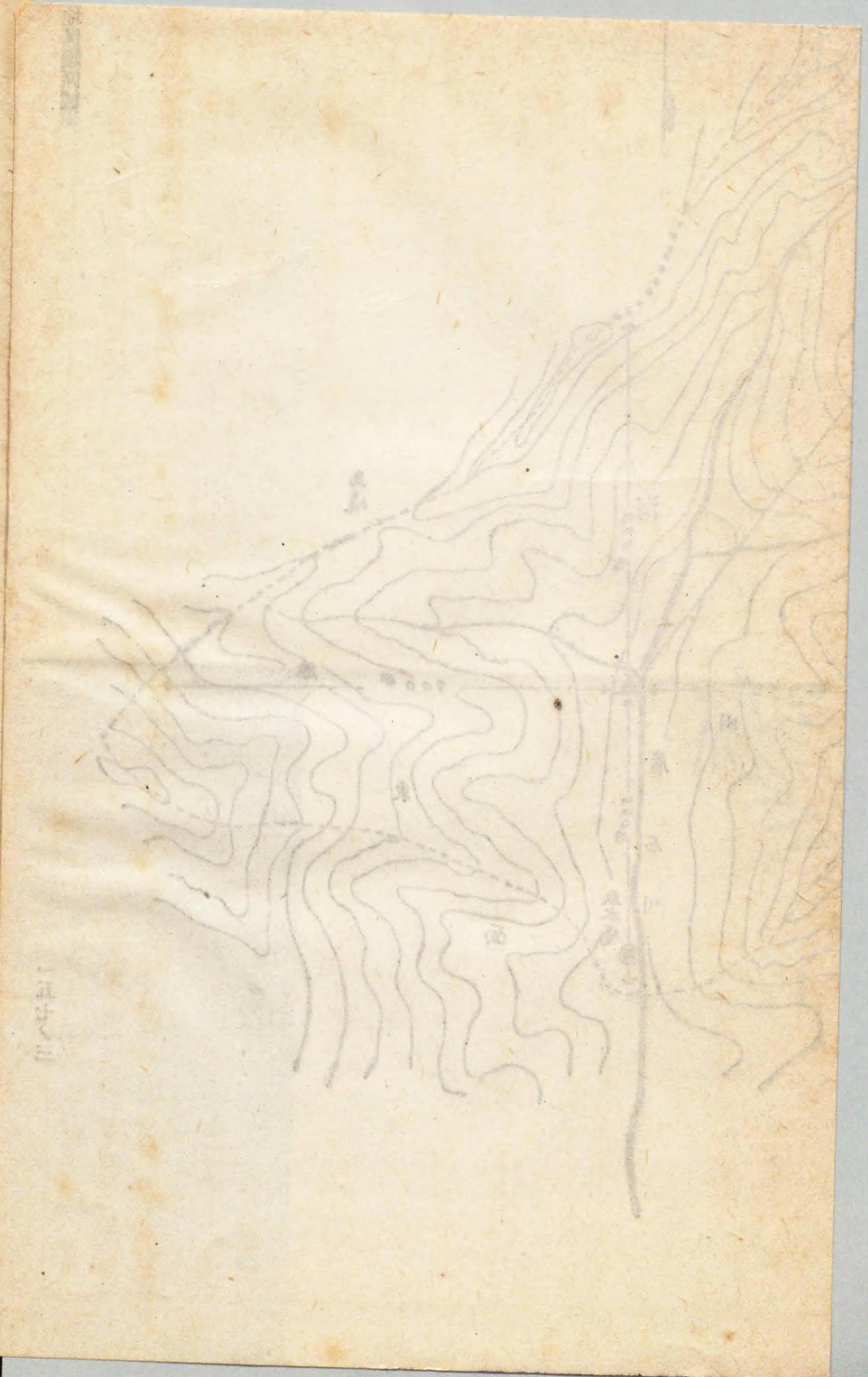
明治四十三年十二月一日ヨリ仁川水道ノ給水ヲ開始ス

○京城水道給水事務開始ノ件

明治四十四年四月一日
京畿道告示第二號

京城水道ハ四月一日ヨリ本道之ヲ管理シ同日ヨリ給水事務ヲ開始
ス

三月三十一日以前ニ於テ給水工事ノ請求ヲ爲シタルモノ及見込給



○元山水道上下保護區域

大正四年四月二十八日
咸鏡南道警察部令第一號

元山水道上下保護區域左記ノ通相定ム

咸鏡南道德源郡赤田面新興里南方ニ於ケル水道送水線路赤田川横斷箇所ヨリ上流取水場迄ハ其ノ河身及兩沿岸竝同取水場ニ對シ新興里ノ内字日出洞、酸梨洞、大通洞ヲ包含スル谷地一圓

○水道事業月報提出方ノ件

大正四年七月十日
土第九五四號

全羅北道長官宛

土木局長

水道調査上必要ニ付群山水道ニ就キ爾令別紙様式ニ依リ事業月報ヲ調製シ毎月十日迄ニ御提出相成度此段及通牒候也

追テ給水開始以來本年六月迄ノ分ハ月別ニ調製シ此際取纏メ本月末日迄ニ提出相成度申添候

○京城水道給水取締ニ關スル件

大正四年八月七日
土第一〇九六號

土木局長

京畿道長官宛

水道ノ給水取締ニ關シテハ曩ニ通牒ニ及候次第モ有之候處于今一般ニ濫用ノ弊ニ流レ殊ニ官設共用給水ニ在リテハ密ニ販賣盗用ヲ爲ス者有之ノミナラス或ハ之ヲ沐浴用ニ供シ若ハ給水栓流場ニ於テ洗濯、米磨、魚菜ノ調理等ヲ爲シ濫用スルヤノ聞込モ有之一般

給水上ニ支障カラス殊ニ水量不足ノ結果一般ニ斷水ノ已ムヲ得サル場合ニ立至リ候際ニ有之候條夏季間ハ巡視員ヲ増配督勵シ警察官憲ノ助力ト相俟テ嚴重ニ取締方勵行相成度此段依命及通牒候也

追テ一般給水ニ支障アル虞アル場合ニ於テハ官設共用栓ノ使用時間ヲ相當制限相成候義ハ支障無之候ニ付經伺ノ上措置相成度申添候也

○仁川水道給水開始ノ件

明治四十三年十一月二十九日
本府告示第五九號

明治四十三年十二月一日ヨリ仁川水道ノ給水ヲ開始ス

○京城水道給水事務開始ノ件

明治四十四年四月一日
京畿道告示第二號

京城水道ハ四月一日ヨリ本道之ヲ管理シ同日ヨリ給水事務ヲ開始ス

三月三十一日以前ニ於テ給水工事ノ請求ヲ爲シタルモノ及現ニ給水ヲ受クルモノハ明治四十四年二月朝鮮總督府令第十八號官營水道給水規則ニ依リ給水ノ申込又ハ給水工事ノ請求ヲ爲シタルモノト看做ス

○京畿道水道事務所及派出所名稱位置

明治四十四年四月一日
京畿道告示第三號

京畿道水道事務所及派出所ノ名稱位置左ノ通定ム

時期ナルハ勿論、次第有之就テ各地水道機關ノ整備上此際一層ノ注意ヲ加ヘ尙沈澱池、濾過池、配水池ノ如キハ當分ノ間成ルヘク各豫備地ニ充滿水モシテ交互ニ之ヲ使用スルコトトシ以テ不時斷水ノ憂ナキ程相合ノ準備必要ト認メ候條其ノ邊各常時者ニ對シ特ニ御注意相成度此段及通標候也

官營水道給水規則

大正四年十一月十五日
府令第一八一號
改正 大正八年十一月二十二日
府令第一八一號

第一章 通則

- 第一條 給水ノ種類ヲ分チテ左ノ五種トスルニシテ計量ノ方法ニ依リ又ハ計量ノ方法ニ依リテ計量スルコトヲ計量ノ方法ニ依リテ計量スルコトトシ
- 一 計量ノ方法ニ依リテ計量スルコトトシ
- 二 計量ノ方法ニ依リテ計量スルコトトシ
- 三 計量ノ方法ニ依リテ計量スルコトトシ
- 四 計量ノ方法ニ依リテ計量スルコトトシ
- 五 計量ノ方法ニ依リテ計量スルコトトシ

トアルヘシ

- 第二條 給水ヲ受ケムトスル者ハ水道管理廳ニ請求スヘシ給水用具ノ位置變更、改造、増設、修繕、撤去又ハ給水ノ中止若ハ廢止ヲ爲サムトスルキ亦同シ
- 前項ノ請求ニシテ私設又ハ官設ノ共用給水ノ使用ニ關スルトキハ家主カ借家人ノ爲ニ私設ノ共用給水ヲ受ケル場合ヲ除クノ外使用者ノ中ヨリ總代人ヲ定メ總代人ヨリ之ヲ請求スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ官設共同給水ノ使用ニ關シテハ總代人ヲ設定セザルコトヲ得
- 第三條 給水使用者給水區域内ニ居住セザルトキハ給水ニ關スル納付金其ノ他ノ事務ヲ處理セザルニシテ給水區域内ノ居住者ヲ代總代人ニ定メ水道管理廳ニ届出ツルニシテ變更シザルトキ亦同
- 第四條 同一戸内又ハ同一箇所内ニ於テ計量ノ方法ニ依ル給水ト計量ノ方法ニ依ラザル給水トヲ併用スルコトヲ得ス但シ第十八條第二號、第三號又ハ第二十三條第一項ノ給水ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 變災其ノ他已ム得サル事故アルトキ又ハ水道工事ノ爲必要アルトキハ給水ヲ停止シ又ハ制限スルコトヲ得ルニシテ重要モ第六條 水道管理廳ハ給水用具検査ノ爲其ノ係員ヲシテ證票ヲ携帶シ日出ヨリ日没迄ノ間ニ於テ給水使用者ノ邸宅内ニ立入りテムルコトヲ得

- 第七條 左ノ場合ニ於テハ私設若ハ總代人ヲ設ケタル官設ノ共用給水ニ在リテハ總代人、其他ノ給水ニ在リテハ給水使用者又ハ代理人ヨリ其ノ旨直ニ水道管理廳ニ届出ツヘシ
 - 一 給水用具ノ破損又ハ漏水其ノ他給水土異狀ヲ生シタルトキ
 - 二 給水ノ種別ヲ變更スヘキ事由ヲ生シタルトキ
 - 三 料金算定標準ニ異動ヲ生シタルトキ
 - 四 給水使用者、其ノ代理人又ハ共用給水ノ總代人其ノ住所氏名ヲ變更シタルトキ
 - 五 私設又ハ官設ノ共用給水ノ使用者ニ異動ヲ生シタルトキ
 - 六 火災ノ爲私設消火栓ヲ使用シタルトキ
- 第二章 給水工事
- 第八條 第二條ノ請求ニ依リ給水工事ヲ必要トスルコトキハ水道管理廳ニ於テ之ヲ施行ス但シ水道管理廳ニ於テ給水用具ノ改造若ハ修繕ノ必要アルト認メタルトキハ請求ヲ俟タズシテ之ヲ施行スルコトヲ得
- 前項ノ給水工事費ハ官設共用給水又ハ船舶用給水ニ關スルモノヲ除クノ外其ノ工事ヲ受ケタル者ノ負擔トス
- 給水用具ハ給水工事費ヲ負擔シタル者ノ所有トス
- 給水工事ヲ竣功シタル後二月以内ニ給水用具ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ水道管理廳ハ其ノ費用ヲ以テ之ヲ修補スルコトヲ得

- 第九條 第二條ノ請求ニヨリ給水工事ノ設計ヲ必要トスルコトキハ修繕工事又ハ官設共用給水者ハ船舶用給水ニ關スルモノヲ除クノ外工事設計手数料ヲ徴收シ設計後之方變更シタルトキ亦同シ
- 第十條 給水工事費ハ修繕工事ヲ請求スル場合ヲ除クノ外前納スヘシ但シ官公署ノ請求ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セザルトキハ第二條ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス
- 第十一條 給水用具ノ代價ヲ納付セシメ給水ヲ受ケムトスル者三ハ使用料ヲ徴收シテ給水用具ヲ貸付スルニトアルヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ給水用具ノ改造又ハ修繕工事ニ要スル費用ハ貸付ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ
- 第十二條 前條ノ貸付ヲ受ケタル者ハ給水用具ノ代價ヲ納付シテ給水用具ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得
- 水道管理廳ハ六箇月以内ノ期間ニ於テ前項ノ代價分納ヲ許可スルコトヲ得

第十三條 給水用具ノ貸付ヲ受ケタル者給水ノ使用ヲ廢止シ又ハ給水料金、給水用具使用料若ハ前條ノ分納金ノ納付ヲ怠リタルトキハ水道管理廳ハ給水用具ヲ撤去シ撤去ニ要シタル費用ハ貸付ヲ受ケタル者ヨリ徵收ス

第十四條 給水用具ヲ讓渡シタルトキハ當事者連署ヲ以テ水道管理廳ニ届出ツヘシ

第十五條 給水用具ノ代價ヲ分納スル者ニシテ其ノ代價ヲ完納セサル者ハ水道管理廳ノ承認ヲ受ケルニ非サレハ其ノ權利ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十六條 自己ノ材料ヲ提供シテ給水工事ニ使用セムトス者ハ材料目錄ヲ提出シ水道管理廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 自己ノ材料ヲ以テ管末又ハ栓末ニ特別ノ裝置ヲ爲サムトスル者ハ設計書、圖面及材料目錄ヲ提出シテ水道管理廳ノ許可ヲ受クヘシ

總代人變更ノ場合ハ使用者及總代人連署ノ上届出ツヘシ

第二十一條 施設共用給水ノ使用者ハ給水ノ使用ニ關シ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第二十二條 共用給水ノ使用者ニハ鑑札及鍵ヲ交付ス

第二十三條 請求者ノ費用ヲ以テ消火栓ノ設置ヲ請求スルトキハ水道管理廳ハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十四條 計量ノ方法ニ依ル給水ノ消費水量ハ水道管理廳ニ於テ設置スル量水器ニ依リ之ヲ定ム但シ量水器ヲ設置シ難キ場合

第十四條 給水用具ヲ撤去シタル場合ニ於テ既納ノ給水用具代價ノ分納金アルトキハ之ヲ撤去費並給水用具使用料又ハ給水料ノ未納金ニ充當ス若分納金ニシテ其ノ額ニ足ラサルトキハ更ニ其ノ差額ヲ徵收ス

第十五條 給水用具ヲ讓渡シタルトキハ當事者連署ヲ以テ水道管理廳ニ届出ツヘシ

第三章 給水

第十八條 左ノ各號ニ該當スルモノハ計量ノ方法ニ依ル専用給水ヲ受クヘシ

- 一 官公署、兵營、學校、鐵道、病院、銀行、會社、集會所、工場、魚市場、製造業、釀造業、染物業、寫真業、印刷業、劇場、寄席、旅館、下宿業、合宿所、料理店、飲食店、貸座敷、湯屋業、洗濯業、植木屋、理髮業、酒肆、油販賣業、豆腐製造業、漬物製造所、魚商、牛乳搾取所、牛乳販賣店但シ多量ノ水ヲ使用セスト認ムルモノハ之ヲ除ク
- 二 庭園、噴水、瀧、泉地其ノ他娛樂ノ用ニ供スルモノ
- 三 工事其ノ他ノ爲一時ノ使用ニ供スルモノ
- 四 前各號ノ外特ニ希望スルモノ又ハ多量ノ水ヲ使用スト認ムルモノ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ家事用ニ供スル場合ニ限り共用給水ヲ受ケルコト得、營業用ニ供スル場合ト雖多量ノ給水ヲ要セサルトキ亦同シ

第二十條 共用給水ノ總代人ハ給水ノ使用ニ關シ使用者ノ爲ニ料金ノ納付其ノ他ノ事務ヲ處辨スヘシ

第二十五條 水道管理廳ニ於テ量水器ヲ點檢シタルトキハ消費水量ノ検査證ヲ作り使用者ニ交付スヘシ

第二十六條 量水器使用者量水器ニ故障アリ下認ムルトキハ水道管理廳ニ其ノ試験ヲ請求スルコトヲ得

第二十七條 量水器ハ其ノ使用者ヲシテ之ヲ保管セシム使用者ハ保證人ヲ定メ連署ヲ以テ保管證書ヲ提出スヘシ但シ官公署ノ場合ニハ保證人ヲ要セス

第二十八條 計量ノ方法ニ依ル給水ノ給水料ハ第二十三條ノ場合ヲ除クノ外左ノ區分ニ依ル

甲 専用給水

第四章 料金及徵收

一 工事其ノ他一時ノ給水五立方、メートル迄一圓七十錢、五立方、メートル以上一立方、メートル迄増ス毎二十圓四錢ヲ加フ

二 庭園、噴水、瀧、泉池其ノ他ノ娛樂用給水三十二分三十立方、メートル迄十一圓七十五錢、三十立方、メートル以上一立方、メートル迄増ス毎三十五錢ヲ加フ

三 湯屋業用給水三十日分六十立方、メートル迄六圓十五錢、六十立方、メートル以上一立方、メートル迄増ス毎二十九錢ヲ加フ

四 湯屋業用給水ヲ除クノ外第十八條第一號若ハ第四號ニ該當スル給水三十日分四十立方、メートル迄五圓三十錢、四十立方、メートル以上一立方、メートル迄増ス毎二十二錢ヲ加フ

五 前各號以外ノ給水三十日分十二立方、メートル迄一圓五十錢、十二立方、メートル以上一立方、メートル迄増ス毎二十二錢ヲ加フ

乙 私設共用給水三十日分一栓ニ付十二立方、メートル迄一圓五十錢、十二立方、メートル以上一立方、メートル迄増ス毎二十錢ヲ加フ

丙 船舶用給水五立方、メートル迄一圓五十錢、五立方、メートル以上一立方、メートル迄増ス毎二十錢ヲ加フ

一月又ハ一箇所ノ給水ニシテ水量二箇以上ヲ裝置シタルトキ

ハ各箇ニ付給水料金ヲ計算ス

消費水量検査ノ際第一項甲第二號乃至第五號及乙ノ給水ノ消費日數カ三十日ニ過不足アルトキハ前項ノ最低消費水量及其ノ料金ハ日割ヲ以テ計算ス

第二十九條 計量ノ方法ニ依ラサル専用給水料ハ左ノ區分ニ依ル

一 建坪十五坪迄ノ家屋一月本栓一箇ニ付一圓五十錢支栓一箇ニ付四十五錢、十五坪以上五坪迄増ス毎二本栓三十五錢支栓十二錢ヲ加フ

二 支栓ヲ設ケサル浴槽一箇毎二月一圓三十五錢

三 牛馬一頭毎二月六十錢

計量ノ方法ニ依ラサル専用給水ニ依リ營業用ノ給水ヲ受クルトキハ前項ノ給水料ノ外前項第一號ニ依リ算定シタル給水料ノ五割ヲ徴收ス

第三十條 計量ノ方法ニ依ラサル私設共用給水料ハ左ノ區分ニ依ル

一 建坪十五坪迄ノ家屋ハ一月ニ付一月九十錢、十五坪以上五坪迄増ス毎二十錢ヲ加フ

二 浴槽一箇毎二月三十五錢

三 牛馬一頭毎二月六十錢

計量ニ依ラサル私設共用給水ニ依リ營業用ノ給水ヲ受クルトキハ前項ノ給水料ノ外前項第一條ニ依リ算定シタル給水料ノ五割ヲ徴收ス

第三十一條 給水料ニ關スル建物噸數ノ計算ハ左ノ方法ニ依ル

一 本構造ノ如何ヲ問ハズ總テ外廓以テ計算ス

二 地下室及三層以上ニ屬スルモノハ三坪ヲ以テ一坪ニ計算ス

三 一坪未満ノ噸數ハ切捨トス

四 厩舎、浴室及獨立シタル倉庫ハ建物ノ坪數ヲ算入セズ

第三十二條 官設共用給水料ハ左ノ區分ニ依ル

一 一月一圓四十五錢

二 浴槽一箇毎二月一圓十五錢

三 牛馬一頭毎二月三十錢

官設共用給水ニ依リ營業用ノ給水ヲ受クルモノハ前項第一號ノ給水料ノ外其ノ五割ヲ徴收ス

第三十三條 私設消火栓ニ依ル消火用給水ノ演習使用料ハ一栓一圓毎二月二十五錢トス

第三十四條 給水用具ノ使用料ハ一月ニ付給水用具代價ノ千分ノ十五トス

前項ノ使用料ハ其ノ使用期間一月ニ滿タサル下キ又ハ給水ノ中車中ト雖全月分ヲ徴收ス

第三十五條 給水工事設計手数料ハ一工事ニ付一圓トス但シ其ノ設計シタル工事ヲ施行スル場合ニ在リテハ之ヲ工事費ノ一部ニ充當ス

第三十六條 第十六條又ハ第十七條ノ許可ヲ受ケタル者ハ工事用材料検査ノ爲メノ手数料ヲ納付ス

一 水栓類又ハ附屬品 一箇ニ付十錢

二 鐵管類、鉛管類又ハ附屬品 一本又ハ一箇ニ付三十錢

第十七條 第二項ノ場合ニ於テハ前項手数料ノ外一工事ニ付検査手数料二圓ヲ納付ス

第三十七條 第二十三條第三項ノ規定ニ依リ鑑札若ハ鍵ノ交付手数料ハ一箇ニ付三十錢トス

第三十八條 計量ノ方法ニ依ル給水料ハ毎月定期ニ量器ヲ點檢チ爲シ點檢後二十日以内ニ徴收ス但シ船舶用給水又ハ一時ノ給水ニアリテハ特別ノ契約ニ依ル場合ヲ除ク外噴水ノ徴收ス

第三十九條 計量ノ方法ニ依ラサル専用給水料及私設又ハ官設ノ共用給水料ハ左ノ六期ニ於テ毎月初日現在ニ依リ調定シ其ノ二箇月分ヲ徴收ス

第一期 四月及五月 納期 四月二十五日限

第二期 六月及七月 同 六月二十五日限

第三期 八月及九月 同 八月二十五日限

第四期 十月及十一月 同 十月二十五日限

第五期 十二月及一月 同 十二月二十五日限

第六期 二月及三月 同 二月二十五日限

月ノ中途ニ於テ料金ヲ變更スヘキ事實生シタルトキハ翌月分ヨリ給水料ヲ訂正ス但シ調定済ノ料金ハ之ヲ徴收ス其ノ料金ニ過不足ヲ生シタルトキハ次期分ニ於テ之ヲ精算ス

第三十九條ノ二 給水用具使用料ノ徴收ニ關シテハ前條ノ規定ヲ

準用スルルモノトシテ、
 第四十條 月ノ中途ニ於テ第三十九條ノ給水ヲ開始シタル場合ノ給水料ハ給水ノ開始カ十五日以前ナルトキハ全月分、十六日以後ナルトキハ半月分トシ開始當日ノ現在ニ依リ測定シ其ノ期分ヲ隨時徴收ス
 給水ノ中止、廢止若ハ第四十五條ニ依リ停止ノ爲其ノ使用カ一月ヲ滿タサルトキト雖其ノ月分ノ料金ハ之ヲ徴收ス但シ中止又ハ廢止シタル給水チ同月内ニ開始スルトキハ其ノ月ノ料金ハ重額水ヲ徴收セズ
 第四十一條 給水ノ種類ヲ變更シタルトキハ其ノ料金ハ左ノ區分ニ依リ徴收ス
 一 計量ノ方法ニ依ラサル専用給水、私設共用給水及官設共用給水チ相互變更シタルトキハ其ノ變更ヲ爲シタル當時ノ現在ニ依リ翌月分ヨリ料金ヲ訂正ス但シ其ノ期分ノ測定料金ハ二之ヲ徴收シ過不足ヲ生シタルトキハ次期分ニ於テ之ヲ清算ス
 三 計量ノ方法ニ依ラサル専用給水チ計量ノ方法ニ依ラサル専用給水又ハ私設若ハ官設ノ共用給水
 四 法ニ依リタル専用給水ノ料金ハ計量ニ依リ、變更後ノ給水ノ料金ハ日割チ以テ其ノ月分ヲ計算シ其ノ期分ヲ隨時徴收ス
 三 計量ノ方法ニ依ラサル専用給水又ハ私設若ハ官設ノ共用給水
 一 水チ計量ノ方法ニ依ル専用給水ニ變更シタルトキハ變更以前ノ給水料ハ日割チ以テ計算ス但シ其ノ期分ノ測定料金ハ之

ニ徴收シ其ノ超過額ハ變更後ノ給水料徴收ノ時期ニ於テ清算ス
 第四十二條 給水料ハ第五條ノ規定ニ依リ給水チ制限シ又ハ一時停止スル場合ト雖之ヲ減免セズ
 第四十三條 私設消火栓ニ依リ消火用給水ノ演習使用料ハ使用ノ都度之ヲ徴收ス
 第四十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ給水工事費及料金チ減免スルコトアルヘシ
 一 道路撤水用ノ爲給水スルモノ
 二 慈善事業ノ爲給水スルモノ
 三 公共ノ必要ニ應シ一時給水スルモノ
 四 前各號ノ外特別ノ事由アルモノ
 第五節 罰則
 第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ給水チ停止シ其ノ損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ
 一 給水工事費、給水用具ノ代金又ハ給水料其ノ他ノ料金チ期限内ニ納付セザル者
 二 給水チ濫用、分與又ハ販賣シタル者
 三 濫ニ給水用具又ハ量水器ヲ移動、變更、改造、増設、修繕又ハ毀損シタル者
 四 許可ヲ受ケズシテ管末又ハ栓末裝置ヲ爲シタル者
 五 虚偽ノ届出ヲ爲シタル者

六 罰則

故ナク係員ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ妨害シタル者
 第七條 故ナク第三條、第七條、第十四條若ハ第二十條ノ届出チ怠ラシ又ハ第十二條第四項若ハ第二十七條第二項ノ手續チ怠リ又ハ首領ル者
 第四十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ料金ニ處ス
 一 前條第二號乃至第六號ノ一ニ該當スル者
 二 鑑札及鍵ヲ携帯セスシテ私設又ハ官設ノ共用給水チ汲取タル者
 三 鑑札若ハ鍵ヲ貸與シ私設又ハ官設ノ共用給水チ汲取セシメタル者
 四 他人ノ鑑札若ハ鍵ヲ使用シ又ハ不正ノ方法ニ依リ私設又ハ官設ノ共用給水チ汲取シタル者
 五 第十七條第二項ノ検査ヲ受ケズシテ給水チ使用シ又ハ第二十三條第四項ノ立會ヲ受ケズシテ演習ノ爲私設消火栓ノ給水チ使用シタル者
 本令ハ大正四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス(改正附則)
 本令ハ大正八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス(改正附則)

○官營水道給水規則疑義ノ件

(其一)

政務 總 監

土木法規 第四章 上水及下水

平安南道長官宛
 大正八年二月十二日平安南水第八〇號稟何首題ノ件左記ノ通御了知相成度此段及通牒候也

一 貸付シタル給水用具ノ腐蝕シタルトキハ國ノ損失トシテ處理スルモノトス但シ腐蝕ノ原因カ使用者ノ故意又ハ過失ニ出テタルモノトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムルコトヲ得
 二 前項ノ場合ニ於テ給水用具ノ貸付ヲ受ケ引續キ給水チ請求スルトキハ給水用具ハ新造ノ例ニ依リ國費チ以テ施行シ之カ設計手續料及敷設工事ノ費用ヲ負擔トシ一時ニ納付セシメ新造ノ給水用具ニ對シテハ其ノ代價ニ依リ使用料ヲ徴收スルモノトス
 三 敷設工事負擔ノ能力ナキ場合ト雖之ヲ用具代ニ合算シ使用料ヲ徴收シテ新造ノ給水用具ヲ貸付スヘキモノアラズ
 (其二)
 京畿道長官宛
 官營水道規則疑義ノ件平安南道長官稟何ニ對シ別紙寫シ通牒候條御了知相成度此段及通牒候也
 (別紙ハ道長官及稟何一案通牒寫チ添付スルコト)

政務 總 監

參照

給水規則疑義ノ件稟請 大正八年二月十二日 平南道第八〇號

平安南道長官

本令朝鮮總督宛 給水規則第十一條ニ據リ貸付給水用具永年ニ互リ自然腐蝕シ全部布設換テ要スル場合ニハ其ノ腐蝕用具ハ不可抗力ト認メ國ノ損失トシテ處理スヘキモノカ同條第二項ニ據リ引續キ給水ヲ請求シ來ル場合ニハ之レヲ改造ト看做シ其ノ設計工費ニ腐蝕用具ノ價格ト新規拂出テ要スル用具ノ價格ヲ合計負擔セシムヘキモノカ又負擔ノ能力ナキモノハ合計金額ニ對スル使用料ヲ徵收シテ改造用具ノ貸付差額ナキモノカ疑義相生條何分ノ御指示仰度右及稟請候也

○給水規則疑義ノ件

大正八年二月十一日 土部 第三一八九號

土木部長

平安南道知事宛

首題ノ件ニ關シ十一月廿七日附平南火第四六八號御照會ノ趣了承右ノ後段御見込ノ通り同一目的ノ場合ニ於テ各別ニ計算スル義ニ條條御了知相成度此段及御答候也 大正九年三月二十日 土部 第三一八九號 (參照)

給水規則疑義ノ件稟請 大正八年十二月二十七日 平南水第四六八號

平安南道知事

政務總監宛

本月二十一日府令第一八一號ヲ以テ官營水通規則中改正相成候處第二十八條第一項ノ次ニ「一月又ハ一箇所ノ給水ニシテ量水器二箇以上ヲ裝置シタルトキハ各箇ニ付給水料金ヲ計算ス」ト追加相成候處右ニ箇以上ノ量水器ハ其ノ給水使用ノ目的同一ナラズ例ヘハ一箇ハ湯屋兼用水ニ使用ノ目的、一箇ハ庭園娛樂給水ニ使用ノ目的等ノ場合ニシテ全然其ノ料金算定標ノ相違スル場合ヲ指定サレタルモノト心得可然哉又若シ前項ノ意味ニテラズシテ一月又ハ一箇所ニ工事費ノ節約上其ノ使用ノ目的同マシテ二箇以上ノ量水器ヲ各別箇所ニ拂付ル事トアリ從來ハ二箇以上ノ機點數ヲ合計シテ計算シタルモノ今改正ニ依リ各別ニ計算スル必要アルモノノ如シ果シテ然ラハ其ノ使用者ハ毎月二倍以上ノ給水料金ノ負擔トナル右疑義相成生シ條條何分ノ御指示仰度此段及稟請候也 大正九年三月二十三日 土部 第七八一號

○給水規則疑義ノ件

大正九年三月二十三日 土部 第七八一號

土木部長

京畿道知事宛 大正九年三月二十三日 土部 第七八一號 大正九年三月十六日附水第五〇號ヲ以テ稟請相成候首題ノ件右ハ

便宜ノ方法ニヨリ一箇分ヲ徵收ノコトニ御取扱相成可然此段及通牒候也

追テ本件ニ關シテハ大正五年七月本府ニ於テ各水道主任者會同ノ際打合事項トシテ元山水道ヨリ質疑ニ對シ一箇分ヲ便宜ノ方法ニヨリ徵收スヘキコトニ決定ノ次第モ有之候條爲念申添候

(參照)

給水規則疑義ノ件稟請 大正九年三月十六日 水部 第五〇號

京畿道知事

土木部長宛

官設及私設共同竝ニ計量ニ依ラサル専用檢專用者ニシテ特ニ共同使用ノ目的ヲ以テ設置シタル一箇ノ浴槽ニ對シテハ各戸ヨリ各規定ノ浴槽料徵收差支ナキヤ疑義相生シ候ニ付何分ノ御指示仰度右及稟請候也

○官營水道給水料滯納處分ニ關スル件

大正四年十月十五日 官務第二六二號

政務總監

京畿道長官、平安南道長官宛

今般府令第八號ヲ以テ官營水道給水規則改正相成候處給水料金

土木法規

第四章 上水及下水

ノ滯納アリタル場合ハ國稅徵收令同施行規則ニ依リ處理スヘキ儀ニ有之候條此段及通牒候也

追テ滯納者ニ對スル督促手續及督促手数料徵收方ニ關シテモ同様ノ儀ト御了知相成度申添候也

○朝鮮內水道事務打合會ニ關スル件

大正四年六月七日 土部 第四〇九號

政務總監

京畿、慶北、慶南、全北、全南、平南、咸南道長官宛

從來毎年一回輪番ニ朝鮮內水道事務打合會ヲ各水道所在地ニ於テ開會スルノ例ニ有之候處水道ニ關スル行政及技術ニ亘リ一層ノ審議ヲ重ネ以テ新案ノ改良發達ヲ期スル爲メ從前ノ例ヲ廢シ向後ハ必要ニ應シ主任者ヲ本府ニ招集スルコトニ決定相成候條右様御了知ノ上關係當事者ハ豫メ御指示置相成度此段及通牒候也

全羅北道

追テ先般水浦ニ於テ開會シタル水道會議ノ節大正五年ハ群山ニ於テ開會スルコトニ協定セシ趣ニ候得共本文ノ趣旨ニ依リ廢止候様群山府へ御指示置相成度候

○京城市内下水渠浚渫ニ關スル件

大正四年九月七日
土第一三九五號

政務總監

京畿道長官宛

京城市内下水渠ノ浚渫不充ナル爲メ汚水及雨水ノ停滯ヲ來シ衛生上有害ナルノミナラス非常出水ノ際ニハ附近一帶ニ浸水ヲ波及セシメ被害不勘ヲ以テ之ニ關シ相當措置方四十四年六月土收第六七三號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處其ノ後ノ實績ニ依レハ浚渫力不完全ニシテ今回ノ出水ニ際シ殊ニ被害ノ著シキモノアルヲ認メラレ候ニ付大要左記ノ趣旨ニ依リ適當ノ實行方法ヲ講ジ當時警察官憲ト協力シ市内全般ノ下水渠ノ浚渫ヲ勵行スル様御措置相成度此段及通牒候也

追テ今回ノ豪雨ニ際シテ市區改正ニ伴フ改良下水渠ノ排水能力不十分ナリシヤノ聞ヘモ有之候處右改良下水渠ハ本市ニ於ケル最大雨量ヲ一時間六十糎トシ猶之ニ餘裕ヲ見込ミテ計畫シアル方故ニ今回ノ出水量ニ對シテハ排水上何等支障ナキ筈ニ有之畢竟在來下水渠ノ浚渫不十分ナルガ爲メ改良下水渠トノ連絡點ニ於テ塵芥土砂ノ類ヲ堆積シ疏通ヲ妨ケラレタルニ起因セルモノト認メラレ候條今後改良下水渠ノ疏通ニ支障ナキ様當ニ掃除方御注意相成度爲念申添候也

記

一 市内中央ヲ貫流スル清溪川ヲ始メトシ其他ノ下水渠内ニ於ケル沈堆土砂ハ常時之ヲ浚渫シ且ツ毎年雨季前其他必要ニ應ジ大浚渫ヲ爲スコト

二 在來下水渠ト改良下水渠トノ連絡點ニ於ケル受水口ハ常ニ之ニ流下沈堆スル塵芥土砂ヲ掃除スルコト

三 下水渠ハ之ヲ掃除ヲ怠ラサル爲メ係員ニ於テ常時之ヲ巡視スルコト

四 下水暗渠ノ掃除ハ種々ノ方法アルモ最モ便利ナル射水法ヲ用ユルコト

例ハ京城府廳前廣場ニ於ケル暗渠ハ旭町一丁目暗渠流入口ニ於テ下水洗淨扉ヲ設ケ之ニ依テ時々射水ヲナシ暗渠内ノ掃除ヲ爲スコト

五 南山及北山等土砂流下ノ虞アル場所ニハ相當砂防工ヲ施シ土砂ノ流出ヲ豫防スルコト

○市街地ノ市區改正又ハ擴張ノ場合稟

何方ノ件

大正元年十月七日
訓令第九號

道長官

地方ニ於テ樞要ナル市街地ノ市區改正又ハ擴張ヲ爲サムトスルトキハ其ノ計畫説明書及圖面ヲ添ヘ豫メ認可ヲ受クヘシ但シ一部ノ輕易ナル變更ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 市區改正及家屋建築

右列各事は、本市の本年度に於て、
 大正三年十月十二日
 官報第三六九號

○地方市區改正ニ關スル件

大正三年十月十二日
 官報第三六九號

政務總監

各道長官宛

地方ニ於ケル市街地ニ於テ市區改正又ハ市區擴張ヲ爲サムトスル
 場合ハ豫メ認可ヲ受ケラルヘキ旨大正元年十月訓令第九號ヲ以テ
 訓令相成居候處其後認可ヲ受ケスシテ工事ニ著手スルモノ又ハ認
 可申請書類ノ不完備ノ向有之事業ノ監督及事務ノ處理上差支候條
 左記事項ヲ具シ必ス著手前ニ認可申請相成度此段及通牒候也

記

- 一 起業ノ主體
 - 二 工事用地ノ處理方法
 - 三 工費概算設計書（各路線別ニ長、幅員ヲ記シ尙工事費ノ材
 料費、支障物件補償費等ノ區別ヲ付スルコト）並ニ圖面（家
 屋其ノ他ノ現狀ヲ寫シ之ニ改修計畫線ヲ入ルルコト）
 - 四 財源調査（地方費、地方費補助、又ハ寄附金ノ區別ヲ付ス
 ルコト）
- 夫役ヲ使用スル場合、夫役總數、賦課面名及其戶數、賦課面
 ハ事業トノ關係及其最遠距離、賦課標準、一月當リ平均數並
 ニ徵發時季但シ數年ニ亘ル事業ナラハ其各年度別表ヲ添ユル

土木法規 第五章 市區改正及家屋建築

- 五 數年ニ亘ル事業ナルトキハ其年度別豫定表ヲ添付スルコト
- 六 工事著手及竣功豫定期日

○京城市區改修豫定計畫路線

大正元年十一月六日
 總告第一七八號
 改正 大正六年二月二日
 總告第二四號 大正八年六月二十五日
 總告第一七三號

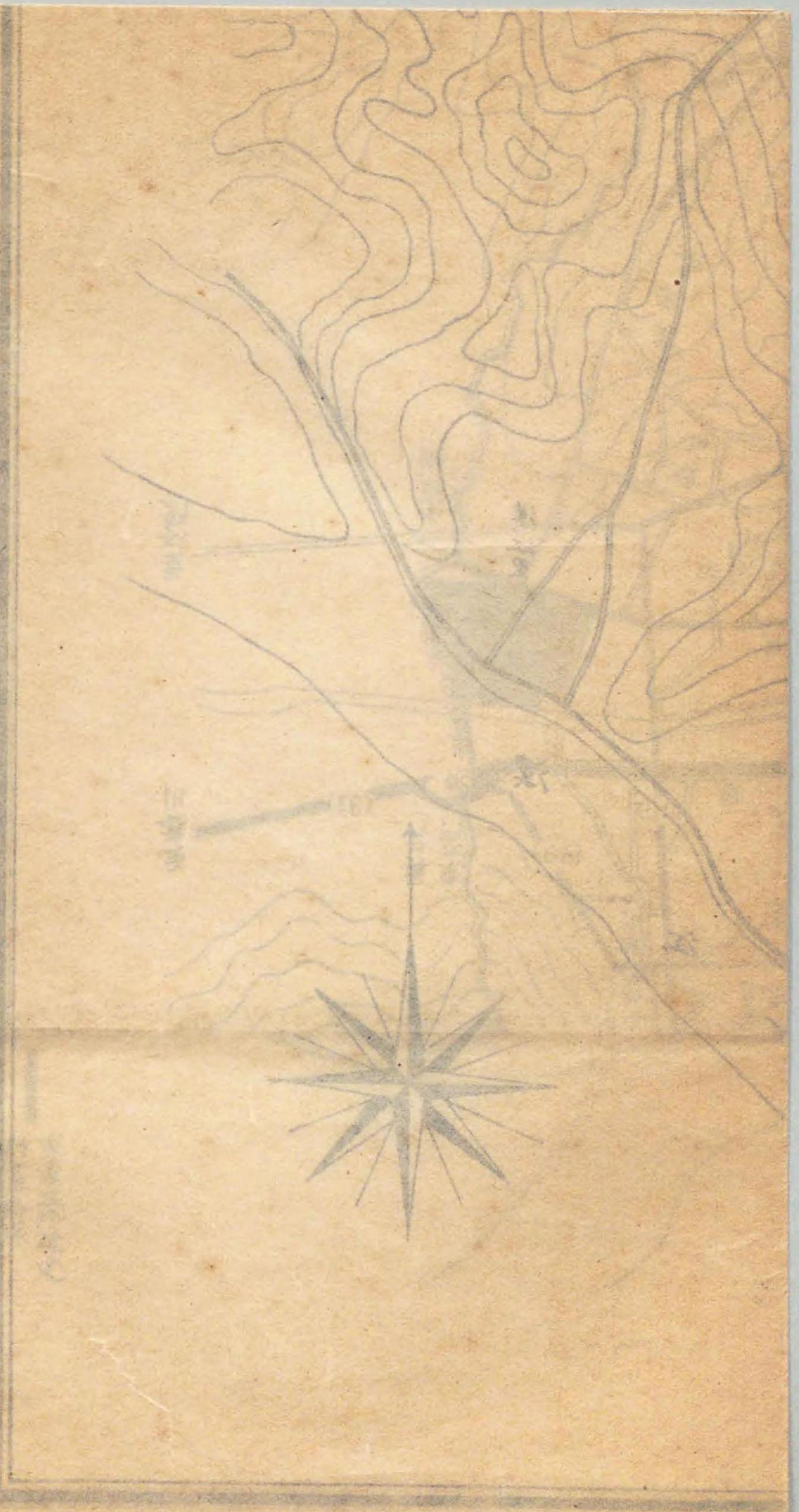
京城市區改修豫定計畫路線左ノ如シ

京城市區改修豫定計畫路線表

- 第一 光化門ヨリ黃土岬廣場ニ至ル路線 幅員三十間
- 第二 南大門ヨリ南大門停車場ニ至ル路線 幅員十九間
- 第三 黃土岬廣場ヨリ大漢門前廣場ヲ經テ南大
 門ニ至ル路線 幅員十五間
- 第四 東大門ヨリ鍾路ヲ經テ慶熙宮前ニ至ル路
 線 幅員十五間
- 第五 南大門ヨリ朝鮮銀行前ヲ經テ鍾路ニ至ル
 路線 幅員十五間
- 第六 光化門前ヨリ大安洞廣場ヲ經テ敦化門通
 ナ横斷シ總督府醫院ノ南部ヲ貫キ中央試驗所
 附近ニ至ル路線 幅員十五間
- 第七 鍾路ヨリ松岬洞ニ至ル路線 幅員十五間乃至十二間
- 第八 大漢門前廣場ヨリ黃金町ヲ直通シ光熙門

- | | |
|---|----------|
| 外ニ至ル路線 | 幅員十二間 |
| 第九 敦化門前ヨリ黃金町廣場ヲ經テ本町六丁目ヲ橫斷シ大和町ニ至ル路線 | 幅員十二間 |
| 第十 中央試驗所附近ヨリ南ニ向ヒ黃金町通ヲ橫斷シ本町ニ至ル路線 | 幅員十二間 |
| 第十一 植物園前ヨリ總督府醫院通ヲ直通シ本町九丁目ヲ橫斷シ大和町ニ至ル路線 | 幅員十間 |
| 第十二 惠化門ヨリ中央試驗所附近ニ至ル路線 | 幅員十間 |
| 第十三 朝鮮銀行前廣場ヨリ本町通南部ヲ直通シ並木町ニ至ル路線 | 幅員十二間 |
| 第十四 大漢門前廣場ヨリ朝鮮銀行前廣場ニ至ル路線 | 幅員十間 |
| 第十五 慶熙宮前ヨリ西大門ヲ經テ獨立門通ニ至ル路線 | 幅員十間 |
| 第十六 景福宮前廣場ヨリ內資洞ニ至ル路線 | 幅員十間 |
| 第十七 北門附近清風溪洞ヨリ慶熙宮前ニ至ル路線 | 幅員八間 |
| 第十八 大漢門廣場ヨリ西小門通ヲ經テ獨立門通ニ至ル路線 | 幅員八間 |
| 第十九 橋北洞ヨリ義州通ヲ經テ麻浦街道ニ至ル路線 | 幅員八間 |
| 第二十 南大門ヨリ麻浦ニ向ヒ鐵道踏切ヲ經テ蓬萊町二丁目ニ至ル路線 | 幅員八間 |
| 第二十一 麻浦街道ヨリ南大門停車場ニ至ル路線 | 幅員十二間 |
| 第二十二 朝鮮銀行前廣場ヨリ旭町二丁目同一丁目南米倉町ヲ經テ三坂通ニ至ル路線 | 幅員十間乃至六間 |
| 第二十三 削除 | |
| 第二十四 大安洞廣場ヨリ北部花開洞ニ至ル路線 | 幅員八間 |
| 第二十五 大安洞廣場ヨリ斜ニ塔公園ニ至ル路線 | 幅員八間 |
| 第二十六 削除 | |
| 第二十七 塔公園前廣場ヨリ黃金町ヲ橫斷シ永樂町一丁目ヲ經テ本町五丁目ニ至ル路線 | 幅員八間 |
| 第二十八 削除 | |
| 第二十九 植物園附近ヨリ惠化洞ニ至ル路線 | 幅員八間乃至四間 |
| 第三十 黃金町二丁目ヨリ永樂町一丁目ニ至ル路線 | 幅員八間 |





第三十二 東大門ヨリ崇仁洞ニ至ル路線 幅員十間
 第三十三 内資洞ヨリ社稷洞ヲ經テ義州通橋北ノ洞ニ至ル路線 幅員八間乃至四間
 第三十四 南大門停車場ヨリ岡崎町ニ至ル路線 幅員十間乃至六間
 第三十五 蓬萊町二丁目ヨリ青葉町三丁目ニ至ル路線 幅員十間乃至六間
 第三十六 景福宮前廣場ヨリ斜ニ慶熙宮前ニ至ル路線 幅員八間
 第三十七 景福宮前廣場ヨリ斜ニ鍾路ニ至ル路線 幅員八間
 第三十八 竹添町二丁目ヨリ麻浦洞ニ至ル路線 幅員六間
 第三十九 黃金町二丁目ヨリ南山町二丁目ニ至ル路線 幅員八間
 第四十 中央試験所附近ヨリ東大門内黃金町ニ至ル路線 幅員八間
 第四十一 蓬萊町二丁目ヨリ新孔德里ニ至ル路線 幅員六間
 第四十二 岡崎町ヨリ漢江通鐵道踏切ニ至ル路線 幅員十五間
 第四十三 岡崎町ヨリ元町ヲ經テ麻浦洞ニ至ル路線 幅員十五間

土木法規 第五章 市區改正及家屋建築

路線 第四十四 元町三丁目ヨリ麻浦街道ニ至ル路線 幅員六間
 第四十五 元町三丁目ヨリ二村洞ヲ經テ漢江通鐵道踏切ニ至ル路線 幅員六間
 第四十六 古市町ヨリ青葉町一丁目ニ至ル路線 幅員八間

○市街地建築取締規則 大正二年三月二十五日 府令第一一七號
 第一條 市街地ニ於テ住家、工場、倉庫其ノ他各種ノ建物、井戸又ハ公共道路ニ沿ヒタル門戶牆壁等ノ工作物ヲ建設セムトスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ警察署長、警察分署長及警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊憲兵分遣所ノ長ヲ舍テ以下同シニ願出許可ク受クヘシ其ノ増築、改築、大修繕又ハ模様替工事ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

一 建物又ハ工作物建設者ノ住所、氏名
 二 敷地ノ所有者建物又ハ工作物ノ建設者ト同一人ニ非サルキハ其ノ住所、氏名
 三 敷地ノ面積位置
 四 建物又ハ工作物ノ種類及其ノ構造、設備ノ大要並其ノ平面圖
 五 工事着手及竣功豫定期日
 六 前各號ノ外警察署長ニ於テ必要ト認メ特ニ提出ヲ命シタル

- 前項ノ市街地ハ別ニ之ヲ指定ス
- 第二條 前條ノ工事ニ付警察署長ニ於テ特ニ検査ヲ受クヘキコトヲ指定シタルトキハ其ノ工事竣功後當該吏員ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第三條 第一條ノ建物又ハ工作物ノ構造、設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 建物ノ面積ハ敷地面積ノ十分ノ八ヲ超過スヘカラサルコト
 - 二 建物ノ基礎ハ公共道路トノ境界線ヨリ一尺五寸以上ノ距離ヲ保チ之ヲ築造スヘキコト
 - 三 建物及門戸牆壁ノ軒先、樓羽、庇、持塗等ヲ公共道路ニ突出セシメサルコト
 - 四 公共道路ニ沿ハサル敷地ニ建設スル家屋ハ道路ニ通スル爲少クモ幅員四尺以上ノ通路ヲ設クヘキコト
 - 五 住家ノ床張、其ノ高サチ地盤ヨリ一尺五寸以上ト爲スヘキコト但シ使用上必要ナシト認メタル場合又ハ床板ヲ容易ニ取外シ得ヘキ構造ト爲シタル場合ヲ除ク
 - 六 公共道路ニ沿ヒタル建物ノ敷地ハ地先道路路面以上ノ高サト爲スヘキコト
 - 七 敷地内ニ適當ノ排水設備ヲ爲スヘキコト
 - 八 飲料水用ノ井戸ハ厠、下水溜又ハ大下水溝ヨリ三間以上ノ距離ヲ保チ且悪水ノ滲入セサル装置ヲ爲シ井戸側ノ高サハ二

- 九 尺五寸以上ト爲スヘキコト
- 十 厠ハ住家ニ之ヲ設クヘキコト但シ長屋建築家屋ニシテ戸數ニ應ジ適當ナル共同厠ヲ設クルモノヲ除ク
- 十一 糞尿溜及其附屬装置ハ石（人浩石ヲ含ム）煉瓦、陶磁器、瓦、コンクリート、モルタル、アスファルト（其ノ下ニ漆喰ヲ施スコト）石綿盤其ノ他防水材料又ハ木材ヲ以テ汚液ノ滲漏セサル様築造スヘキコト
- 十二 市街地ニ於テ石炭、骸炭其ノ他ノ燃料ヲ多量ニ燃用スル火爐、竈、暖爐ノ類ニハ近隣ノ居住者又ハ建物ニ對シ害ヲ及ボササル程度ノ煙突ヲ設クヘキコト
- 十三 煙突ハ屋上三尺以上突出セシメ煉瓦造煙突ハ煙道ト木部下ノ間隔ハ煉瓦長手一枚以上トシ金屬製煙突ニシテ木材其ノ他可燃質物體ト五寸以内ニ接近スルトキハ其ノ部分ヲ石、煉瓦、陶磁器、瓦、厚サ三寸以上ノコンクリート、厚サ二寸以上ノモルタル又ハ石綿盤其ノ他不燃質材料（金屬ヲ除ク）ヲ以テ構造若ハ被覆スヘキコト
- 十四 高サ五十尺以上ノ建物又ハ工作物ニハ適當ナル避雷装置ヲ爲スヘキコト
- 十五 惡臭、有毒瓦斯又ハ粉塵ヲ發散スル物品ノ收藏者ハ取扱ヲ爲ス建物ノ出入口、窓其ノ他ノ空隙ハ公共道路、多衆集合スヘキ建物又ハ他人ノ住家ニ接近シテ之ヲ設クルヲ得サルコト但シ適當ナル除害装置ヲ爲ス場合ヲ除ク

- 十五 多衆集合スヘキ建物ニハ之ニ相當スル非常口、階段其ノ他避難ノ設備ヲ爲スヘキコト
- 家屋ヲ建築スル者ハ成ルヘク其ノ家屋ニ防鼠設備ヲ爲スヘシ
- 第四條 第一條ノ市街地中警務部長（京城ニ在リテハ警務總長以下同シ）ノ指定シタル地域内ニ於ケル建物又ハ工作物ノ構造、設備ニ付テ前條ニ依ルノ外仍左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 建物ノ屋根ハ前條第十一號ノ不燃質材料（金屬板ヲ含ム）ヲ以テ葺スヘキコト
 - 二 警察署長ニ於テ附近ノ狀況ニ於リ必要ト認メタル建物ニハ其ノ指定ニ從ヒ防火壁ヲ設クヘキコト
 - 三 建物ハ三階ヲ超過スヘカラサルコト
 - 四 木造長屋ハ間口二間以内毎ニ煉瓦厚サ一枚半以上ニシテ屋上一尺五寸以上突出シタル防火壁ヲ設クルコト
 - 五 建物ノ公共道路ニ沿ヒタル軒先ニハ樋ヲ設ケ雨水ハ堅樋ニ依リ之ヲ排水スルコト
 - 六 厠ハ公共道路ニ沿ヒテ設クルコトヲ得サルコト但シ障壁ノ類ヲ以テ之ヲ圍ム場合ヲ除ク
- 第五條 警察署長ハ建物又ハ工作物ニ付特殊ノ構造、設備又ハ附近ノ狀況其ノ他ノ事由ニ依リ前二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ許可スルコトヲ得
- 第六條 惡臭、有毒瓦斯又ハ多量ノ煤煙若ハ粉塵ヲ發散スル工場其ノ他公安、衛生上危害ヲ及ボスノ虞アル建物ハ第一條ノ市街

- 地中特ニ指定シタル地域内ニ非サレハ之ヲ建設スルコトヲ得ス
 - 第七條 警察署長ハ建物又ハ工作物ノ構造、設備法令ノ規定ニ適合セス又ハ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ其ノ工事ヲ停止シ若ハ許可ヲ取消シ又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得警察署長ハ危害豫防又ハ衛生ノ爲必要アリト認ムルトキハ建物工作物ニ關シ特別ノ構造、設備ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 - 第八條 本令ハ假設ノ建物、工作物ニ之ヲ適用セス但シ警察署長ハ建設後一年以上存置スルモノ又ハ構造方法ニ依リ必要ト認ムルモノニ付本令ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得
 - 第九條 第一條第二條又ハ第六條ノ規定ニ違反シ、第七條又ハ第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者又ハ不實ノ申告ヲ爲シ本令ニ依ル許可ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 市街地建築取締規則取扱手續
- 大正二年七月二十一日
警務部訓令第三三號
- 警務部
- 警察署 同分署
警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊同分遣所
- 第一條 警察署長、警察分署長及警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊、憲兵分遣所ノ長ヲ含ム以下同シ）ハ特ニ警察官署ノ許可又ハ認可ヲ受クヘキ業態ニ使用スル建物其ノ他特別ノ取扱ヲ爲ス場合

チ除クノ外左ノ建物又ハ工作物ノ建設ニ付市街地建築取締規則
(以下單ニ規則ト稱ス)第一條ノ願出アリタルトキハ其ノ許否ニ
關シ意見ヲ具シ警務部長(京城ニ在リテハ警務總長以下同シ)ニ
經伺スヘシ

- 一 市場、共同販賣所、勸商場
- 二 公會堂、教會、寺院
- 三 就業者五十人以上ヲ使用シ又ハ十五馬力以上ノ原動機ヲ使
用スル工場

四 前各號ノ外多衆集合ノ用ニ供スル建物又ハ特種ノ構造ニシ
テ技術上審査ヲ要スルモノ其ノ他警察署長ニ於テ經伺ノ必要
アリト認メタルモノ

前項ノ取扱ヲ爲スヘキ願書ニハ左ノ書類ヲ添付セシメ經伺ノ際
願書ト共ニ提出スヘシ

- 一 仕様書(圖面ニ明示シ難キ材料ノ種類、尺度其ノ他構造、設
備ノ方法ヲ詳記シタルモノ)
- 二 圖面(正面圖、斷面圖、側面圖其ノ他必要ノ詳細圖)縮尺ハ
百分ノ一、五十分ノ一、又ハ二十分ノ一トス

第二條 警務部長ハ規則第一條第二項若ハ第六條ノ規定ニ依リ市
街地若ハ地域ヲ指定シ又ハ之ヲ變更スルノ必要アリト認メタ
ルトキハ其ノ旨警務總長ニ具申スヘシ

第三條 警務部長ハ規則第四條ノ規定ニ依リ地域ヲ指定シ又ハ之
ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ警務總長ニ經伺スヘシ

第四條 第二條ノ事項ニ關シテハ警務部長ハ具申前豫メ道長官ニ
協議スヘシ

第五條 警察署長ハ規則第七條第二項ノ規定ニ依ル命令ノ必要ア
リト認メタルトキハ其ノ旨警務部長ニ具申スヘシ

○市街地建築取締規則ノ市街地及同規
則第六條ノ地域指定ノ件

改正 大正二年七月十七日
總務部告示第二〇〇號

市街地建築取締規則ノ市街地及同規則第六條ノ地域左ノ通指定ス
京城市街地

京畿道京城府

京城市街地中市街地建築取締規則第六條ノ地域

- 一 城壁外ノ地域但シ西大門停車場ヨリ漢江鐵橋ニ至ル鐵道本
線路以東ノ地域ヲ除ク
- 二 城壁内惠化洞、東崇洞、梨花洞、忠信洞、鐘路六丁目、黃
金町六丁目、同七丁目但シ黃金町六丁目、同七丁目ノ内電車
道路以南ノ地域ヲ除ク

○京城市街地中市街地建築取締規則第
四條ノ地域指定ノ件

改正 大正三年五月三十日
總務部告示第一〇九號

京城市街地中市街地建築取締規則第四條ノ地域左ノ通指定ス

京畿道京城府但シ峴底洞、桃花洞、麻浦洞、岩根町、二村洞ヲ除
ク

○忠清南道建築取締規則

明治四十五年三月一日
忠清南道警察部令第二號

第一條 家屋其ノ他ノ建物ヲ建築セムトスル者ハ建築物ノ種類、
位置、四隣ノ狀況ヲ示シタル圖面及設計書ヲ添へ著手前所轄警
察署(警察署ノ事務ヲ行フ憲兵分隊、憲兵分遣所ヲ含ム)以下同
シニ届出ツヘシ其ノ改築又ハ修繕ニ際シ構造ニ變更ヲ加ヘム
トスルトキ亦同シ

諸製造場、料理屋、旅店、湯屋、劇場、寄席、觀物場其ノ他家
人ノ來集ヲ目的トスル建物ニ在リテハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察
署ニ願出許可ヲ受ケ其ノ建築落成シタルトキハ届出檢査ヲ受ケ
ヘシ其ノ事項ヲ變更シ又ハ建物ヲ改築、増築、修繕、變更セム
トスルトキ亦同シ

- 一 本籍、住所、氏名、生年月日
- 二 營業ノ種類場所
- 三 構造設計書及圖面
- 四 四隣ノ狀況ヲ明示シタル圖面
- 五 落成期日

前項建築ノ許可ヲ受ケタル者故ナクシテ建築ニ著手セサルコト
六箇月以上ニ及フトキハ許可ノ效力ヲ失フモノトス

第二條 家屋其ノ他建物ノ新築又ハ改造ノ場合ハ左ノ制限ニ依ル

ヘシ

- 一 道路ニ沿フタル建物ノ軒端ハ地盤ヨリ八尺以上トシ道路敷
ニ出スヘカラス軒端ニハ雨樋及堅樋ヲ設クヘシ
- 二 道路ニ沿フタル建物ニ在リテハ其ノ基礎ヨリ道路敷トノ間
二三尺以上ノ距離ヲ存置スヘシ
- 三 建物ノ基礎ト隣地境界線トノ間三二尺以上ノ距離ヲ存置ス
ヘシ
- 四 屋上ノ葺覆煙突ノ材料ハ不燃質物ヲ用ユヘシ
- 五 家屋ハ床下ト地盤トノ間二一尺五寸以上ノ間隙ヲ存スヘシ
但シ溫突式ニ構造スルモノハ此限ニ在ラス
- 六 溫突ノ出煙口ハ通路ニ面シテ設クヘカラス
- 七 構内ニハ不透透質材料ヲ以テ適當ノ下水溝ヲ設ケ大下水溝
ニ連結セシムヘシ
- 八 前條第二項ノ建物ナルトキハ各建物ノ性質ニ應シ湯氣抜窓
換氣窓、採光窓等ヲ設クルノ外尙ホ火災豫防又ハ衛生上ノ設
備ニ關シ所轄警察署ノ指示ニ從フヘシ
- 第三條 長屋ヲ建築セムトスルトキハ前條ノ外尙ホ左ノ制限ニ從
フヘシ
- 一 一棟ノ戸數ハ六月ニ過クルコトヲ得ス
- 二 天井ハ一戸毎ニ區劃ヲ設クヘシ
- 三 裏長屋ハ表家ヲ通過セス別ニ幅員六尺以上ノ路次ヲ設クヘ
シ

第四條 廁圍ハ毎戸一箇以上ヲ設ケ内部ハ道路ヨリ見透ササル様
裝置シ其ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 適當ノ場所ニ換氣窓ヲ設クルコト
- 二 糞尿池ハ石、煉瓦其ノ他不滲透質材料ヲ用ヒ其ノ上部ハ厚
サ二寸以上ノ「セメント」敲ヲ以テ漏斗形ト爲スヘシ
- 三 糞尿池及其ノ周邊ハ蚊蠅等ノ蠟集ヲ防ク爲メ常ニ暗黒ナラ
シムル様構造スヘシ
- 四 踏板トノ周壁ハ石材、煉瓦石又ハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ裝
置スヘシ但厚板ヲ用フルトキハ「コーンタル」等ヲ塗布スヘ
シ

第五條 家屋其ノ他ノ建造物中道路ニ沿フタル箇所ニ固著シ標
旗、標燈、釣看板、物干及日除ヲ設ケムトスルトキハ其ノ構造
什樣書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第六條 井戸ハ廁圍大下水溝其ノ他不潔常置ノ場所ヲ距ル三間以
上ノ所ニ設ケ其ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 飲料井戸ノ深サハ飲料ニ適スル水ノ湧出スルチ限度下シ惡
水ノ滲透ヲ防キ且少崩壞ノ虞ナキ様構造スヘシ
- 二 井偶ノ高サハ地盤ヨリ二尺以上タルヘシ
- 三 井戸流シハ厚サ二寸以上ノ「セメント」敲又ハ一寸以上ノ厚
板ヲ以テ構造シ之ニ適當ノ勾配ヲ附シ構内下水トノ連絡ヲ取
ルヘシ

第七條 所轄警察署長ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ第二條第

三條第四條又ハ第六條ノ制限ニ拘ラス適當ト認ムル期限ヲ附シ
假ニ建築改築又ハ修繕ヲ許可スルコトヲ得

第八條 本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

- 第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
- 第十條 本令ノ制限ニ適合セサル在來ノ家屋其ノ他ノ建物ニ對シ
テハ改築又ハ大修繕ノ場合ニ於テ其ノ制限ニ從フモノトス但シ
第二第四號ニ適合セサル箇所ハ明治四十六年十二月三十一日限
リ改修スヘシ
- 第十一條 本令ハ當分ノ内公州郡公州邑懷德郡大田蕪岐郡鳥致院
恩津郡江景論山及魯城郡論山ニ施行ス
- 第十二條 本令ニ牴觸スル從前ノ規定ハ本令施行ノ日ヨリ效力ヲ
失フモノトス

○忠清北道家屋建築規則

明治四十五年七月十一日
忠清北道警察部令第一號

第一條 家屋(圍牆其ノ他ノ建造物ヲ含ム)ヲ新築セムトスル者ハ
本籍、現在所、職業、氏名、年齢並左ノ事項ヲ記載シ所轄警察
署(警察分署、警察ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊、同憲兵分遣所ヲ
含ム以下同シ)ヘ願出テ許可ヲ受クヘシ増築、改築、模様替ヲ
爲サムトスルトキ亦同シ

一 家屋其ノ他ノ建造物ノ略圖、位置及四隣ノ狀況ヲ示シタル
圖書

○全羅北道家屋建築規則

明治四十四年十二月二十二日
全羅北道警察部令第五號

改正 明治四十五年四月十日
警察部令第一號

第一條 家屋其ノ他ノ建物ヲ新築、改造又ハ増築セムトスルトキハ
所轄警察署ニ届出ツヘシ

第二條 家屋其ノ他ノ建物ヲ新築、改造又ハ増築セムトスルトキハ
左ノ各號ニ據ルヘシ但シ假建設物ハ此ノ限ニアラス

- 一 道路ヲ侵シテ軒先ヲ設ケルコトヲ得ス
- 二 建築物ノ基礎線ハ隣地建築物ノ基礎線ヨリ一尺五寸以上ノ
距離ヲ存スヘシ
- 三 屋上ハ瓦、鐵、亞鉛ブリツキ板等ノ不燃質物ヲ以テ覆蓋ス
ヘシ但シ鐵、亞鉛又ハブリツキ板ヲ使用セントスルトキハ之
ヲ二重張ト爲シ若シ一枚張トナサントスルトキハ屋上ニ土ヲ
塗り其ノ上部ニ之ヲ覆被スヘシ
- 四 木造家屋ノ床ハ地盤ヨリ一尺五寸以上ノ高サトナスヘシ
- 五 窪地又ハ濕地ノ建設敷地ハ所轄警察署ノ指示ニ從ヒ地上ケ
チ爲スヘシ
- 六 軒先ニハ亞鉛又ハ鐵ノ雨樋及堅樋ヲ設ケ下水溝ニ連結セシ
ムヘシ
- 七 木造家屋天井ノ高サハ床上ヨリ七尺以上トナスヘシ
- 第三條 長屋ヲ建設セントスルトキハ前條ノ外尙ホ左ノ制限ニ從
フヘシ

二 構造ノ概要

第二條 一等乃至三等道路ノ道數(道路及兩側ノ溝渠ヲ含ム)ニ接
シ家屋ヲ築造セムトスルトキハ特別ノ事由アリテ警察署長ノ許
可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外左ノ制限ニ據ルヘシ

一 道路ノ道數ヨリ一尺五寸以上ノ距離ヲ存シテ建造シ軒擔ハ
道路ニ出スヘカラス

二 建造物ノ基礎ハ道路面ヨリ五寸以上ノ地揚ケヲ爲スヘシ

第三條 本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則第一條ハ別ニ告示ヲ以テ定ムル地域ニ限リ之ヲ施行ス

本則施行前ニ係ル家屋ハ所轄警察署ノ指示ニ遵ヒ明治四十六年十
二月三十日迄ニ改築スヘシ

○同家屋建築規則第一條ノ施行地域

明治四十五年七月十一日
忠清北道警察部令第一號 改正 大正元年十一月十六日
同告示第二號

明治四十五年七月十一日發布忠清北道警察部令第一號家屋建築規
則第一條ノ施行地域ヲ左ノ通定ム

左記

- 一 清州邑及清州郡西江外一下面舊市場、鎮川邑、忠州邑、永
同邑、沃川邑及沃川郡々内面金龜洞
- 一 文義郡三道面蓉浦里美江

- 一 一棟ノ戸數ハ六戸ニ過クルコトヲ得ス
- 二 裏長屋ハ表家ヲ通過セス別ニ幅員六尺以上ノ路次口ヲ設ケ
一ハシ
- 三 天井ハ一月毎ニ區劃ヲ設ケヘシ
- 第四條 長屋及溫突建築ハ毎月ノ表裏出入口ノ外別ニ採光通氣ニ
適スヘキ窓一個所以上ヲ設ケヘシ
- 第五條 木造家屋ハ厨房ノ上部ニ煙出窓ヲ設ケヘシ
- 第六條 溫突ノ煙出口ハ道路ニ面シテ設ケルコトヲ得ス
- 第七條 井戸ハ厠園、大下水溝、汚水溜、塵芥溜ヨリ二間以上ノ
距離ヲ存スヘシ
- 第八條 井戸側ノ高サハ地上ヨリ一尺五寸以上トシ汚水ノ滲入セ
サル様築造スヘシ
- 第九條 井戸流場ハ漆喰敷其ノ他不滲透質材料ヲ以テ築造スヘシ
- 第十條 井戸流場ニ接續セル下水溝ハ不滲透質材料ヲ以テ築造シ
大下水溝ニ連結セシムヘシ
- 第十一條 厠園ハ毎月ニ一箇所以上ヲ設ケヘシ但シ長屋又ハ敷地
ノ形狀等ニ依リ止ム得サル場合ニ於テハ認可ヲ得テ三月以内ニ
一箇所ヲ設ケルコトヲ得
- 第十二條 厠園ハ道路ニ面シテ築造スルコトヲ得ス
- 第十三條 厠園ノ構造ハ左ノ各號ニ從フヘシ
一 出入口ニハ板戸ヲ設ケ内部上方又ハ屋上ニ通氣窓ヲ設ケヘ
シ但シ屋上ノ窓ニハ雨除ヲ施スヘシ

○黃海道家屋建築規則

明治四十五年四月二十二日
黃海道警察部令第一號

- 二 糞尿池ニハ桶又ハ甕其ノ他不滲透質材料ヲ用ヒ其ノ周圍ハ
厚サ二寸以上ノ漆喰敷ト爲シ地盤ヨリ三寸以上高メ漏斗形
ノ勾配ヲ付スヘシ
- 第十四條 本則發布前築造シタル建築物ニ關シテハ改造又ハ増築
セムトスル場合ノ外第四條乃至第十三條ノ規定ヲ適用セス但シ市
街地表通ニ面セル建築物ハ明治四十八年四月十日限り第二條第
三號ニ據リ改修スヘシ
- 第十五條 本則ニ依リ築設シ能ハサルモノハ設計書及圖面ヲ添付
ヘ所轄警察署ニ出願許可ヲ受ケヘシ
- 第十六條 本則ニ違反シテ築設シタルモノハ除去又ハ變更ヲ命ス
ルコトアルヘシ
- 第十七條 本則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
第十八條 本則ハ發布ノ日ヨリ旅行ス
第十九條 本則ハ當分入内群山及全州並礪那黃山釜山郡裡里市
地ニ之ヲ旅行ス
第二十條 明治四十年五月群山理事廳令第三號建築規則ハ本則旅
行ノ日ヨリ之ヲ廢ス

○平安南道屋上制限規則

明治四十五年七月十七日
平安南道警察部令第一號

- 第一條 家屋圍牆其ノ他附屬ノ建造ヲ含ムチ新築又ハ増築セム
トスルモノハ本籍、現住所、身分、職業、氏名、年齡並左ノ事

項ヲ記載シ所轄警察官署ヘ願出テ許可ヲ受ケヘシ

- 一 新築又ハ増築ノ位置及四隣ノ狀況ヲ示シタル圖面
 - 二 構造ノ大要及平面略圖
- 許可ヲ受ケタル後前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第二條 前條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
- 第三條 本令施行ノ地域ハ之ヲ告示ス

○黃海道家屋建築規則施行地域ノ件

明治四十五年四月二十二日
黃海道警察部令第一號
改正 大正三年五月二十四日
黃海道警察部令第二號 同告示第一號

海州、馬山、安岳、信川、載寧、沙里院、黃州、新幕、汗浦、延
安、松禾、長淵、金川、翠野場、南川、市邊里、瑞興、苔灘、兼
二浦、長連、殷栗、興水院、谷山、遂安、白川、平山、新溪、

○平安南道家屋其ノ他ノ建設物築造修繕ニ關スル取締ノ件

明治四十五年九月二十一日
平安南道警察部令第一號

道路、河川、官公有地、市街地及之ニ接近シタル場所ヘ家屋其ノ
他ノ建設物ヲ築造シ又ハ其ノ修繕ヲ爲サムトスル者ハ所轄警察官
署ニ申告シ指示ヲ受ケヘシ
前項ノ指示ヲ受ケス若ハ其ノ指示ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ
處ス

○平安南道屋上制限規則

明治四十五年七月十七日
平安南道警察部令第一號
改正 大正元年九月三十日
警察部令第一號

- 第一條 家屋其ノ他ノ建物ノ新築、改築又ハ増築ヲ爲サムトスル
者ハ瓦、石其ノ他不燃質物ヲ以テ其ノ屋上ヲ覆葺スヘシ
- 第二條 土地ノ狀況又ハ構造ニ依リ不燃質物ヲ以テ屋上ヲ覆葺ス
ルコトヲ要セサル建物ニ在リテハ所轄警察署（警察署ノ事務ヲ
取扱フ憲兵分隊憲兵分遣所ヲ含ム以下同シ）ノ認可ヲ受ケ前條
制限ニ依ラサルコトヲ得一時假設ノ建物ニシテ取拂ノ期限ヲ定
メ所轄警察署ノ認可ヲ受ケタルモノ亦同シ
- 第三條 第一條第二條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
本令ハ左ノ地域ニ之ヲ施行ス
一 平壤府ノ内大興面、隆興面、外川面、内川面、平川面、隆
德面
一 鎮南浦府ノ内 元塘面磚石洞、龍井洞、後浦洞、新興洞、
芝山洞、億兩機、麻山里、下大里從來ノ各國居留地
一 安州郡ノ内 新安州
現在ノ家屋其ノ他ノ建物ニシテ燃質物ヲ以テ其ノ屋上ヲ覆葺シタ
ルモノハ本令施行ノ日ヨリ五年以内ニ第一條ノ制限ニ依リ之ヲ改
葺スヘシ
本令ハ明治四十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○平安北道家屋建築規則

明治四十四年十月五日
平安北道警察部令第五號

- 第一條 家屋ヲ建築シ又ハ増築、改築ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ
 - 一 原籍、現住所、身分、職業、氏名、年齢
 - 二 新築セントスルトキハ敷地ノ坪數及附近ノ見取圖
 - 三 増築又ハ改築セントスルトキハ其ノ家屋ノ所在ヲ明示スヘキ圖面
 - 四 設計ノ大要及略圖
- 第二條 前條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第三條 本令ハ新義州市街地及其ノ附近ニ限り明治四十四年十月五日ヨリ施行ス

○咸鏡南道建築其ノ他取締ノ件

明治四十四年五月二日
咸鏡南道警察部令第三號

- 第一條 市街地又ハ主要ナル道路ニ接近スル場所ニ家屋其ノ他ノ建物ヲ築造シ又ハ修繕ナサムトスルトキハ所轄警察官署ニ申告シ其ノ指揮ヲ受ケヘシ但シ必要ナル場合ニハ其ノ位置又ハ四隣ノ狀況ヲ示シタル圖面ヲ添付スヘシ
- 第二條 本則ニ違反シ或ハ警察官署ノ指示ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

- 第三條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
- 第四條 明治二十九年九月元山領事館達第九條ハ本則ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ
(參照)
達第九號

居留民一般

家屋並ニ下水構造規則別紙ノ通り制定シ來ル十月一日ヨリ實施ス

明治二十九年九月二十三日 領事 二口 美久

家屋並ニ下水構造規則

- 第一條 本則ニ於テ家屋ト稱スルハ住屋、倉庫、製造所、納屋、便所等ヲ云フ
- 第二條 家屋又ハ下水ヲ新設シ若ハ改造(一部分ノ模様換モ包含ス)増設セントスル者ハ著手前左ノ事項ヲ記シ居留地總代役所ヲ經テ警察署ニ届出認可ヲ受ケヘシ
 - 一 築造ノ地名番地
 - 二 道數ニ對スル地盤ノ高低
 - 三 河海山崖ニ沿フタル場所ハ其ノ距離
 - 四 構造縮圖
- 第三條 認可ヲ受ケ築造落成シタルトキハ警察署ニ届出検査濟ノ後ニアラサレハ使用スヘカラス
- 第四條 家屋ノ築造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 屋上及煙突ハ瓦石金屬等不燃質物ヲ用ユヘシ

二 住屋ノ床ハ地盤ヨリ高サ一尺五寸以上天井ハ床上ヨリ六尺五寸以上トス

三 住屋ハ毎戸ノ前面出入口ノ外他ノ三方中空氣流通ニ適スヘキ出入口若ハ窓戶一ヶ所以上ヲ設ケヘシ

四 住屋ハ屋後ニ六尺以上ノ空地ヲ存スヘシ

五 道路ニ沿フタル家屋ハ屋上ヲ瓦葺又屋材用亞鉛葺トシ其ノ土臺ハ道數ノ境界ヨリ一尺以上ヲ引下ケ雨水吐ノ餘地ヲ存スヘシ

六 裏手ニ建設スル住屋ハ表屋ヲ通過セズ別ニ路次口ヲ設ケ其ノ幅員ハ六尺以上トスヘシ

七 裏屋ノ前面ニハ九尺以上ノ通路ヲ設ケヘシ

八 便所ハ毎戸ニ一ヶ所以上ヲ設ケヘシ若シ敷地ノ形狀ニ依リ止ムヲ得サルトキハ特ニ認可ヲ得テ三月以下ニ一ヶ所ト爲スコトヲ得

九 便所ハ其ノ近傍ノ井戸ヨリ一丈二尺以上ノ距離ヲ存スヘシ井戸ヲ新設セントスルトキハ便所ノ距離ニ於ケルモ亦同シ

十 便所溜ハ汚液ノ滲漏セサル様堅牢ナル裝置ヲ爲スヘシ其ノ上面周圍ハ土臺ヨリ漏斗狀ニ勾配ヲ付スヘシ

第五條 道路ニ沿フタル家屋ヲ築造セントスルトキハ同時ニ軒先下水ヲ設ケヘシ

第六條 下水ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 下水樋及下水溜ハ石煉瓦人造石金屬者ハ陶管又ハ厚ル八分以上ノ板ヲ用ヒ汚水ノ滲漏セサル様堅牢ニ構造スヘシ但シ道路ニ沿フタル下水ハ石材ニ限ルヘシ

二 下水樋ノ吐口ハ大下水若ハ河海ニ取付ヘシ

三 前項取付ケ難キ場所ハ密著セル蓋ヲ付シタル下水溜ヲ設ケヘシ

第七條 本則第二條第三條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ處罰セラルヘシ

○清津、羅南、鏡城、會寧家屋建築規則

明治四十二年六月五日
清津理事廳令第一〇號

第一條 家屋ヲ建築セムトスル者ハ其ノ位置建坪數ヲ記シ構造略圖ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受ケヘシ

第二條 建築工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ申告シ検査ヲ受ケヘシ

前項ノ検査ヲ受ケタル後ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第三條 防火衛生其ノ他取締上必要アリト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ構造ノ變更又ハ其ノ他ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

本令施行前ノ建築ニ係ル家屋ニ付テモ前項ニ同シ

第四條 第一條第二條又ハ第三條ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

○土地收用令

明治四十四年四月十七日
制令 第三三三號

改正 大正七年一月三十一日
制令 第二二號

土地收用令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁
ヲ得テ並ニ之ヲ公布ス

土地收用令

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲必要アルトキハ本令ニ依
リ其ノ事業ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一
ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業

三 教育學藝又ハ慈善ニ關スル事業

四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用悪

水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、電氣、瓦斯又

ハ火葬場ニ關スル事業

五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用

ノ目的ヲ以テ國又ハ公共團體ニ於テ施設スル事業

六 一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼

能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業

前項第六號ノ製鐵事業ノ範圍ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三條 土地ニ關スル所有權以外ノ權利水ノ使用ニ關スル權利及

工作物其ノ他土地ノ定著物ハ本令ニ準シ之ヲ收用又ハ使用スル
コトヲ得

第四條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ朝鮮總督之ヲ
認定ス

朝鮮總督前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類及收
用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告ス

第五條 起業者前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ地方長官ヲ經由
シ朝鮮總督ニ申請スヘシ但シ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ
宮内大臣又ハ主務官廳ヨリ朝鮮總督ニ協議スヘシ

第六條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルノ
必要アルトキハ府尹又ハ郡守ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ使用期間ハ六月ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 土地ノ收用又ハ使用ニ關シ關係人ノ受クヘキ損失ハ起業
者之ヲ補償スヘシ

第八條 第四條ノ公告アリタルトキハ起業者ハ其ノ土地ニ關シ收
用又ハ使用ノ權利ヲ取得スル爲關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第九條 前條ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルト
キハ起業者ハ地方長官ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ

同時ニ關係人ニ之ヲ通知スヘシ

第十條 第六條ノ使用ニ依リ生スル損失又ハ第二十一條ノ損失ノ

補償ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス
 第十一條 地方長官裁決又ハ決定ヲ爲スニ付必要アリト認ムルト
 キハ鑑定人、事實參考人、起業者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見
 又ハ供述ヲ聽クコトヲ得
 第十二條 起業者又ハ關係人地方長官ノ裁決又ハ決定ニ不服アル
 トキハ裁決書又ハ決定書ノ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日
 内ニ朝鮮總督ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得
 前項ノ裁定ヲ求メタル場合ト雖土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セズ
 第十三條 第四條ノ公告アリタル後起業者カ二年内ニ土地物件ニ
 關スル權利ヲ取得セサルトキハ事業ノ認定ハ其ノ效力ヲ失フ但
 シ地方長官ノ裁決ヲ求メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第十四條 土地ノ使用カ五年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變
 更スルトキハ關係人ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
 第十五條 收用又ハ使用ヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シ
 テ移轉セシムルコトヲ得
 前項ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ
 起業者ハ其ノ物件ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
 第十六條 第四條ノ公告アリタル後地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ
 土地ノ形質ヲ變更ノ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲
 シ又ハ物件ヲ附加増置シタル關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ
 請求スルコトヲ得
 第十七條 地方長官ノ裁決又ハ決定ヲ爲スニ付要スル鑑定人及事

實參考人ノ旅費手當審査ニ關スル費用ハ起業者ノ負擔トス
 第十八條 土地物件ヲ收用シタルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權
 ハ起業者之ヲ取得シ其ノ土地物件ニ關スル他ノ權利ハ消滅ス
 土地ヲ使用シタルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之
 ヲ取得シ其ノ土地ニ存スル他ノ權利ノ行使ハ使用ノ期間之ヲ停
 止ス但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第十九條 第六條ノ規定ニ依ル使用ノ場合ヲ除クノ外起業者ハ收
 用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ關係人ニ拂渡スヘシ但シ拂渡ス
 コト能ハサル事由アルトキハ之ヲ供託スヘシ
 係入ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地ヲ起業者ニ引渡シ及物件
 ヲ移轉又ハ引渡スヘシ
 第二十條 起業者前條ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ朝鮮總督
 ノ認定、裁定及地方長官ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ關係人カ
 損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
 第二十一條 第四條ノ公告アリタル後起業者カ事業ヲ廢止變更シ
 タルトキハ依リテ關係人ノ受ケタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
 第二十二條 起業者過失ナクシテ關係人ヲ確知スルコト能ハサル
 トキ又ハ關係人其ノ義務ヲ履行スルコト能ハサルトキハ面長ハ
 關係人ニ代ハリテ之ヲ處理スヘシ
 第二十三條 義務者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務
 ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナ
 キトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行

セシメ其ノ費用ハ義務者ノ負擔ト爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依ルコトヲ能ハサルトキハ地方長官直接ニ義務ノ
 履行ヲ強制スルコトヲ得
 第二十四條 第十七條及前條ノ費用ヲ納付セサルモノアルトキハ
 國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
 第二十五條 第十一條ノ呼出ヲ受ケタル鑑定人又ハ事實參考人故
 ナク之ニ應セサルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第二十六條 鑑定人虛偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ徵役
 又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十七條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依ル起業者ノ權
 利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス
 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタル手續其ノ他
 ノ行為ハ起業者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
 第二十八條 本令ニ於テ使用ノ稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス
 本令ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用ヘキ土地物件ノ所
 有者及其ノ土地物件ニ關シテ權利ヲ有スルモノヲ謂フ
 第四條ノ公告アリタル後其ノ土地物件ニ關シテ權利ヲ取得シタ
 ルモノハ關係人ト看做サス但シ既得ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此
 ノ限ニ在ラス
 第二十九條 本令ニ規定スルモノノ外土地ノ收用又ハ使用ニ關シ
 左ニ掲クル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム
 一 事業準備ノ爲他人ノ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル場

合ニ關スル事項
 二 二以上ノ行政區劃ニ涉ル事業ニ付地方長官ノ認定裁決又ハ
 決定ヲ爲ス場合ニ關スル事項
 附則
 本令施行ノ地域及期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム
 ○土地收用施行地域ノ件
 第一條 土地收用令第五條ノ申請ヲ爲ス爲必要アルトキハ起業者
 ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ
 得テ其土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲スコトヲ得但シ宮内省又
 ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務官廳ハ之ヲ地方長官
 ニ通知スヘシ
 土地收用令第四條第二項ノ公告アリタル後起業者事業ノ準備ノ
 爲メ其ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ
 許可又ハ通知ヲ要セス
 第二條 地方長官前條第一項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルト
 キハ直ニ起業者事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又
 ハ之ヲ其ノ土地ノ占有者ニ通知スヘシ
 第三條 起業者土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲サムトスルトキハ
 立入ルヘキ日時及場所ヲ豫メ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ
 日出前日没後邸内ニ立入りテ測量又ハ調査ヲ爲ス場合ニ於テハ
 占有者ノ承諾ヲ受ケヘシ

第四條 起業者測量又ハ調査ノ爲必要アルトキハ障害物ヲ除却スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五條 起業者土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲シ又ハ障害物ヲ除却スル場合ニ於テハ地方長官ヨリ受ケタル證票ヲ携帯スヘシ
第六條 土地ニ立入り測量若ハ調査ヲ爲シ又ハ障害物ヲ除却スルニ依リテ他人ニ及ボシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス
第七條 土地收用令第五條ノ申請又ハ協議ハ事業計畫書、收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目調書及圖面ヲ添附スヘシ

第八條 土地收用令第六條ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ府尹又ハ郡守ニ申請ヲ爲スヘシ

府尹又ハ郡守認定ヲ爲シタルトキハ起業者事業ノ種類使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第九條 土地收用令第四條ノ公告アリタル後事業ヲ廢止變更シタルニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スル必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ地方長官ヲ經由シテ朝鮮總督ニ届出ツヘシ
朝鮮總督前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告ス

第十條 起業者土地收用令第九條ノ規定ニ依リ裁決ヲ求ムトスルトキハ其ノ申請書左ノ書類ヲ添附スヘシ軍機ニ關スル事業ニ

付テハ第一號ノ書類ハ之ヲ添附スルコトヲ得ス

一 事業計畫書及圖面
二 面別ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ位置、地目
收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地、物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積、建坪等ヲ併記スヘシ
損失補償ノ見積金額及内譯
收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間
關係人ノ氏名、住所

地方長官前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ公告スヘシ
第十一條 關係人ハ前條第二項ノ公告アリタル日ヨリ三十日以内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後二週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ
前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲スコト能ハサル事由アルトキハ朝鮮總督ハ地方長官ノ申請ニ依リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第十三條 土地收用令第九條ノ裁決又ハ同第十條及本令第六條第二項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ且理由ヲ附スヘシ
第十四條 地方長官裁決又ハ決定ヲ爲シタルトキハ裁決書又ハ決定書ノ謄本ヲ起業者及關係人ニ送達スヘシ

第十五條 起業者又ハ關係人土地收用令第十二條ノ規定ニ依リ裁

定ヲ求ムトスルトキハ裁決又ハ決定ヲ爲シタル地方長官ヲ經由シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ意見ヲ附シ關係書類ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

第十六條 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當ハ左ノ範圍内ニ於テ地方長官之ヲ定ム

汽車賃 一哩四錢以上十錢以下

船 賃 一海哩五錢以上十五錢以下

車馬賃 一里三十錢以上七十錢以下

手 當 一日六十錢以上六圓以下

第十七條 土地收用令第六條ニ依リ認定スヘキ事業ニシテ二以上ノ府郡ニ跨ルトキハ關係府尹郡守協議ノ上之ヲ處分スヘシ協議調ハサルトキハ地方長官ノ指揮ヲ受ケヘシ

裁決又ハ決定ヲ爲スヘキ事業ニシテ二以上ノ道ニ跨ルトキハ關係地方長官協議ノ上之ヲ處分スヘシ協議調ハサルトキハ朝鮮總督ノ指揮ヲ受ケヘシ

第一項ニ依リ地方長官指揮ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其事業二以上ノ道ニ跨ルトキモ亦前項ニ同シ

第十八條 起業者カ第一條ノ規定ニ違反シテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ料料ニ處ス

第十九條 土地收用令第四條ノ公告ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ爲ツ本令ニ依リ地方長官ノ爲スヘキ公告ハ道報ヲ以テ之ヲ爲シ

且地方官廳ノ揭示場及適當ノ場所ニ揭示シテ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

○土地收用令第二條第一項第六號ノ製

鐵事業ノ範圍ノ件

大正七年一月三十一日 府令第十號

土地收用令第二條第一項第六條ノ製鐵事業ハ銑鐵、鋼鐵、壓延鋼材、軌條及繼日板(含ム)、鍛鋼製品者若ハ鑄鋼製品ノ素材又ハ副生物ノ製造ニ關スル事業トス

前項ノ副生物ノ種類左ノ如シ

鑛滓綿

鑛滓煉瓦

鑛滓瓦

參 兒

無水參兒

輕 油

中 油

重 油

ピツチ

安母尼亞

安母尼亞水

硫酸安母尼亞

粗製ナフサリシ

アンスラシ
ペンゾール
キシロール
トルオール
ソルベントオフサ
附則
本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

○土地收用令ヲ京畿道京城府等ニ施行

ノ件 明治四十四年七月十四日 府令第八七號

土地收用令ヲ明治四十四年七月十四日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

- 一 京畿道京城府、楊州郡
- 一 慶尙北道大邱府
- 一 全羅北道全州郡、任實郡、南原郡

○土地收用令ヲ平安南道鎮南浦府ニ施行

ノ件 明治四十四年八月七日 府令第九一號

土地收用令ヲ明治四十四年八月七日ヨリ平安南道鎮南浦府ニ施行ス

○土地收用令ヲ慶尙南道釜山府ニ施行

ノ件 明治四十四年九月二十二日 府令第一〇〇號

土地收用令ヲ明治四十四年九月二十二日ヨリ之ヲ慶尙南道釜山府ニ施行ス

○土地收用令ヲ平安南道平壤府ニ施行

ノ件 明治四十五年三月二十九日 府令第六五號

土地收用令ヲ明治四十五年三月二十九日ヨリ平安南道平壤府ニ施行ス

○土地收用令ヲ黃海道海州郡ニ施行

ノ件 明治四十五年四月二十五日 府令第八八號

土地收用令ヲ明治四十五年四月二十五日ヨリ黃海道海州郡ニ施行ス

○土地收用令ヲ咸鏡南道元山府及安邊郡ニ施行

ノ件 明治四十五年五月九日 府令第九九號

土地收用令ヲ明治四十五年五月九日ヨリ咸鏡南道元山府及安邊郡ニ施行ス

○土地收用令ヲ忠清南道公州郡ニ施行

ノ件 大正元年八月十日 府令第四號

土地收用令ヲ大正元年八月十日ヨリ忠清南道公州郡ニ施行ス

○土地收用令ヲ江原道鐵原郡ニ施行

土地收用令ヲ大正元年九月二十五日ヨリ江原道鐵原郡ニ施行ス

ノ件 大正元年九月二十五日 府令第一七號

○土地收用令ヲ咸鏡北道城津郡ニ施行

ノ件 大正元年十二月四日 府令第三五號

土地收用令ヲ大正元年十二月四日ヨリ咸鏡北道城津郡ニ施行ス

○土地收用令ヲ全羅北道益山郡ニ施行

ノ件 大正二年一月九日 府令第一號

土地收用令ヲ大正二年一月十五日ヨリ全羅北道益山郡ニ施行ス

○土地收用令ヲ全羅北道群山府ニ施行

ノ件 大正二年二月二日 府令第五號

土地收用令ヲ大正二年二月一日ヨリ全羅北道群山府ニ施行ス

○土地收用令ヲ平安北道龜城郡及秦川郡ニ施行

ノ件 大正二年三月二十九日 府令第三〇號

土地收用令ヲ大正二年四月一日ヨリ平安北道龜城郡及秦川郡ニ施行ス

○土地收用令ヲ全羅南道光州郡ニ施行

ノ件 大正二年十一月六日 府令第九九號

土地收用令ヲ大正二年十一月十日ヨリ全羅南道光州郡ニ施行ス

○土地收用令ヲ慶尙南道金海郡ニ施行

ノ件 大正三年三月十九日 府令第二一號

土地收用令ヲ大正四年四月一日ヨリ慶尙南道金海郡ニ施行ス

○土地收用令ヲ京畿道未施行地域等ニ施行

ノ件 大正三年四月十四日 府令第四〇號

土地收用令ヲ大正三年四月二十日ヨリ左記ノ區域ニ施行ス

- 一 京畿道未施行地域全部
- 一 忠清北道
- 一 忠清南道未施行地域全部
- 一 慶尙北道未施行地域全部
- 一 咸鏡南道未施行地域全部
- 一 咸鏡北道未施行地域全部

○土地收用令施行地域ノ件

大正三年四月二十日 官廳長官第一三八號

政務總監

本府及所屬官署長宛

京畿道長官伺出ニ係ル首題ノ件左記ノ通御了知相成度此段及通牒候也

記

問 土地收用令施行地域ハ府郡ノ區劃ト同一地域ヲ以テ定メラレ居候處令般行政區劃ノ變更ノ結果トシテ該地域モ當然新府郡ノ區劃ニ依ルモノト認メ可哉將又行政區劃及名稱ノ變更如何ニ拘ラス曩ニ定メラレ候地域ナル前府郡ノ區劃ヲ以テ右施行地ト看做シ可然哉

答 後段御見込ノ通

○土地收用令ヲ平安北道未施行地ニ施行ノ件

大正四年六月一日 府令第六〇號

土地收用令ヲ大正四年七月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一 平安北道 未施行地域全部

○土地收用令ヲ江原道未施行地ニ施行ノ件

大正五年七月四日 府令第五三號

土地收用令ヲ大正五年七月十五日ヨリ左記地域ニ施行ス

江原道 未施行地域全部

○土地取用令ヲ全羅北道外四道未施行地域ニ施行ノ件

大正六年一月十九日 府令第一號

土地收用令ヲ大正六年一月二十日ヨリ左記地域ニ施行ス

一 全羅北道 未施行地域全部

一 全羅南道 未施行地域全部

- 一 慶尙南道 未施行地域全部
- 一 黃海道 未施行地域全部
- 一 平安南道 未施行地域全部

○土地收用事業認定申請ニ添付スル圖書類ニ關スル件

大正八年五月三日 官廳條例第六二號

政務總監

各道長官宛

土地收用事業認定申請ニ添付スル圖書類ノ調製方區々ニ涉リ處理上不便少カラサルニ依リ自今左記ニ依リ調製完備セシムル様御取扱相成度此段及通牒候也

一 事業計畫書

施工地名、工種、長、幅、施工方法其ノ他計畫ノ要領ヲ記述スルハ勿論起業ニ付他ノ法令ニ基キ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノニ在リテハ其ノ年月日及許可又ハ認可官廳ヲモ附記スルコト

二 收用土地細目調書

所在地名、地番、地目、面積(每筆ノ全面積トス)ヲ土地臺帳又ハ他稅臺帳等ニ依リ記載スルハ勿論地番ヲ附セサル土地例ハハ林野ノ如キハ符號ヲ以テ之ヲ表示スルコト

三 圖面

(イ)一般圖

道路、河川、部落其ノ附近一般ノ地形ヲ知り得ル圖面ニ施工ノ方線又ハ位置ヲ記入シ計畫平面圖トノ對照ニ便スルコト

(ロ)計畫平面圖

實測圖ニ附近ノ地形ヲ示シ道路、鐵道、水路等ニ在リテハ計畫ノ長、幅等ヲ記入シ建物其ノ他之ニ類スル施設ニ在リテハ施設ノ全體ノ地域及建設物ノ配置ヲ表示スルコト

(ハ)收用地目圖

地籍圖又ハ課稅地見取圖等ニ依リ調製シ收用土地ノ地番、地目、收用ヲ要スル區域、洞、里境界線ヲ記スルハ勿論收用地域内ニ國有地其ノ他公用ニ供シタル土地アルトキハ其ノ用途並ニ管理換又ハ移轉手續ノ濟否ヲ圖面ニ附記入スルカ又ハ別ニ調書ヲ以テ之ヲ表示セシメ尙事業用地ニシテ協議調ヒタルモノニ就テハ之ヲ明ニスルコト

○土地收用裁決請求ニ關スル件

大正八年九月六日 土部六〇八號

土木局長

京畿道長官宛

七月十八日附土第一一五六號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ再調補正方照會相成候處收用裁決請求書ニ添附セル關係人名ニ依リ裁決相成度此段及回答候也

道ヲ裁決申請後死亡セル者アルトキハ承繼人ヲ被申請人トシテ御取扱相成度申添候

○土地收用裁決上疑義ニ關スル件

大正八年十月二十九日 土部二六四六號

土木部長

京畿道知事宛

大正八年九月二十七日附土第一一五六號ヲ以テ稟伺相成候首題ノ件左記ノ通御了知相成度依命及通牒候也

問一

(イ)土地所有者死亡シ當該地ニ關スル相繼確定シタルトキハ土地收用令ニ所謂關係人ハ相繼人ナルヲ以テ起業者力之ニ協議セサルトキハ法定ノ手續ヲ爲ササルモルナリ從テ裁決ヲ申請スルコトヲ得ス

(ロ)土地所有者死亡シ當該地ニ關シ相繼人ノ存在明ナルモ其ノ相繼關係確定セサルトキハ土地收用令ニ所謂協議ヲナスコト能ハサル場合ニ該當スルヲ以テ裁決ヲ申請スヘキモノトス

(ハ)相繼人在ルコト不分明ナル場合ハ内地人ニ在リテハ相繼財產ノ管理人ニ協議スヘキモノトス

(ニ)前項ノ場合朝鮮人ニ在リテモ相繼財產ノ管理人アルトキ

亦前項ニ同シ

問二

起業者ハ財産承繼人ヲ通報スヘキ義務ヲ有セス

土地收用裁決上疑義ニ關スル件

大正八年九月二十七日
土第一一五六號

京畿道知事

政務總監宛

土地收用裁決上左記ノ疑義ニ對シ御指揮相成度經伺候也

記

- 一問 起業者ハ關係人カ死亡者ナルヲ以テ收用令第九條ニ依リ協議スル能ハサルモノトシ收用裁決ヲ申請セリ此ノ場合ニ於テハ相續人若ハ民法千五十二條ニ依ル財産管理人ニ協議シ其ノ結果ニ依リ申請スヘキモノニシテ起業者ノ申請ハ法定ノ手續ヲ盡サザルモノナルヲ以テ裁決スル能ハサルモノト認ム如何
- 二問 裁決申請後關係人死亡セシトキハ起業者ヨリ財産承繼人ヲ裁決官ニ通報スヘキモノト認ム如何

第七章 國庫補助

○土地收用裁決上疑義ニ關スル件

大正八年九月二十七日
土第一一五六號

京畿道知事

政務總監宛

土地收用裁決上左記ノ疑義ニ對シ御指揮相成度經伺候也

一問 起業者ハ關係人カ死亡者ナルヲ以テ收用令第九條ニ依リ協議スル能ハサルモノトシ收用裁決ヲ申請セリ此ノ場合ニ於テハ相續人若ハ民法千五十二條ニ依ル財産管理人ニ協議シ其ノ結果ニ依リ申請スヘキモノニシテ起業者ノ申請ハ法定ノ手續ヲ盡サザルモノナルヲ以テ裁決スル能ハサルモノト認ム如何

二問 裁決申請後關係人死亡セシトキハ起業者ヨリ財産承繼人ヲ裁決官ニ通報スヘキモノト認ム如何

○地方土木費國庫補助規程

大正五年十月九日
府令第八七號

第一條 地方費又ハ府ニ於テ施行スル土木工事ニ對シ國庫補助ヲ受ケムトスルモアルトキハ道長官又ハ府尹ハ稟申書ニ工事計畫概要書、工費概算書(別紙第一號樣式)及圖面ヲ添付シ非常災害工事ニ在リテハ災害ノ已ミタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ他ノ工事ニ在リテハ前年度四月末日迄ニ本府ニ提出スヘシ但シ一等道路又ハ二等道路ノ維持修繕ニ對スル補助ニ在リテハ稟申書ニ豫定計畫表(別紙第二號樣式)ヲ添付シ工事計畫概要書、工費概算書及圖面ヲ添付スルコトヲ要セス

前項ノ稟申ニ對シ補助ノ必要アリト認メタルトキハ計畫書及工費額ヲ覈査シ其ノ結果及補助見込額ヲ道長官又ハ府尹ニ通達ス

第二條 道長官又ハ府尹前條ノ通達ヲ受ケタルトキハ速ニ工事實施設計書及實測圖面平面圖、縱斷面圖、橫斷面圖及構造圖ヲ添付シ國庫補助ノ申請ヲ爲スヘシ但シ一等道路又ハ二等道路ノ維持修繕ニ對スル補助ニ關シテハ實施計畫表(別紙第二號樣式)ヲ添付シ實施設計書及實測圖面ヲ添付スルコトヲ要セス

前項ノ實施設計ニ依ル金額カ前條第二項ニ依リ通達シタル工費額ヨリ著シク増減シタルトキハ國庫補助見込額ニ拘ラス相當ト認ムル金額ヲ補助スルコトアルヘシ

第三條 前條ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ當該年度内ニ工事竣功ノ見込ナシト認ムルトキハ國庫補助見込額ニ拘ラス相當ト認ム

ル金額ヲ補助シ又ハ補助セザルコトアルヘシ

第四條 國庫補助工事ニ著手シタルトキハ五日以内ニ著手報告(別紙第三號樣式)ヲ爲シ且十一月及翌年三月ノ末日ニ於ケル工事功程表別紙(第四號樣式)ヲ翌月十日迄ニ提出スヘシ

第五條 國庫補助工事ニシテ天災其ノ他過クヘカラサル事由ニ依リ當該年度内ニ竣功セザルトキハ其ノ事由書及繰越調書(別紙第五號樣式)ヲ添附シ年度經過後十日以内ニ報告スヘシ

第六條 左ノ場合ニ於テハ國庫補助ヲ取消シ若ハ其ノ一部ヲ減額シ又ハ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ヲ返納セシムルコトアルヘシ

- 一 當該年度内ニ工事ニ著手セザルトキ
- 二 當該年度内ニ相當ノ功程ヲ認メ難キトキ
- 三 工事計畫ノ變更又ハ認可ヲ受クヘキ實施設計ノ變更ヲ認可ヲ受ケスシテ施行シタルトキ
- 四 實施設計ノ變更ニ依リ其ノ設計金額カ當初ノ設計金額ヨリ著シク減少シタルトキ
- 五 工費精算額カ實施設計金額ヨリ著シク減少シタルトキ

第七條 國庫補助工事ノ計畫ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ變更計畫及圖面ヲ添付シ豫メ承認ヲ受クヘシ但シ一等道路ノ維持修繕計畫ノ變更ニ付テハ道路監視員又ハ修路工夫ノ員數ヲ減少シ又ハ其ノ配置ヲ變更スル場合ヲ除クノ外承認ヲ受ケルコトヲ要セス

備考

- 一 原設計ノ欄ニハ本府ノ承認ヲ經タル實施設計金額ヲ記載スヘシ
- 二 剩餘金ニ付テハ其ノ處理ニ關スル要領ヲ備考トシテ記載スヘシ

○地方土木費國庫補助工事設計變更ノ取扱ニ關スル件

大正五年十月九日 官廳發第一七二號

政務總監

各道長官、府尹宛

今般府令第八十七號ヲ以テ地方土木費國庫補助規程發布相成候處同規程第八條ニ依リ設計變更ノ認可ヲ要スル場合左記ノ通決相成候條右ニ依リ取扱可相成此段及通牒候也

記

- 一 道路ノ部
- 一 路線ノ變更
- 二 道路ノ幅員又ハ勾配ノ變更
- 三 橋梁ノ位置又ハ橋梁、暗渠、水拔土管及箱樋ヲ除クノ延長幅員、工法又ハ主要ナル材料ノ變更
- 四 橋梁、暗渠ノ増減
- 五 渡船設備ノ變更

- 一 河川ノ幅員又ハ勾配ノ變更
 - 二 堤防ノ位置又ハ断面ノ變更
 - 三 水制、讓岸、堰ノ位置又ハ工法ノ變更
- 港津其ノ他ノ水面ノ部
- 一 防波堤、防砂堤、棧橋、荷揚場、船溜其ノ他工作物ノ位置、工法、主要ナル材料又ハ寸法ノ變更
 - 二 埋築ノ區域又ハ區域内道路ノ變更
 - 三 浚渫ノ區域又ハ深サノ變更
- 上水道ノ部
- 一 貯水池、沈澱池、配水池、濾過池、唧水場、源水取入口ノ位置、工法、主要ナル材料又ハ大サノ變更
 - 二 水管ノ種類又ハ水道幹線ノ口径ノ變更
 - 三 下水吐口、下水幹線ノ位置、工法、主要ナル材料、断面形狀又ハ大サノ變更
 - 二 人孔ノ配置又ハ其ノ數ノ變更
 - 三 排水唧筒ノ種類、馬力又ハ筒數ノ變更

其ノ他ノ工事ノ部

前合項ノ例ニ準ス

○地方土木費國庫補助書類ノ調製方ニ關スル件

大正五年十月九日 官廳發第一七二號

政務總監

各道長官、府尹宛

今般府令第八十七號ヲ以テ地方土木費國庫補助規程發布相成候處同規程第一條、第二條、第八條及第九條中ニ規定ノ工事計畫概要書、實施設計書、變更設計書、出來形調書及圖面ハ別冊要領書ニ依リ調製相成度此段及通牒候也(別冊略ス)

(大正五年十月九日官廳發第一七二號別冊)

國庫補助稟申ニ關スル書類調製要領

一 補助規程第一條ニ依ル工事計畫概要書ニハ新道改修若ハ路線變更ノ必要アル理由、路線選定ニ付テノ地形、土質等ヲ酌量シタル理由並ニ建築費及保存費ノ多寡、運搬ノ便否ヲ比較シタル說明其ノ他橋梁、暗渠等構造法ノ說明及其ノ構造法選定ノ理由等ヲ詳記シ尙ホ橋梁ニ在リテハ架橋ニ要スル箇所ノ總數ニ對スル著手計畫箇所數及未著手箇所數(重ナル箇所ニ對シテハ其ノ河川名及架橋長ヲ列舉スヘシ)ヲ掲ケ未著手箇所ニ對スル將來ノ方針又ハ計畫ヲ記述スヘシ

- 二 補助規程第一條ニ依ル圖面ハ可成參謀本部出版ノ五萬分ノ一圖ヲ用井計畫路線ノ外在來ノ路線及計畫路線ニ接續スル前後道路ノ既未成及其ノ幅員ヲ表示スヘシ但シ實例シタルモノニ在リテハ該圖ヲ使用シ妨ケナキモ附近一帶ノ地形ヲ參照スル爲參謀本部出版ノ圖面ヲ添付スルコト
- 三 補助規程第二條、第八條及第九條ニ依ル實施設計書、變更設計書及出來形調書ハ別紙様式ニ依リ調製スヘシ
- 四 補助規程第二條ニ依ル實例圖面ハ大正元年十月調第一一〇八號圖面調製心得ニ依リ調製スヘシ
- 五 道路工事以外ノ工事ニ付テハ前各項ノ例ニ準シ其ノ要領ヲ失セサル様適宜調製スヘシ

△印ハ朱書トス

土木係 主任檢印	設計 年月日	大正	年	月	日	調査 者	設計 者
何線何間道路改修工事實施設計書							
一 道路修築延長八千五百十四間 幅 三間							
内 橋梁延長二十九間ヲ含ム							
此工費金五萬四千八百四十九圓七十三錢							
△外							
△金何圓							
夫役換算額							
夫役數何人							
内 譯							

位置種類	長	厚幅	數量	量稱呼	工費	摘	要
石垣	石控尺二寸		一、三四・九	坪	六、四三・三四	代價表五號通り	
基石	生松丸太		六七・〇〇	間	一〇、四六・三四	代價表七號通り	
礎			九二〇		八八九・六四〇		
合計					一一、三六・九五		

護岸根固工事一覽表

位置種類	長	厚幅	數量	量稱呼	工費	摘	要
何何	木床	七〇間	六〇	床	一、四四・〇〇九	代價表十二號通り	
同同	同	同	四〇	同	一、三九・三三八	十一號通り	
同同	同	同	三〇	同	七三三・〇〇三	十二號通り	
何何	沈床	一〇〇	二〇	床	九九二・六二〇	十號通り	
同同	同	同	二〇	同	九九二・六二〇		
合計					一、九八・二四〇		

何何	鐵線柵	何何	鐵線柵
三六〇・〇〇	高	三六〇・〇〇	高
六八七・八〇〇	間	六八七・八〇〇	間
六、六一・二七七		六、六一・二七七	
六八七・八〇〇	同	六八七・八〇〇	同
九號通り		九號通り	

護岸根固工事設計内譯書

内譯

工種名稱	品種類	寸法	容量	員數	單位	單價	金額	摘	要
木床		長七間幅二間厚四分		九〇〇	床	二四四・〇〇一	二一六・〇〇九	伏價表十二號通り	
同		長十間幅二間厚四分		四〇〇	同	三四八・〇七	一、三九・三三八	十一號通り	
沈床		長十間幅三間厚六分		四〇〇	床	四九六・三二〇	三、五八・三三七	十號通り	
鐵線柵		高二尺		三六〇	同	一・八一〇	六八七・八〇〇	九號通り	
合計							六、六一・二七七		

橋梁一覽表

工種	名	品	寸	法	容	量	具	數	單	價	金	額	摘	要
力	木	松	長十四尺五分、三寸角					同	十本	一・二五〇	四・六〇〇	四・六〇〇	破風板一枚ニ七本雨押一枚ニ十四本	
地	覆	及	長十四尺二寸五分幅五寸高六寸					同	同	四・五九〇	一八・三六〇	一八・三六〇	据付用モルタル代共	
同	同	同	長十四尺四寸五分幅五寸厚六寸					同	同	四・六五〇	一八・六〇〇	一八・六〇〇	代價表八號ノ通り	
同	同	同	長十五尺二寸五分幅五寸厚六寸					同	同	四・九〇〇	二七・六〇〇	二七・六〇〇	坪ニ二人	
男	柱	同	長四尺、八寸角					同	同	二・七四〇	一〇・九六〇	一〇・九六〇	上面及合端上研仕上据付一切	
水	線	同	長一尺五寸、四寸角					同	同	二・五〇〇	一〇・四〇〇	一〇・四〇〇	木材全部三度塗材料工費共	
破	板	同	長六尺五分幅七寸厚一					同	同	四・六〇〇	一八・四〇〇	一八・四〇〇	器具及足場損料其ノ他一切	
雨	押	同	長六寸五分幅五寸厚一					同	同	三・三〇〇	一三・二〇〇	一三・二〇〇		
粗	桑	同	四尺打違五尺繩					同	同	一・五〇〇	九・〇〇〇	九・〇〇〇		
鐵	線	同	長三寸、一寸角					同	同	一・〇〇〇	四・五三〇	四・五三〇		
同	上	同	長三寸、一寸角					同	同	一・〇〇〇	四・八六〇	四・八六〇		
同	同	同	長二尺二寸徑五分					同	同	三・三〇〇	九・九八〇	九・九八〇		
同	同	同	長二尺二寸徑五分					同	同	三・三〇〇	一六・〇〇〇	一六・〇〇〇		
同	同	同	長九寸徑五分					同	同	三・〇〇〇	二・〇〇〇	二・〇〇〇		
同	同	同	長九寸徑五分					同	同	三・〇〇〇	一・八五〇	一・八五〇		
同	同	同	長九寸徑五分					同	同	三・〇〇〇	九・五四〇	九・五四〇		
同	同	同	長四寸					同	同	三・〇〇〇	二・〇〇〇	二・〇〇〇		
同	同	同	長四寸					同	同	三・〇〇〇	二・〇〇〇	二・〇〇〇		
同	同	同	七吋					同	同	七・〇〇〇	二二・〇〇〇	二二・〇〇〇		

工種	名	品	寸	法	容	量	具	數	單	價	金	額	摘	要
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	五・〇〇〇	五・〇〇〇	破風板一枚ニ七本雨押一枚ニ十四本	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	六・〇〇〇	六・〇〇〇	据付用モルタル代共	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	一七・〇〇〇	一七・〇〇〇	代價表八號ノ通り	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	二五・八〇〇	二五・八〇〇	坪ニ二人	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	七・六四〇	七・六四〇	上面及合端上研仕上据付一切	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	一・八〇〇	一・八〇〇	木材全部三度塗材料工費共	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	器具及足場損料其ノ他一切	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	六・七五〇	六・七五〇		
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	二・三六六・六七	二・三六六・六七		
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	二・九六九・三三	二・九六九・三三		

工種	名	品	寸	法	容	量	具	數	單	價	金	額	摘	要
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	五・〇〇〇	五・〇〇〇	破風板一枚ニ七本雨押一枚ニ十四本	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	六・〇〇〇	六・〇〇〇	据付用モルタル代共	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	一七・〇〇〇	一七・〇〇〇	代價表八號ノ通り	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	二五・八〇〇	二五・八〇〇	坪ニ二人	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	七・六四〇	七・六四〇	上面及合端上研仕上据付一切	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	一・八〇〇	一・八〇〇	木材全部三度塗材料工費共	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	器具及足場損料其ノ他一切	
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	六・七五〇	六・七五〇		
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	二・三六六・六七	二・三六六・六七		
同	同	同	長二尺以上幅一尺厚五					同	同	六・〇〇〇	二・九六九・三三	二・九六九・三三		

備考
一 橋體工中橋脚、防腐劑、雜費等ハ別口トシ調製スルモ妨ケナシ此ノ場合ニ於テハ毎日其ノ計ヲ附スヘシ

工種
名
品
寸
法
容
量
具
數
單
價
金
額
摘
要

鐵	同	沈	仕	根	計	第十一號	木床一床當 (是十間幅二間内法高二尺四寸)	連柴間二十二ヶ所縱橫格子二廻リ 緊結用一萬五千尺分 上下格子緊結用側三方二通幅一間 角碁目ニ使用 二百十六個ヲ以テ一立坪トス 連柴拵其他床堀共仕上一切坪十三 人宛 坪三三人
鐵	同	石	上	堀				
線	同	雜	人	同				
亞鉛引	十二番	石	夫					
同	同	一個目方廿貫目以上						
同	同	六〇〇立坪						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇						
同	同	四六〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六〇〇〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	三七・五〇						
同	同	一〇〇〇						
同	同	六・五〇						

△金五萬四千八百四十九圓七十三錢
 △金五萬五千三百四十五圓三十二錢
 金五萬五千六百九十三圓五十錢
 差引金三百四十八圓十八錢
 △(既定請負金何萬何千圓)

原設計額
 第一回變更設計額(何年何月)
 道長官專行
 今回變更設計額
 增(減額ノトキハ朱書トス)

工種	名稱	單位	現在設計(△)		變更設計		差引(△)		摘要
			數量	單價	數量	單價	增	減	
橋	橋臺	平坪	△三、一〇〇	△三、七二五	△一、〇八一	△一、〇〇〇	三六、九六〇	三六、八四〇	一、四九〇・三八八
	橋臺石垣	同	△二、三六〇	△九、〇七二	二二、七六三	二二、九六〇	九、〇七二	二二、七六三	二二、七六三
	橋臺基礎	間	△一、七〇〇	△二、三七〇	四〇、二九〇	一七、〇〇〇	二、三七〇	四〇、二九〇	四〇、二九〇
梁	同	同	△一、七〇〇	△三、〇〇〇	五、一〇〇	一七、〇〇〇	三、〇〇〇	五、一〇〇	五、一〇〇
	同	同	△一、七〇〇	△三、〇〇〇	五、一〇〇	一七、〇〇〇	三、〇〇〇	五、一〇〇	五、一〇〇
其他	計		△五、五〇〇	△一、三三〇	二、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
合	計		△五、五〇〇	△一、三三〇	二、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇

備考
 一 原設計額ハ本府ノ承認ヲ經タル實施設計金額ヲ記載スヘシ
 二 本變更則ニ道長官ニ於テ既ニ專行變更シタルモノアル場合ハ左記ノ例ニ依リ備考ニ記載スヘシ

- 一 測點何號間何橋土橋長二十間(原工費二、九六〇圓三三二)ハ施工中出水ノ爲川底ニ異動ヲ來シタル爲橋杭長及橋臺高ヲ増スノ必要アリ何年何月道長官限リ變更(變更工費三、四六四圓九二〇)セリ即チ總工費ハ第一回變更設計額ノ如シ
- 二 設計變更ノ認可ヲ受ケムトスル設計力既ニ道長官ニ於テ專行變更シタル設計ト關聯チ有スル場合ハ之ヲ合一シテ變更設計ヲ調製スル方又ハ別紙ニ調製添付スヘシ
- 三 設計變更ノ認可ヲ受ケムトスル設計ノ單價ハ既ニ請負ニ付シタルモノニ在リテハ該單價ニ依リ否ラサルモノハ現在設計ノ單價ニ依リ算出スヘシ
- 四 設計變更ノ認可ヲ受ケムトスル設計ノ單價ハ既ニ請負ニ付シタルモノニ在リテハ該單價ニ依リ否ラサルモノハ現在設計ノ單價ニ依リ算出スヘシ
- 五 現在設計トハ原設計タルト變更設計(道長官限リ變更シタルモノヲ含ム)タルトナ間ハス實施ノ基本タルヘキ設計ヲ云フ

測點	何號	間	何橋	(何川架設)	變更明細設計書
△一	土橋	長九	間		全實用幅 三十九尺四寸
△此	坪數	二十九坪	一合		全實用幅 三十九尺四寸
一	土橋	長十二	間		全實用幅 三十九尺四寸
此	坪數	三十八坪	八合		全實用幅 三十九尺四寸

變更理由
 出水ノ狀況ニ鑑ミ一徑間ヲ延長スルノ必要ヲ認メタルニ産ル

床掘計

坪ニ二人宛

○土木工事設計書様式ニ關スル件

大正六年五月十日
土庫第一二〇四號

土木局長

各道長官宛

土木工事設計書ノ様式ニ關シテハ國庫補助申請ノ場合ハ大正五年十月官通牒第一七二號ニ依リ調製スヘキ義ニ有之候處從來提出ニ係ルモノヲ見ルニ往々其ノ様式ヲ異ニシ或ハ半紙判ヲ用ユル等調製方區々ニシテ調査上不便ナルノミナラス自然處理上ノ遲速ニ影響スル義ニ有之候條國庫補助ニ係ルモノハ勿論否ラサルモノト雖土木工事ノ設計書ハ特殊ノ工法ニ依ル場合ヲ除クノ外總テ左記ノ趣旨ニ依リ一定ニ調製シ使用セシメラルノ様致度依命此段及通牒追テ從來調製ニ係ル殘存ノ用紙ハ其ノ儘使用セシメラレ差支無之候

記

- 一 設計書様式ハ地方土木費國庫補助規程ニ基ク大正五年十月九日官通牒第一七二號別冊様式ニ依ルコト
- 二 用紙ハ美濃判ニ一定シ上下ノ輪廓ヲ擴メテ摘要欄ヲ大ナラシメ記入ニ便ナラシムルコト

○土木費國庫補助申請ニ要スル圖面調製心得ノ件

大正元年十月十八日
號第一二〇八號

土木局長

各道長官宛

客年六月二十三日附土發第二二九號ヲ以テ土木費國庫補助申請ニ要スル圖面調製心得書及御送附置候處今般別紙ノ通改正致候ニ付此段及御通知候也
追テ設計書中土羽及筋芝ノ工費ヲ平積計算書ニ依リ別送算出セラルル向モ有之候處爾令盛土ノ單價ニ合計算上シ其工法ハ仕樣書ニ明示スルコトトシ可然尙盛土數量切土ヨリ少キ場合ニ於テ切土ニノミ價格ヲ付スルトキハ土羽及筋芝ノ工費ハ便宜切土ノ單價ニ併算スルモ妨ケナク候右申添候
(別紙)

圖面調製心得

一 線路實測平面圖

縮尺二千四百分ノ一ニ調製シ線路中心線ノ左右各十間以内ニ在ル建物、市街、村落、軌道、山川、道路、沼澤、森林、末野、荒蕪地等及道、郡、面ノ境界竝ニ磁針於位等ヲ示スヘシ

二 線路實測縱斷面圖

線路中心線路ハ赤色ヲ以テ彩リ距離ハ二十間ヲ以テ一鎖トナシタル鎖數ヲ以テ十鎖毎ニ記シ曲線ノ始終點、半徑、交角及切線長ヲ記シ若クハ曲線表ヲ地面ノ一部ニ掲記スヘシ
市街道路實測平面圖ハ縮尺三百分ノ一又ハ六百分ノ一トス但シ市街全圖其他地形圖ハ適宜ノ縮尺(三百分ノ一倍數)ヲ用ウルコトヲ得

三 線路實測橫斷面圖

縮尺二百分ノ一横二千四百分ノ一トシ切取ノ深(赤色)〔最上欄〕築堤ノ高(青色)〔第二欄〕計畫線路ノ高低(赤色)〔第三欄〕計畫線路ノ勾配(赤色)〔第四欄〕線路中心線ニ於ケル在來地盤ノ高低(黑色)〔第五欄〕ヲ一鎖毎ニ記シ尙土坪算出ノ基礎トナルヘキ位置ハ鎖ノ中間ト雖モ同様ニ記載シ鎖番號及中間位置ノ距離ハ黑色ニテ最下欄ニ記シ尙欄外ニ直線及曲線ノ圖表ヲ示スヘシ

橋梁、暗渠、水拔等ノ位置ニハ徑間、內法最高水位、平水位等ヲ記シ且ツ柵、石垣、川切、潜水準器標高在來道路及鐵道ヲ橫斷スル位置及道、郡、面ノ境界等其他設計ニ關スルモノハ其ノ概要ヲ記入スヘシ
在來地盤高低、計畫線路高低築堤高、切取深等ハ尺以上二位ニ止メ距離八間以下一位ニ止ムヘシ
水道工事導水線路等特種ノモノハ縱橫共便宜適宜ノ縮尺(百ノ倍數ニ限ル)ヲ用ウルコトヲ得

三 線路實測橫斷面圖

縮尺縱橫共壹百分ノ一ニ調製シ在來地盤ハ黑線ヲ以テ示シ計畫線路ハ赤線ヲ以テ示スヘシ
平坦部ニアリテハ鎖毎ノ橫斷面圖ヲ省略スルコトヲ得
四 構作物ハ全體圖縮尺壹百分ノ一以上明細圖縮尺四十分ノ一以上トシ(縮尺ハ十ノ倍數ニ限ル)各部ノ構造其他必要ナル諸件ヲ判明ナラシムル様調製シ各部分材料其他ノ寸法線及矢印ハ赤色ヲ用ヒ寸法文字ハ黑色トシ鐵物類(皆折打線等ヲ除ク)ハ呎吋ヲ單位トシ其他ハ尺ヲ單位トシ記入スヘシ但シ特種構造ニアラサル構作物ニアリテハ定規圖ヲ用井明細圖ヲ省略スルコトヲ得

五 縱斷面原圖ハ幅一尺二寸以内ノ五厘目方眼縱斷面用紙ニ平

面原圖ハ「セント」質原圖紙三ツ切(幅約一尺七寸)ニ圖紙ノ左方ヲ起點トシ順次右ニ記入シ橫斷面原圖ハ五厘目方眼紙ニ下方ヲ起點トシ順次上方ニ記入スヘシ
構造物圖ハ長三尺三寸幅二尺二寸以内ノ輪廓内ニ納ムル様配置シ調製スヘシ

六 圖面ニハ必ス表題、縮尺、方位、凡例、製圖年月日及責任者ノ捺印ヲ要ス

七 圖面ハ其ノ左肩右下ノ兩隅ニ長約二寸ノ二等邊三角ヲ劃シ之ニ表題番號其ノ他ノ要領ヲ記入シ搜索ノ便ニ供スヘシ但シ卷物トナス圖面ニハ其兩端裏面ニ表題其ノ他ヲ記入スヘシ

○國庫補助工事實施計畫ニ關スル件

大正三年十月二十九日
官通課第三九四號

政務總監

各道長官宛

國庫補助ニヨリ改修シタル一、二等道路ハ近キ將來ニ於テハ國費ヲ以テ再ヒ改修ヲ爲ササルノ方針ニ有之候條道路幅員、勾配、屈曲及橋梁幅員ニ關シテハ特ニ不得已場合ヲ除ク外明治四十四年四月訓令第三七號道路修築標準ニ據リ實施計畫相成度此段及通牒候也

ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具申相成度尙此ノ場合ニアリテモ橋梁ノ幅員ハ道路ノ幅員ト一致セシムルコトト御了知有之度此段申添候也

○國庫補助ヲ受ケタル地方土木工事費

大正三年二月二十六日
官通課第七一號

政務總監

各道長官宛

國庫補助ヲ受ケタル地方土木工事費豫算ハ整理簿ヲ同請負工事ニアリテハ工事臺帳ヲ左記書式ニ依リ設置シ整理相成度此段及通牒候也

追テ實施ノ狀況又ハ經費ノ都合等ニ依リ本文ノ趣旨ニ準據シ能第一號書式()内朱書

大正何年度 國庫補助土木工事費豫算整理簿
何線又ハ工事名稱

年月日	摘	要	實施設計額	決定額	支出額	實施設計豫算額ト決定額トノ差	決定額ト支出額トノ差	備考
3月4日	1	國庫補助500千	10,000,000	3,500,000	10,000,000	6,500,000	3,500,000	年月認可
〃	10	何工事直營設計豫算		5,000,000	1,500,000	1,500,000	8,500,000	年月認可
〃	15	何工事		100,000	1,400,000	1,400,000	8,600,000	年月認可
〃	20	何外何點購入			100,000		8,500,000	年月認可
〃	5	〃						年月認可
〃	2	何工事設計變更減						年月認可
〃	5	何某請負何工事設計變更減	(100,000)	(30,000)		1,300,000	8,420,000	年月認可
						1,380,000		

年月日	摘	要	實施設計額	決定額	支出額	實施設計豫算額ト決定額トノ差	決定額ト支出額トノ差	備考
〃	6	工夫給料何某外何人		75,000	800,000	1,305,000	8,495,000	年月認可
〃	15	何工事一回拂			75,000		7,695,000	年月認可
〃	7	工夫給料		20,000			7,620,000	年月認可
〃	10	何運搬費		100,000	100,000	1,285,000	7,640,000	年月認可
〃	8	〃			20,000	1,185,000	7,740,000	年月認可
〃	10	何何補償費					7,640,004	年月認可
〃	15	〃					7,620,000	年月認可
〃	〃	何運搬費		300,000	1,500,000	885,000	6,420,000	年月認可
〃	〃	何何監督費			2,000,000		4,420,000	年月認可
〃	〃	何工事一回拂					0	年月認可
〃	〃	何直營工事支出額						年月認可
〃	10	〃						年月認可
〃	2	〃						年月認可
〃	31	大正四年度ノ繰越		(4,420,000)				年月認可
		計	9,900,000	4,595,000	4,595,000	885,000		

記載例

- 一口座ハ補助ヲ受ケタル路線又ハ工事別ニ區分スルコト(大正三年二月官通牒第四十二號ニ依ル計算書ノ區分別ニ相當ス)
- 實施設計豫算高ニハ補助ノ指令ヲ受ケタル設計額ヲ掲ケ設計變更ノ増ハ墨書減ハ朱書スルコト
- 決定額請負契約ノ確定其他債務發生ノ都度(監督費ノ如キハ見込額)之ヲ掲ケ其ノ決定額ニ異動ヲ生シタル場合ノ増ハ墨書減朱書スルコト

- 直營ニ依リ施行ヲ要スルトキハ其ノ設計豫算額ヲ以テ決定額トシテ掲ケ更ニ工等名稱毎ニ口座ヲ設ケ前號ノ通設計豫算額ノ整理ヲ爲シ年度又ハ工事竣工シタルトキハ累計ヲ付シ設計豫算ニ剩餘ヲ生シタルトキハ路線又ハ工事別口座ノ決定額欄ニ朱書控除スルコト
- 但シ直營工事中ノ債務確定額ハ直營工事口座ノ決定額ノミニ登記シ其ノ支出額ハ路線別口座及直營口座ニ記載スルコト
- 繰越スヘキ工事費ハ決定額中支出未済額トス繰越ノ承認ヲ受

百町歩及工事費豫算總額四萬圓ニ滿タサルモノニ付テハ本規程ヲ適用セス

- 第三條 事業ノ調査ハ踏査及測量設計ニ分テ道長官、水利組合ノ創立者又ハ水利組合ノ申請ニ依リ之ヲ施行ス但シ政府ノ調査ヲ要セス又ハ調査ノ價值ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 踏査ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類及區域ヲ表示シタル平面圖ヲ添附シ朝鮮總督府ニ提出スヘシ
 - 一 豫定區域
 - 二 地目別面積
 - 三 旱水害ノ概況
- 第五條 測量設計ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類及區域並豫定計畫ヲ記入シタル平面圖ヲ添附シ朝鮮總督ニ提出スヘシ
 - 一 區域選定ノ事由
 - 二 現況(地目別面積、灌漑狀況、水害狀況及關係河川ノ狀況)
 - 三 計畫(計畫ノ大要、用水量、水源及幹線水路)
 - 四 工事費概算
 - 五 事業ノ效果(生産増加概算及純收益増加概算)
- 第六條 踏査又ハ測量設計ヲ了シタルトキハ踏査又ハ測量設計ノ申請者ニ踏査調査又ハ設計書ヲ交付ス
- 第七條 水利組合ノ補助ハ國庫豫算ノ範圍内ニ於テ工事費總豫算

- 額ノ百分ノ十五以内トシ各年度ノ補助額ハ年度毎ニ之ヲ定ム
- 第八條 水利組合ニ於テ補助ヲ受ケムトスルトキハ創立者又ハ組合長ハ稟申書ニ第一號様式ノ工事年度割表ヲ添付シ水利組合ノ設置又ハ區域ノ變更ノ認可申請ト同時ニ朝鮮總督ニ提出スヘシ水利組合設置ノ認可又ハ組合區域ノ變更ノ認可アリタルトキハ前項ノ稟申ニ對シ其ノ補助見込額ヲ通達ス
- 第九條 水利組合前條ノ通達ヲ受ケタルトキハ申請書ニ決定豫算、評議會又ハ組合員ノ總會ノ會議錄謄本及第二號様式ノ工事豫定功程表ヲ添附シ各年度毎ニ補助ノ申請ヲ爲スヘシ
- 第十條 水利組合ノ工事ノ設計變更ニ因リ工事費ノ總豫算ニ對シ一割以上ノ工事費ノ増額ヲ要スルトキハ其ノ增加工事費ニ對シ國庫補助ヲ増額スルコトアルヘシ但シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケサル設計變更ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
- 第十一條 前條ニ依リ補助ノ増額ヲ受ケムトスルトキハ水利組合ハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ
- 第十二條 補助ヲ受ケル水利組合ノ工事ニ著手シタルトキハ五日以内ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ
- 第十三條 補助ヲ受ケル水利組合ハ毎年度九月末日、三月末日現在ニ依リ第三號様式ノ工事功程表及第四號様式ノ豫算現在表ヲ翌月十日迄ニ朝鮮總督ニ提出スヘシ
- 第十四條 補助ヲ受ケル水利組合ノ工事當該年度内ニ相當ノ功程ヲ認メ難キトキハ補助ヲ取消シ若ハ減額シ又ハ交付シタル補助

金ノ全部若ハ一部ヲ返納セシムルコトアルヘシ

- 第十五條 補助工事ノ工事費精算額カ豫算額ニ對シ一割以上減少シタルトキハ水利組合ハ其ノ差額ニ豫算額ニ對スル補助額ノ割合ヲ乘シテ算出シタル補助金ヲ國庫ニ返納スヘシ
- 第十六條 補助ヲ受ケル水利組合ノ工事竣功シタルトキハ第五號様式ノ工事費精算調査及出來形調査並圖面ヲ具シ竣工後三月以内ニ竣功認可ノ申請ヲ爲スヘシ
- 第十七條 水利組合聯合會ヲ設ケムトシ又ハ設ケタル場合ニ於テハ聯合會ノ事業トシテ施行スル工事ニ對シ本規程ヲ適用スルコトヲ得

附則

第一號様式

工事年度割表

工種	計 畫		年 度		割
	數量	豫算額	大正 年度	大正 年度	
	數量	豫算額	數量	豫算額	數量
	豫算額	數量	豫算額	數量	豫算額

備考 工種ハ工事費所屬主要工事名用地買収工事監督費等ノ内譯ヲ示スヘシ

第二號様式

大正 年度工事豫定功程表

工種	總計量		前年度迄		本年度		著手豫定	竣功豫定	備考
	數量	金額	數量	金額	數量	金額			
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	

- 備考 一 前年度ノ著手ニ依ルモノハ其年月日ヲ備考ニ記載スヘシ
- 二 工種ハ竣工シタルモノト雖前年度施行濟欄ニ掲出シ著手竣工年月日ヲ備考ニ記載スヘシ

第三號様式

工事功程表

大正 年(九)月末現在

工種	年度内		著手年月日		竣工年月日		備考
	數量	豫算額	豫定	實	豫定	實	
	數量	豫算額	豫定	實	豫定	實	
	豫算額	數量	實	豫定	實	豫定	

備考 著手遅延シ又ハ功程ノ劣リタルモノハ其事由ヲ詳細ニ記述スヘシ